

世界と結ぶ
マツザカヤ!
世界の優秀品を豊富にとりそろえました……



松坂屋

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

1月放送予定

NHK第2毎週
日曜午前8時~9時

16日(日) 喜多流「安宅」 後藤得三ほか
23日(日) 金剛流「鉢木」 豊嶋弥左衛門ほか
30日(日) 宝生流「東北」「車轍」
近藤 礼ほか

(NHK教育テレビ)
15日(祝) 午前10時30分~12時
能「屋島」 大西信久ほか

大曲そろえ別会能
3月に中日五流能

新しい昭和四十七年を迎えた。初春の演能は、七日の学生能楽連盟能ではじまり、十六日(日)名古屋清韻会発足五十年を記念して別会能は「高砂」「葛城」「安宅」で、それぞれ小冊付の秘曲をそろえ意欲的な番組、二十三日(日)は、親世、喜多の異流の合同能、「緩鼓」は宝生と金剛にしかかなかつたのを、戦後喜多流の演目に加えられた大曲で、東京で喜多実氏上演のほか、中部、関西地区で今



謹賀新年	熱田神宮 能楽殿
謹賀新年	熱田神宮 能楽会
熱田神宮 宮司 篠田 康雄	熱田神宮 宮司 篠田 康雄
権宮司 長谷 晴男	権宮司 長谷 晴男

回が初演という。「求塚」も親世流では、昭和二十六年に復興所演されたものである。これに狂言「鈍太郎」が演ぜられる。

三十日(日)名古屋親衛会主催の別会能は、山本博之氏の来名三十五年、同氏の喜寿を祝しての記念能「屋島」、老女物の大曲「卒都婆小町」、さらに切の「葵上」は芸術院会員梅若六郎氏が所演する。

二月には、大蔵狂言会(六日)

演能カレンダー

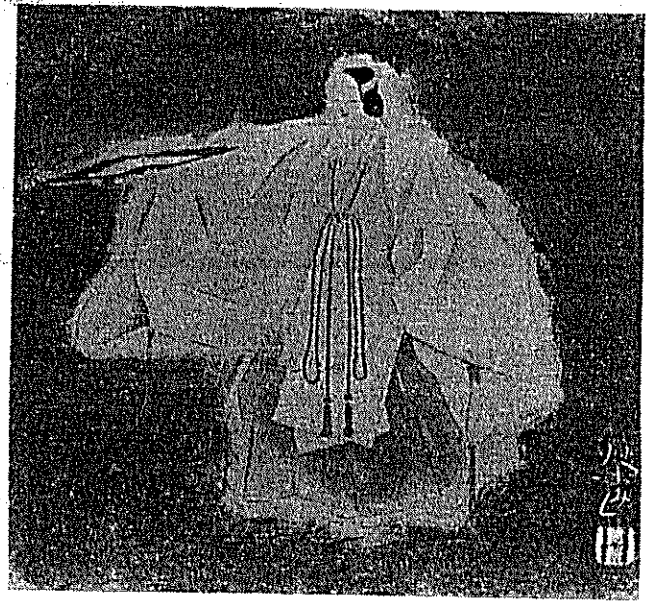
(2月)	(1月)
6日(日) 大蔵狂言会	16日(日) 名古屋清韻会50周年記念(番組③面) (有料)
11日(祝) 宝生会定式能 (有料)	23日(日) 和島富太郎、泉嘉夫、野村又三郎の三人を祝(番組③面) (有料)
13日(日) 親世会定式能 (番組④面)	30日(日) 名古屋親衛会 山本博之氏来名35周年記念祝賀別会能(番組④面) (有料)
20日(日) 梅猶会	
27日(日) 青陽会 (有料)	

大 江 又 三 郎	名古屋 観世九臈会 観世喜之 観世武雄	観世元正	中日文化センター特別教室 一ノ二二一ノ十四	片山博太郎	大 西 智 久 TEL: 〇七三二八五一二七〇 大阪北区道本町十二 大阪能楽会館
増田 雄一 塚本 滋子 有賀 章 長谷川 美智子 高木 美智子 加藤 保弘 青木 武妙 吉田 妙	井上 嘉久 京都府北区紫野下島田町六	大槻清韻会 大槻秀夫 大槻文蔵 大阪市東区上町二番地	幽花会 片山慶次郎 〒603 京都市北区小山下花ノ木町二二 電話 四九二一五三〇三番	藤井久雄 藤井徳三 藤井久雄 神戸市東灘区大塚町二ノ二六 電話 〇五一一四四番	上田照也 株式会社 上田親正会能楽堂 〒653 神戸市長田区大塚町二ノ二六
堀 水 会 林 甲子生 名古屋千種区今池町二ノ四九 電話 〇五二七三二一四一八三	榑 水 会 柴田初太郎 柴田収武	武田 諷 楽 会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	山本博一 山本勝一	藤井久雄 藤井徳三 藤井久雄 神戸市東灘区大塚町二ノ二六 電話 〇五一一四四番	大西智久 TEL: 〇七三二八五一二七〇 大阪北区道本町十二 大阪能楽会館
名古屋 淡交会 橋岡久共	交流会 奥 善 助 東京都世田谷区三軒茶屋二一〇一二二 電話 〇三三二二六三七番	武田 諷 楽 会 武田小兵衛 武田欣司 武田邦弘	山本博一 山本勝一	藤井久雄 藤井徳三 藤井久雄 神戸市東灘区大塚町二ノ二六 電話 〇五一一四四番	大西智久 TEL: 〇七三二八五一二七〇 大阪北区道本町十二 大阪能楽会館

つは、そこ比重がおかれる限り
ともすれば序破急という曲全体の
均衡を破るでしう、危険にあり
からである。
これはこの曲をはなれた能への
均衡を破るでしう、危険にあり
からである。
この曲をはなれた能への
均衡を破るでしう、危険にあり
からである。

千歳富士道周明「嵐山」「実
盛」「巴」「三人静」「俊寛」
「定家」「通小町」「玄象」「葵
上」

本店 熱田区神戸町三四 電話(671) 868618
熱田区新宮坂町一 電話(682) 5598(代表)



能紀行

(16)

朱(あけ)なる美しさ

文と絵 二井栄逸

梅が咲く頃になった。霜雪を凌ぎ百花にさきがけて咲く梅の老木は古武士のような風格がある。こ

壬子年(みづのえねのとし)の占

長谷晴男

今年壬子年にあたる。「壬」は十干の第九位で、五行にあてはめると水にあたる。壬は任、任に通じ陽氣が万物を下に任養(たもちやしなうこと)するの意。

少女のようである。梅の花は、あどけなくほらえむわらべのように、冬の空に迎春の歌をうたいつづける。空を旅する白雲も、すばらしい木枯しも、その歌をきくと爛漫の春がもうすぐそばにきてい

短かい命を精一ばいに咲くいじらしさを和泉式部はこよなく愛したであろうし、花との語らいをつづけた事であろう。きさらぎの陽を浴びる東北院の軒端に梅を植えて

名古屋狂言小劇場

第一回・二月四日

名古屋大舞台、名古屋狂言共同社では狂言のもつ魅力をさまざまに狂言に触れる機会をつくる

賀正

名古屋 橋岡会

橋岡久馬

橋岡久春

田村正諷会

徳島正韻会

鎌倉市長谷桑谷六二九一七

法人 鎌倉能舞台

中森晶三

加藤兵衛

大垣浦声会

浦田保利

下田雄三

壺泉会 嘉夫

邦謡会 梅田邦久

親酒会 芥川秀子

春蔵会 真柄米次

加藤門良会

知水会 服部紗枝

電神会 竹内六郎

犬飼末吉

笹雪会 後藤契雲

竹韻会

武田太加志

鳳鳴会

面作り五十年 島三友能面頒布会

清光会 岡田光紘

風韻会 殿島修二

竹翠会 若松宏守

久田親世会 久田秀雄

鶴恵会 熊沢恵美子

河村一謡会

河村叶石会

河村鉦二郎

鶴声会 丹下三義

松福会 佐藤太俊

緑宝会

演能案内

名古屋清韻会

謹賀新年

名古屋清韻会

眼の両親が正月に十二匹の子を生んだとする。二月にはその子がまた十二匹を生む。かようにして一年に十二匹の子を生む。...

名古屋清韻会 五十周年記念能

四十七年一月十六日(日)午前十一時始
於 熱田神宮 能楽殿

神歌 杉村竹翠 岡田光慈

高砂 西村欽也 高安勝久 寛三島太郎
八段之舞 飯富雅介 福井啓次郎 三島太郎

後見 水田博 柴田初太郎 地謡 坂口信男 今村嘉伸 阿部信之
林甲子生 増田一雄 坂口信男 三島太郎

鉢木 林甲子生 増田一雄 坂口信男 三島太郎

鞍馬天狗 福井道子 近藤幸江 坂口信男 三島太郎

東田村 三島 坂口信男 三島太郎

二人静 殿島修二 後藤孝一郎 鬼頭季信

大槻秀夫 岡次郎右衛門 吉田定男 鬼頭季信

後見 泉世 武雄 地謡 多利和重 長山三郎

熊松川 柴田初太郎 田村勇 泉嘉夫 坂口信男 三島太郎

素袍落 野村又三郎 井上礼之助

弱菊慈童 山本真義 親世武雄

安宅 高安 滋郎 河村総一郎 藤田昭彦
龍流之伝 野村又三郎 佐藤秀雄

附祝言 主催 大槻清韻会

喜多流 和島富三郎(綾鼓 名古屋初演)
和泉流 野村又三郎(鈍太郎) 合同会

熱田神宮 能楽殿
四十七年一月二十三日(日曜日)午後一時

草紙洗小町 殿島修二 近藤幸江
講演 今後の能の在り方について 岡田実

能求塚 西村欽也 田鍋惣一郎 三島太郎

後見 近藤幸江 地謡 多利和重 阿部信之
殿島修二 水藤元三 坂口信男 三島太郎

放山 栗谷能夫 坂口信男 三島太郎

熊半下 長田政允 井上礼之助 佐藤友彦

狂言 鈍太郎 野村又三郎 井上礼之助 佐藤友彦

能綾鼓 高安 滋郎 河村総一郎 藤田昭彦

後見 長田陽二 地謡 新熊本 二井栄逸
富田陽二 山本才太 大島政允

入場券 附祝言
A.....¥ 2,000
B.....¥ 1,500
学生券...¥ 700

解説は、竹尾邦太郎氏、番組は次のとおり。電話(三三二)一四三〇

謹賀新年

<p>緑雲会 東京都港区西麻布四一八二八 野口緑久</p>	<p>近藤乾三 東京都豊島区巢鴨五二二三一八</p>	<p>水道橋能楽堂 東京都文京区本郷一五五九 電話(〇三三) 四八四三 五七五二</p>	<p>宝生九郎 事務所・愛知県愛知郡和合ヶ丘 戸田秀雄方</p>	<p>木田光洋 東京都中野区上高田二の二五ノ二 電話(三八六)二六四一</p>	<p>金春欣三 伊勢市宮町一丁目一四一七 中村富次 電話〇五九六三(三)二四五六番</p>	<p>梅若猶彦 伊勢市宮町一丁目一四一七</p>	<p>梅若盛義 伊勢市宮町一丁目一四一七</p>	<p>梅若猶義 伊勢市宮町一丁目一四一七</p>	<p>橋香会 梅若万三郎 梅若万紀夫 梅若万佐晴</p>	<p>研能会 梅若万三郎 梅若万紀夫 梅若万佐晴</p>	<p>梅若六郎 景英</p>	<p>竹韻会 武田太加志 鳳鳴会 名古屋市中村区井深町一七ノ七五 電話五七一〇四四七番</p>	<p>名古屋修諷会 名古屋市中区葵町九 吉田義正方 電話(六二二)三三二八番</p>	<p>名古屋清韻会 名古屋市中区鳴海町池上十六ノ一 加藤勝利方 電話(六二二)三三二八番</p>	<p>竹腰勝一 吉田俊彦 佐野正治 金沢市泉野町四丁目二二一四</p>	<p>高野瀬透 伊勢市宮町一丁目一四一七</p>	<p>伊勢金春流 伊勢市宮町一丁目一四一七 中村富次 電話〇五九六三(三)二四五六番</p>	<p>豊島弥佐衛門 豊島三干春 京都市東山区知恩院山内林下町</p>	<p>金剛流春鴛会 山田仁三郎</p>	<p>中部金剛会 山田仁三郎</p>	<p>吟風会 伊藤鉄之進 大川嘉奈子</p>	<p>清風社 金剛流 大塚一 名古屋市中区千種区城山町三丁目 電話(七五二)五三八九番</p>
---------------------------------------	--------------------------------	--	--	---	---	------------------------------	------------------------------	------------------------------	--	--	--------------------	---	--	--	---	------------------------------	--	--	-------------------------	------------------------	--------------------------------	---

四甲市親世九早会
大坂市東区高麗橋詰町五三
名古屋市東区高麗橋詰町五三
電話(三三二)一四三〇

山本博之喜寿
来名三十五年記念
名古屋観衛会祝賀別会能

四十七年一月三十日(日)午前十一時始
熱田 神宮 能 楽 殿
能 組
梅田 邦久
山本 勝一
屋 島 西村 欽也
大 事 飯富 雅介
間 奈須 語 野村 又三郎
熊 野 ロンギ 舞
難 波 仕 舞
東 北 衣キリ
羽 衣キリ
鞍馬 天狗
金 札
山本 博之
卒都婆 小町 岡治郎右衛門
一度之次第 森 晴蔵
腰 折 狂 言
老 松 仕 舞
田 村 松
笠之 段
船 弁慶
菊 慈童
山本 順之
梅若 六郎
葵 上 高安 滋郎
空之折 高安 勝久

河村 総一郎
福井 啓次郎
藤田 昭彦
増田 一雄
林 甲子生
久田 秀雄
杉村 竹翠
河村 鉦二
柴田 収武
加藤 総兵衛
海尾 乃武
大倉 長十郎
藤田 六郎兵衛
井上 松次郎
佐藤 秀雄

柴田 初太郎
上田 照也
山本 真義
梅若 景英
大槻 秀夫
寛 鉦一
田鍋 惣一郎
鬼頭 八郎
三男

附祝言 会員券
指定席 三〇〇〇円
自由席 一、五〇〇円
二階席 一、五〇〇円
主催 名古屋観衛会
名古屋宝生会定式能
二月十一日(祝)午後一時始
熱田 神宮 能 楽 殿

素齋 弱法師 宝生 九郎
野口 操久 辰巳 幸
能 高 砂 高安 滋郎
内藤 泰二

第六巻 海王(海大)
菅原良朝の頃、大徳冠藤原鎌足
公の御孫にて、房前(ふさぎ)
の大臣が、その御母は讃岐の国志
度の浦の海人(あま)であった由

観世会定式能
四十七年度初回
二月十三日(日曜日)午前十一時始

熱田 神宮 能 楽 殿
能 組
柴田 初太郎
吉田 定男
田鍋 鉦一
地謡 青木 武弘
竹内 六郎
塚本 秀雄
高安 滋郎
佐藤 秀雄
福井 啓次郎
谷口 喜代三
福井 啓次郎
寛 三男

佐波 狐 野村 又三郎
山 北七セ 野村 四郎
東 北七セ 野村 四郎
国 栖 藤井 久雄
羽 衣 福王 茂十郎
和合之舞
後見 柴田 収武
観世 元正
林 想 (十分)

河村 総一郎
柳原 富司忠
水藤 元三
野村 四郎
藤井 徳三
観世 元信
高野 瀬
藤井 四郎
徳三

鞍馬 天狗 西村 欽也
白頭 井上 松次郎
後見 塚本 秀雄
観世 元正
地謡 岡田 光三
真田 三義
丹下 邦久
後藤 孝一郎
観世 元信
藤田 昭彦

野村 万蔵師 受賞
三宅 藤九郎師 受賞
芸術祭大祭の個人賞
茂山千作師が受賞
京都市文化功労者
和泉会別会の演技で野村万
蔵、三宅藤九郎の両師が受賞され
た。

文化庁の芸術祭執行委員会(高
橋誠一郎委員長)は、旧暦十二
月十日、東京・上野の日本芸術院
会館で総会を開き、四十六年度の
芸術祭大賞と優秀賞を決めた。
今回の受賞者の中で、熊谷潤保
と、野村万蔵、三宅藤九郎の
二人が、大賞を受賞した。

謹賀新年

今井 幾三郎
今井 清隆
京都・金剛流・華月会

広田 後援会
広田 陸一
幸 稔

菊 扇会 東京名古屋
広田 泰三
泰 能

林 鉄郎
大阪 喜多会
和 調 会
和島 富太郎

福岡 周斎
高安流白水会
和泉 太郎

謹賀新年
幸 國次郎

久保 田千三郎
芦屋市吳川町五ノ一五
電話(〇七九七)三三三二八四

高安流助方
山崎 俊輔
福王 茂十郎
福王 王
福王 信輝
福王 信輝
西宮市名次町六ノ二二

森 茂好
藤田 六郎兵衛
藤田 昭彦
藤田 龍吟 会

寺井 政数
東京世田谷区世田谷四十三二五
電話(四二〇)六六七六番

京都高安会
岡治郎右衛門
京都府乙訓郡長岡町
開田野野一十一一七
電話(〇七五)九三一二五二三番

高安流白水会
和泉 太郎
東京都品川区三葉二一八十二
電話(七八六)四〇九二番

谷田 宗二郎
幸 祥光
茂山 千作
茂山 千五郎

能高 砂 野口 禄久 高安 滋郎 辰巳 孝

公の御孫にて、居前(ふさぎ)の大臣が、その御母は讃岐の国志度の浦の海人(あま)であった山を閉き、その跡を尋ねて、追善の供養をすべく、この浦へ来た所一人の海人に出会い、色々物語の末に、次の事柄を知った。

それは自分の父即ち鎌足公の千息で、藤原不比等(ふひと)一名淡海公の御孫の光治女(こうはくによ)という人は有名な美人で、唐土(もうごし)今の中華民国)の高宗皇帝の御后に立たせられたが、御氏寺の宗良の興福寺へ、三種の宝物を寄贈せられる事となった。

その宝物とは華原誓(かげんけい)酒浪石(しんせき)、而向不背珠(めんこうふはいのたま)の三つであって、船に積んで万戸と申す人がこれを守護し、通々の波濤を越えて、この日本へと向かった。この事を龍宮の龍神が知り

各地だより

石川県立能楽文化会館竣工 15日落成記念能

六公園成業閣前に工事が進められていた金沢の新能楽堂は、「石川県立能楽文化会館」と名づけられ、新春一月十五日(祝)に、金沢能楽会主催により舞台披露が催されることになった。

新能楽堂は、近代建築の粋をこらし、また旧能楽堂の絵巻舞台がそのまま移築されて見事な調和をみせている。

落成披露は、十四日午前十時から開演式を挙行、十一時から、こけら落しの祝能、鶴亀(宝生宗家)が催される。

謡曲雑話 西村弘敬

して此子を世継ぎの位につける約束をして、海人に宝珠を取返す様に命ぜられ、海人は我子の出世の為に命を捨てて遂に珠を取り返した。この様子は謡の珠の段に詳しく書かれてあり、能の時には珠を取り返した有様を美しく舞う見どころであります。

文化庁の芸術執行委員会(高橋誠一郎委員長)は、旧暦十二月十日、東京・上野の日本芸術院会館で總會を開き、四十六年度の芸術祭大賞と優秀賞を決めた。

京都市文化功労者 京都市の文化、芸術の発展に寄与した人をたたえる昭和四十六年度京都市文化功労者五人を十一月一日決定。能楽界から太鼓流狂言

端溪硯は至極緻密な分子の結晶した泥岩で、その面は堅からず柔かからずして、至極滑らかで墨のおりが理想的によいので水墨画を描く画家は争って是を用いて居るのである。試みに石の面に口を当てて強く息を吹きかけると、面に生ずる水玉で墨をすすると葉書一枚位は充分書き得るので、これが水無くても使えるという事かとも思える。又華原誓という打ちならし板も、銅の合金に純金を多く含ませて削て、その構造も部分的に厚薄を付けて造られると、鳴り方が良いとの事で、こんな特種の品が宝物にあげられて居たものかと思

次のおり

能「翁」宝生九郎、千歳佐野前能「高砂」佐野正治、ツレ佐野由於狂言「末広がり」殿村与作 能「東北」大坪十喜雄 能「安宅・延年之舞」宝生英雄、子方島村明弘、ツレ島村樹、金森孝介、大西隆三、千章修、供田清作、佐々木英一、服部恒男、渡辺他賀男 狂言「鶴亀」山田太佐久 同「八島」岸川小太郎 同「難波」渡辺荷之助 狂言「釣針」野村万之丞 能「小狼治・白頭」辰巳孝 なお能楽文化会館の住所は、金沢市石引四丁目一八一三(成業閣前)

広田後援会の満二十周年記念能

金剛流・広田後援会 (広田陸一師、広田泰三師)は、本年創立二十周年を迎え、七二年記念能として春の別会を四月八日、秋の別会を十月八日、京都・金剛能楽堂で開催する。

サンケイ観世能

サンケイ観世能は二月二十七日(日)大阪サンケイホールで次の番組で催される。

神戸能楽堂の上棟式挙行

神戸地方能楽愛好者の宿願であった神戸能楽堂の上棟式が、昨年十一月二十六日、湊川神社境内の建設用地で厳かに執り行なわれた。式典には能楽側を代表して親正宗家が玉串を奉奠した。

演能写真

〔芸能スナップ・カラー・8ミリ〕 〒602 京都市上京区北野上七軒 ウシマド写真工房 電話〇七五(四六二)一三四一

福岡 周 齋

幸 圓次郎 東京都中野区中央四一四七一 電話(三三二)九四一三番

幸 義太郎 東京都中野区丸山二二二四 都営丸山アパート一三〇一

桂 会 岐阜市松原町 後藤方

幸 友会 福井啓次郎 福井 良久 柳原富司忠

大倉 長十郎 正之助 西宮市松園町一三三三 TEL(〇七九〇)三三三五番

亀井 俊一 忠雄 実保雄

山本 敬一郎 大阪府泉南郡南海町貝掛 南海団地西3の9

飯島 六之助 飯島 忠 金沢市香林坊二ノ八ノ八

谷田 宗二朗 東京都品川区三葉二一八十二 電話(七八六)四〇九二番

吉田 定男 前川 善雄 京都市右京区御室芝罘町一ノ六

長生 会 鬼頭喜太郎 鬼頭喜太郎

野崎 太郎 池田 茂 東京都豊島区駒込七七一六

三宅 藤九郎 三宅 右近 東京都豊島区北大塚一四四一六

和泉 保之 野村 万蔵 東京都豊島区南長崎六一五一四

山口 義郎 助川 竜夫 名古屋 和泉流 狂言 共同社

小寺 金七 京都市上京区油小路梅木町上ル

大蔵 弥太郎 大蔵 基嗣 東京都世田谷区池尻3一9一22 電話03(413)五九六八番

幸 祥光 京都市東山区八坂上町三七六

茂山 千五郎 善竹 忠一郎 神戸市東灘区御影町那家大蔵二

茂山 忠三郎 吹田市山手町一丁目二十二一 電話06(388)三五二八

朝日文化センター 雛子教室 田鍋 惣一郎 寛三男

狂言やるまい会 野村又三郎 名古屋 昭和区南山町12-7 電話(八三三)八〇七一

**期待される銀行
ご奉仕する**

創立 明治10年
本店 岐阜市

十六銀行

能楽の友

題字は熱田神宮 藤田富司筆

発行 能楽の友社
名古屋市中千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
— 部 35円

東京・観世会館建設進む

東京・渋谷区松涛町に建設がすすまれている新観世会館は、一月二十七日、本舞台の上棟式を執り行。名称は「観世能楽堂」と内定されている。

なお工事は四月十一日(火)の落成式を目標に進められ、十五日、十六日に舞台披露能、十八日から二十三日まで六日間、舞台披露日加勢能が予定されている。

湊川神社能楽殿 今春三月に完成

神戸地方能楽愛好者の宿願であった湊川神社能楽殿は既報のように昨年五月着工、工事がすまわれ、本春三月完工して舞台披露が催される予定である。

総工費は約一億円、能楽協会神戸支部、神戸観世会では、一口二万円、寄付金接受を付けている。

各地だより

フエステイバル能

第十五回フエステイバル能は四月十六日(日)午後一時半から大阪中之島・フエステイバルホールで行なわれる。

番組

俊寛 宝生 英雄
舞臺子 支 梅若 雅俊

能二人静

梅若 盛義
狂言 梅若 猶義

能春日龍神

磯 茂山 千作
金剛 巖

神戸

追善能
観世流・上田照也師は
亡父隆一師二十三回忌追
善能を二月二十日(日)

2月放送予定

NHK第2毎週
日曜午前8時~9時

- 13日(日) 素謡・宝生流「盛久」宝生英雄ほか
- 20日(日) 素謡・金春流「國柄」金春信高ほか
- 27日(日) 素謡・観世流「田村」藤井久雄ほか
狂言・大蔵流「餅酒」善竹忠一郎ほか
- 3月5日(日) 「隅田川」武田太加司
- 3月12日(日) 「百万」武田 光雲

演能カレンダー

〔2月〕

- 6日(日) 大蔵狂言会 (有料)
- 11日(祝) 宝生会定式能 (有料)
- 13日(日) 観世会定式能 (有料)
- 20日(日) 梅 猶会 (有料)
- (番組①面掲載)
- 27日(日) 青陽会 (有料)

〔3月〕

- 5日(日) 名古屋観世九阜会 (来場歓迎)
- (番組①面掲載)
- 12日(日) 名古屋観世会発会記念能 (来場歓迎・番組②面掲載)

〔4月〕

- 2日(日) 龍吟会
- 23日(日) 狂言 やるまい会公演
以上 熱田神宮 能楽 殿
- 3月5日(日) 喜多流 長袖会
昭和区・河村舞台(番組③面掲載)
- 3月26日(日) 中日五流能
中日劇場(番組④面掲載)

金剛能楽堂の修復

京都

京都・室町の金剛能楽堂は、全国の公開能楽台のなかで最も数少ない木造建築であるが、このほど百年ぶりに改修されることになり、工事が進められている。

同能楽堂は、これまで明治二年と三十七年に改築されたが、その老朽もひどく、全面的に建て直すか、改築するか検討されてきたが、京都文化財保護委員会で、同能楽堂をとりこわすことなく保全した修復と決定、金剛能楽堂保全会(吉田忠氏)を中心に総工費一千万円で五カ年計画で修復工事がすすめられることになったものである。

第二回大蔵流の会

大蔵流狂言なご

大蔵流狂言なご会では二月六日熱田神宮能楽殿で第二回大蔵流の会を開催、「仁王」「伯爵ケ酒」「六地藏」「姑善」など狂言十番ほか小舞十数番。

名古屋 梅猶会能

二月二十日(日) 午前十一時始
熱田神宮 能楽 殿

組

- 番 熱田 芳周
- 仕 城 舞
- 小 小鍛治 大蔵賢次郎
- 葛 能 芳周
- 子方 松久和代
- 雲雀山 熊沢恵美子 西村 欽也
高安 滋郎 飯富 勝久 飯富 雅介
- 二人静 舞
- 舎 利 舞
- 実 盛 岡田 朗 後藤 孝一 藤田 昭彦
- 杜 若 舞
- 太子手鉾 狂言 佐藤 孝一 佐藤 秀雄
- 田 村 舞
- 源氏供養 梅若 猶義 河村 総一郎 寛 三男
- 野 守 梅若 修一 高安 滋郎 河村 総一郎 福井 啓次郎 助川 亮夫 天地 之 声 大野 弘之

謡曲名所めぐり

本紙主催謡曲名所めぐりは、恒例の行事として毎回多数のご参加がございましたら、プランづくりの参考にさせていただきます。

先代観世喜之師 三十三回忌追善 春季大会

三月五日(日) 午前九時三十分始
熱田神宮 能楽 殿

- 弱法師 山田 照也 寛 一 後藤 孝一 鬼頭 幸信 高安 滋郎 井上 礼之助
- 狂言 地蔵舞 井上松次郎
- 雲林院 西村 欽也 河村 総一郎 助川 亮夫 福井 啓次郎 寛 三男 善知鳥 柴田 収 武 久田 秀雄
- 熊坂 西村 欽也 吉田 定男 池田 希世 柳原 富司 鹿取 希世
- 翁
- 伊藤次郎左衛門 河村 総一郎
- 千歳 観世 武雄 幸 義太郎 寛 三男
- 三番叟 野村 又三郎 福井 啓次郎
- 面箱 佐藤 孝一
- 舞 鈴木 胡蝶 頼 政 後藤 新蔵
- 海士 段 中尾 弄濁 阿 立 瀧 山 村 昌子
- 井 筒 舞
- 松川 野垣 慶子 阿 立 瀧 山 村 昌子
- 小袖曾我 曲省ク 西村 健吾
- 花 狂 舞
- 連 九 浅谷 朝子 田 村 切 佐藤 千代子 津 中 滋美 田 中 仁 田 中 聖士
- 熊 野 田 中 滋美 田 中 仁 田 中 聖士
- 獨 独 淺井 春次 清 経 萬 中村 定子 田 中 幸三郎
- 屋 舞 森川 六郎 中村 幸三郎
- 遊行 柳 後藤 給子 清 経 萬 中村 定子 田 中 幸三郎
- 富士太鼓 水野 あや子
- 当 増田 一雄 中村 つゆ 加藤 春二
- 吉野天人 余語 孝子 高安 滋郎 山本 敬一郎 鬼頭 八郎 西村 勝久 高安 勝久 福井 啓次郎 藤田 六郎 兵衛
- 隅田川 子方 高木 美智子 吉田 市郎 矢橋 浩吉 西行 接 舞 伊藤 睦子 通 小 町 大 鷲 明子 磯 尚子 塚田 常子 唐 船 橋本 とも
- 狂言 六地藏 井上松次郎 観世 喜之
- 舞臺子 融
- 舞臺子 松 風
- 竹内 六郎





行紀能 (17)

舞のなかの落花

逸栄井二と絵文

日本人がさうであるとは限らない... 花を生けるにもやはり桜が一番である。私共の流派には桜散景色之伝といつて、古木抜けに生けた...

春の風がさぐりと雪のように桜の花びらが舞う。桜の国の桜の園。やはり日本にはもっとも山にも野にも町にも桜がふえて...

和島、野村、泉合同会

第三回立合能を見て

前田 満穂

この合同会も三回を重ねた。関係者の意欲に敬意を表したい。まだ三回で、こんなことを...

とり立て、悪いというところはない。この演者は、いつもそなただ。目立ったミスなど人ではない。が、強いて云えば、...

あれこれそれは桜の国の桜のそと... 九六〇年(天徳四年)、皇居紫宸殿の前庭に焼けた跡に...

名古屋観劇昭会

三月十二日(日)午前九時半始

Table listing theater companies and performers: 能 高砂, 能 千手, 能 船弁慶, 能 船弁慶, 能 大原御幸, 能 道成寺, 能 隅田川, 能 求塚, 能 伊勢, 能 金春流奉納能, 能 卷絹, 能 松風, 能 小鍛冶, 能 喜多流奉納能, 能 神, 能 高砂, 能 千手, 能 船弁慶, 能 大原御幸, 能 道成寺, 能 隅田川, 能 求塚, 能 伊勢, 能 金春流奉納能, 能 卷絹, 能 松風, 能 小鍛冶, 能 喜多流奉納能.

拍子謡についで

その29... 〇△×△×〇△×〇△×〇△×... ナカガシの影で。あすの朝まで。

狂言 薩摩守 野村又三郎... 後見 山中 義雄... 地謡 沖田 三郎...

長袖会

三月五日(第一日曜日)午前十時始
名古屋昭和区前山町一之三三 河村舞台

Table listing performers and roles for the '長袖会' (Long Sleeve Meeting) event. Roles include 素謡 (Sōryō), 仕舞 (Shimai), 舞踊 (Maie), etc. Performers listed include 月宮殿, 花鏡, 鞍馬天狗, etc.

観能雑感

「名古屋清韻会」
創設五十周年記念

三曲それぞれに、小書(異色演出)のついたこの日の演能の一番の興味は、演者がこれら独特の演出をいかに表現するかであったであろう。

Table listing performers and roles for the '中日新開会' (Nichi-Nichi Shinkai Kai) event. Roles include 素謡 (Sōryō), 舞踊 (Maie), etc. Performers listed include 求塚, 度, 浦, etc.

さて「高砂」は松と和歌に象徴された「時」と「所」を越えて通い合う心を内容とし、それが松の精住吉の明神に具現化され、しかもしっかりとした構成を持った優れた神能物とされている。小書(八段の舞)は神体の化身の神聖さを一層強調している。

友社
本町2-20
7984
36393
400円
500円
35円



会50周年記念能
(有料) 嘉夫
の三人を観る会
(有料) 山本博之喜寿
会祝賀別会能
(有料)

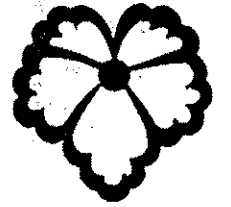
重要無形文化財

中日五流能

Table listing performers and roles for the '重要無形文化財 中日五流能' event. Roles include 素謡 (Sōryō), 舞踊 (Maie), etc. Performers listed include 花月, 丸, 海, etc.

前半の抑えた演技に見られた人と神の矛盾から生じたコンプレックスは、これをきわだたせた深山の雪、月光という情景、そしてとりわけ序の舞に代った大和舞のうちに溶け込んでしまっていたのであろう。たゞ留のワキ(岡次郎右衛門師)の合掌に何かしっくりしないものを感じたのは、ワキの個性からくるものか定かではない。

謹賀新年
片山博太郎
大西智久



御料理 あつた菜軒
本店 熱田区神戸町三四 電話(071)868618
熱田区新宮坂町一 電話(071)55998(代表)

私の健康法につながる 発声法 (14) 柴田初太郎
「ア」は舌で一番大切な音であります。普通話の時は必要ない為余り大きな口を開けて、アと発音する人が少ない現在であります。

朝日文化センター
囃子教室
講師 田鍋惣一郎
寛三男

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市中千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
— 部 35円

日本能楽団力演能 ミュンヘン オリンピック芸術祭

ことし八月ドイツ・ミュンヘンでオリンピックが開かれるが、競技に先立って六月十五日から十月一日までオリンピック芸術祭が催される。
この期間中、八月二十八日から九月五日までの九日間は、日本国際文化振興会派遣で渡独、演能の日本能楽団のメンバーは、二十五人、シテ方では、宝生流宗家宝生九郎、宝生英雄、本間英孝、大坪十喜雄、野口操久、ワキ方は宝生弥一、宝生開、狂言方は和泉保之、囃子方は藤田大五郎、鶴沢寿、安福福雄、宇野親一の諸師が、

フランスで上演される 新作能女と影

7月にクロ
ーデル学会
泉嘉夫師ら渡仏

フランスの詩人、劇作家でありまた外交官でもあった故ポール・クロデル氏が、駐日フランス大使として来日していたときの作品「女と影」が新作能として、クロデル生誕百年記念の昭和四十三年に、観世流・泉嘉夫師によって大阪、名古屋で上演され、大きな反響をよんだことは当時本紙(四十三年十月号、十一月号)で報道したが、ことし夏クロデル氏のシヤトール(城)があるフランスのブラングで、クロデル学会が開催されるに当たり、現地で「女と影」が上演されることになり、泉嘉夫師らが渡仏の準備をすすめている。

演能カレンダー

- 【3月】
5日(日) 名古屋観世九奉会 (来場歓迎)
12日(日) 名古屋観照会発会記念能
- 【4月】
2日(日) 龍吟会
16日(日) 観世会定式能 (番組①面掲載)
22日(土) 嶺風会
23日(日) 信陽会・也留舞会社中発表会 (来場歓迎・番組②面掲載)
狂言 やるまい会 第13回公演 (有料・番組③面掲載)
29日(土) 幸友会
30日(日) 大槻清順会全国大会 (来場歓迎)
- 【5月】
3日(祝) 壺泉会
5日(祝) 興会
7日(日) 邦謡会
以上 熱田神宮 能楽殿
3月26日(日) 中日五流能
中日劇場

3月放送予定

- NHK第2毎週 日曜午前8時~9時
19日(日) 素謡・喜多流「湯谷」友枝喜久夫ほか
27日(日) 素謡・金剛流「鞍馬天狗」金剛殿ほか
4月2日(日) 狂言「奈論」野村万作ほか
喜多流「千手」喜多節世ほか
4月9日(日) 観世流「求塚」藤波順三ほか
- 【テレビ】
3月20日(祭) 午前9時~10時
能・宝生流「藤戸」高橋進・宝生弥一

紅葉	班女	弱法師	俊寛	梅枝	小督	当麻	胡蝶	杜若	弱法師	松風	三輪	菊童	葛城	安宅	草子洗小町	紅葉狩	野守	楽守	狸人	海人	魚説法	能楽	故小島鉄次郎	故金森準三	
田中きんこ	竹下 穂子	赤間 鎮雄	坪内 貞博	村田 京子	三村 恵子	村瀬 つね	山森 幸男	鈴木きくゑ	浜村 桃衣	加藤 歌子	戸田 和子	橋本 とも	小柳 寿子	宇佐美みゆき	中村智津子	比良 優子	安田 俊子	高田 真六	小田しげ子	井上礼之助	井上松次郎	吉田 定男	福井啓次郎	福井啓次郎	
後藤孝一郎	吉田 定男	福井啓次郎	河村総一郎	大野 洋一	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎

観世会定式能(第二回)

梅ケ枝	玉之段	上之出	空之折	後見	梅田 博之	山本 博之	谷行	龍太鼓	伊文字	雲雀山	清経	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久	梅田 邦久
山本 勝一	梅若万紀夫	西村 欽也	高安 勝久	佐藤 貞博	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	山本 勝一	
河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	河村総一郎	

本 店 熱田区神戸町三四 電話(671) 868618
熱田区新宮坂町一 電話(682) 5598(代表)



小癒見のスケッチ

能紀行 (17)

小癒見 (こへしみ)

文と絵 二井栄逸

両手をどんなに大きく大きくひらけても... 小癒見の詩にも...

新作狂言「夢枕」

NHK音楽祭で上演

放送記念日の前夜祭といふべきことしのNHK音楽祭は、三月十三日に幕を開ける...

拍子謡について

の現実を超越することが出来るのである。そして、世の多くの人達を感動させることが出来るのである...

能の中でも能面ほど大事なものは無い。私達はこれを神聖視さしている...

能面が創られてきた順序を調べて見ると、先ず、翁が創られ、次に小癒見(こへしみ)のよう...

竹韻会素謡会 19日楽風舞台で 竹韻会(杉村竹翠師)では、きたる三月十九日午前九時半から...

明治以前の各藩の能の流儀

富岡伸吉

かつて私は調査の必要上、各藩家々に明治以前の能の流儀についておたずねしたが、その回答を讀者にご紹介したいと思う。

能は四座一流で、脇も進藤、春藤、高安、福王、下懸り宝生の五流。宝は春日、森田、一噌の三、小鼓は幸、幸清、大倉、観世新九郎の四、大鼓は葛野、高安、金春、宝生三郎の四、太鼓は観世、金春の二、狂言は大蔵、鶴の二、皆それぞれ宗家である。

加賀(前田) 藩は金春、宝生(波吉) 脇は高安、宝生の二、笛は一噌(島田) 藤田、森田の三、大は葛野、金春、石井の三、太鼓は金春、観世の二流。

京都 20周年記念能 師は金剛流の柱石として東西に活躍されているが、広田後援会が昭和二十八年発足して

信誼会 社中発表会 (第七回)

四月二十三日(日) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

狂言 やるまい会 第十三回公演 四月二十三日(日) 午後三時三十分始 熱田神宮 能楽殿

茶壺 野村万作 野村万之丞 井上礼之助

千切木 野村万之丞

社

観能雑感

「山本博之師喜寿 祝賀別会能」 N 生

衆知のとおり、能には好んで扱ったと言え程「若い世界」をテーマにした曲が多い。その理由を別として、演能により若い世界を意識せられ、あるいは若い世界を意識して生きる者にとっては深刻なテーマであり、人をいさゝか憂鬱にさせ出来るなら忘れていた孤独な世界である。しかもこの曲は、若くは非常に難しい曲とされている。

*私の健康法につながる

発声法 * (15) 柴田初太郎

子音カキケコについて申し上げます。この子音には前に準備の字がありませんから、一字一字音を切つて、母音の発音と同様に息を呑み込んで発音するのであります。

間があり、音が切れるのであります。また残りのナマヤラフの五行は必ずしも呼吸の内ではつながりません。ナはNであり、即ち「ン」であります。一字一字をつなぐ所は出来る限り細く切る。字も針先と針先の様に切るのが理想であります。それ故に一字一字の数を相成ります。これは仲々むづかしい理想であります。練習すれば出来ない事はありません。

又節のゴマ点にイ(色)のない場合は、生み字は絶対に出さぬ様に練習する事があります。そして字は並べない様に注意する事が大切であります。一字一字息を呑み込むようにして横隔膜の下動に依つて自然に出る切れる音で練習して下さい。

以上は何れも仲々困難な理想であります。出来ぬと諦めないで理想に近づこう努力して下さい。横の「ア」行カサタナハマヤラフの九字は必ず欠伸して腹まで息を呑み込み横隔膜を下げる事より始めて下さい。これが私の理想に依る健康法の行法であります。

即ち欠伸に声をつける練習をして腹式呼吸を早く致しますと、抱腹絶倒の様に横隔膜は上下動します。但息を呑み込み下げますと、腹圧が自然に上ります。故に丹田に力が籠り力強い息となります。必ず効果が願われます。それ故に下げるのみで上げる必要はありません。

以上申し上げました方法は、趣味のお話の方々にその必要はない訳ですが、無病息災を願う方々のためには、是非ともご実行して頂きたいと思ひまして、私の所信を述べました次第であります。

快便快食に徹して頂く事を願っております。頭を整理して発音の時は頭の動かぬ様に頭を引いてください。腰を引く時に頭の動く人が相当ありますので念のため申添えます。

下腹に力が入り横隔膜が下がりましたら、第一の進歩であります。但し食事後の練習は休んでください。健康上善が伴います。十五分か二十分は休まないで胃の調子が狂います。

この日の演能の「卒都婆小町」文字通り百才の老いた小町の内面世界は五十一才で亡くなった作者観阿弥にとっても、わかるはずはなく当然の事ながら意識された想像された世界である。そして作者の舞台を眺める視点は、回想に沈めば深草の少将の怨霊に悩まされる現在と、あるいは乞食と成り果てた山本博之の過去の現在とに對して、たしかに「これに就けても後の世を、願ふぞ真なりける」。「花を仏に手向けつ、誓りの道に入らうよ」と救いをシテに願うせ合掌留にして作品を完結させている。しかしながら原作でもこの日の演能でもその場面は、急に開けていくと言うよりそれまでのリアリスティックな場面のみ込まれてしまつていたとさえ言える。とすれば舞台は定かならぬ老いた老女の世界を観客にも、答えを欠いた問の形で残す事になる。死と生の境に立って、意識はふくれあがったまま、一人

の老女の舞台上に移されたのである。さてこの日の演能では、ワキの次第道行を省いた「一度の次第」の演出で、低く抑えた重みのある囃子方、小鼓(大倉長十郎師)大鼓(瀬尾乃武師)、笛(藤田六郎兵衛師)によって、百年という長くて短かい世帯洋の現在を浮かびあがらせていた。シテ(山本博之師)の一足一は何かを噛みしめる様な運びであった。卒都婆に腰をかけた体を休めているシテは、ワキ(岡治郎右衛門師)に誘われてかつての橋邊さが頭をもたげ、ワキとの卒都婆問答が始まるが、そこにシテの顔に明瞭さがなかった。か、人目を避けた小町との変化は、はっきり見てとれなかった。

と云うのも内容的に少将の怨霊につかれる変化は唐突に生じるのでなく、卒都婆問答は、すでに覚めた心から離れており、狂乱する場面への助定と思われたからである。それはともかくシテは、物寄か

ら狂乱に移る過程を「浄衣の袴か」として二度間をおいてゆつくりと表現していき狂乱の舞を流れる様に舞った。この日のシテは生き生きとした物狂しさとは違つた終始美しい老女であり、その為か老いた世界の深刻さは何故かなかった。美しい狂乱はもの哀しくかえって老いを問ひの形で残す事になった。山本師は昭和二十二年にもこの曲を舞つており、それとの比較が出来ればこの演能は一層興味深かつたであろう。

同時に上演された「屋島」ではツレ「梅田邦久師」がシテ(山本勝一師)を補った好演を見せた。そして何より「奈須語」で語つた野村又三郎師は迫力があり観客を惹きつけて離さず、語り面白さを見せてくれた。

「義上」ではシテ(梅若六郎師)は独特の調を聞かせてくれたがいつもの誇えた表現は見られなかった。最後に山本師の喜寿を祝ひ、御健康をお祈りします。

一九七二年第十五回大阪国際フェスティバル フェスティバル能 四月十六日(日)午後一時三十分始 大阪中之島 フェスティバルホール

友社 本町2-20 64) 7 9 8 4 3 6 3 9 3 400円 500円 35円

観世能楽堂 東京・観世会館建設進む 長川申土上建設

観世元昭師は中日文化センターの特別講座を担当、ことし六年を数え、元昭師の社中で構成され、5回観世(祝賀)の企画有り

名古屋 梅猶会能 二月二十日(日)午前十一時始 熱田 神宮 能楽殿

餅よめ 名物

書店 流元 流本 流宗 流行 流元 流本 流宗 流行 流元 流本 流宗 流行 流元 流本 流宗 流行

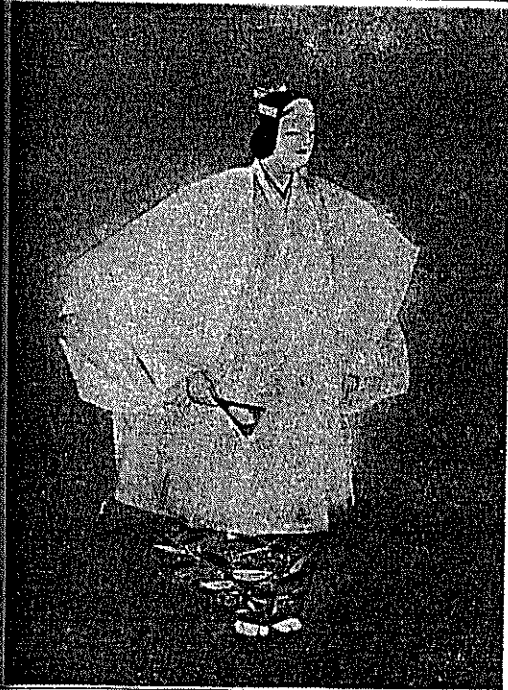
演能カレンダー

- [4月] 9日(日) 久田親正会 (来場歓迎) 16日(日) 親世会定式能 (有料) 22日(土) 猶風会 (来場歓迎) 23日(日) 信福会・也留舞会社中発表会 (来場歓迎) ... [5月] 3日(祝) 壺泉会 (来場歓迎) 5日(祝) 巽会 () 7日(日) 邦福会・鑑賞能 (有料) ... [6月] 4日(日) 下田雄儀会 5日(月) 熱田祭奉納能 10日(土) 和調会 11日(日) 青陽会 (有料) 18日(日) 親世会定式能 (有料) 25日(日) 宝生会定式能 (有料)

能紀行 (18)

月さやかになりき

文と絵 二井栄逸



一雨ごとに暖かになる。つくしが堤にばい出そろった。彼岸桜のつぼみがふくらむ頃になると、毎年つくしは、われもくとその薄青いほろす頭をやわらかい葉の上のせて丘の斜面にせいに整列する。ほろすの味は酒のさかなによい。夕の厨にたばねておかれたいくしの肌はひんやりとつめたたく、山里の春の夜寒をおもわせた。蛙や蜚や親しい間柄であつた昆虫類が、だん／＼姿を消してゆくのに、毎年、春になると、

語りいをつづける。能「松風」は、ぶどう色の海を背景に月光に洗われたような曲で月なくしてはこの能の生命がないという位月が美しい。勿論、松風は、つくしの丘のむこうの活でなく、須磨の浦での物語りである。

平城天皇の御子、阿保親王の第一子で、葉平の兄にあたる行平という貴公子は須磨に佐比呂をされた。みみゆるわしき二人の舞少女を愛した。しかも、その舞少女は姉妹であつた。行平はとこの名にちなみ、姉を松風、妹を村雨となづけたのである。舞少女は塩焼衣を絹の衣に着かえ、ほのかに香をたきこめて行平の側近く仕える身となつたが、それは三年あまりの短かい命であつた。能、松風では、この姉妹が月あかりの中を舞うのである。それはあたかも月明に舞う二匹の蝶といつてもよい。松風にはいくつもの型とこがあるが、私には最も素材で主観的な、寄せては帰るかたをなみよ、蘆辺の田鶴を見、風の音をき、更け行く月こそ、と、左に月を見るところが好きである。

星のかけらが、竹幹にあたつて落下したような澄んだ大鼓の音はかみそりのように研ぎ澄まされた教習のしじまに消え、更けゆく、と、じつくりと全体に月光のさやけさやけとめるところが好きである。そこを絵にして見たのがこの写真である。よせては返す波の音は間断なくリズムをきき、その瞬間に深められた場合、その観念にたつた諸々の感情なり、単物は置かれ、かえつて鮮明に、

NHK第2毎週 日曜午前8時~9時 4月放送予定 16日(日) 素謡・宝生流「西行様」高橋 進ほか 23日(日) 番噺子・親世流「櫻川」大槻秀夫ほか 30日(日) 素謡・喜多流「景清」喜多 実ほか 5月7日(日) 金春流「自然居士」桜間道雄ほか 14日(日) 親世流「山 姥」梅若六郎ほか [テレビ] 4月29日(祝) 午前9時NHK「翁」親世元正ほか 「高砂」親世元昭ほか

Table listing cast members for various plays. Columns include names like 能舟、藤戸、高砂、通小町, and their respective roles and supporting actors.

Third Prize (第三回賞) announcement for the Noh festival. Includes details about the award ceremony on May 7th at 12:30 PM at Noto Shrine, and lists of names and roles.

謡曲のリズム 宇治田政雄 2枚目 楽譜

宇治田政雄

よく使われる言葉に「間が悪い」とか「間が合わない」とか言われます。一定のリズムに乗った音と休止、リズムカルなアクセント等、それらは自然に生れた法則であって「間抜け野郎」と人を痛くつする言葉にまで使われているように、間がはずれた時、何か不自然でものたらず、どこか不自然なものです。

1. 専門に音楽として研究した人が少ないこと。
2. 従来の謡曲(初歩)にはなく経験による自然体得にまかしていること。
3. 小鼓等ハシ方の別種古に依存していること。

我が国が今世界一の産業成長国となつた大きな原因の一つに、技術と知識の合体である、ある外国人が指摘してました。事実最近の技術関係の国家試験制度をみても、必ず実技試験と学科試験とに分離されて行われています。

今までは謡曲の稽古も実技一辺倒でよかったのでしよう。しかし現代はやはり理論の裏付けによって、実技の向上とスピード化が要求されている時代になっていることを知らなければなりません。

風姿花伝に「稽古に対しては徹底して厳しくする、しかし人間としてはかたくなでなくてはならない」とありますし、申楽談儀に「能も当世当世を心得て昔はかく成との心を得べからず」とあります。世阿弥は室町時代すでに修練の尊さと時代の進歩に対処する心構えを持つよう教えられています。

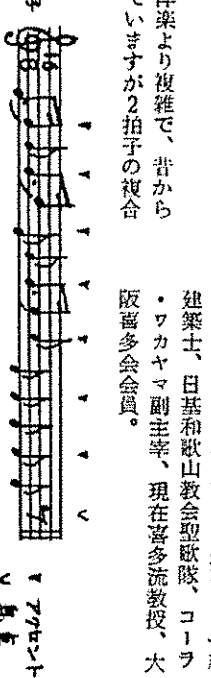
拍子は大切

謡曲のお稽古に拍子は欠くことの出来ない大切なものです。調や拍子に合わせず(拍不合)の処は別として、その他は素謡でもハシ謡でも無視することができません。

世阿弥もその伝書「花鏡、音曲声出口伝、曲付次第の各処に「声を忘れて曲を忘れ、曲を忘れて調子を知れ、調子を忘れて拍子を知れ」と書かれており、そして「拍子は初中後へわたるべし」とお稽古の始めから終りまで、いつも拍子を大切にしなければいけないと説かれていす。では、拍子とはどんなものなのでしょうか。

洋楽の拍子
洋楽では拍子に2拍子と3拍子があったり、一小節(クワリ)の間に2拍子はイテニイ、イテニイと数えて強拍(アクセント)と弱拍(アウフタクト)があり3拍子は、イテニイサンと数えて強拍、弱拍、弱拍の配置となります。この二つの拍子を基本拍子といつて、その他にある4拍子、6拍子、9拍子等は複合拍子(基本拍子の集り)といわれています。そして第一拍が必ず強拍なので強起拍子といわれています。

謡曲の拍子
謡曲の拍子は洋楽より複雑で、昔から八拍子といわれていますが2拍子の複合拍子といわれています。



演能だより

伊勢神宮奉納

7日 大槻清韻会
大槻清韻会(大槻秀夫師)は、さる四月七日午前十時から伊勢神宮内宮能楽殿で素謡、舞踊など四十数番を奉納した。

後寛(長沢ちよ、松尾美美子、山本琴枝)
(舞踊子)天鼓(柴田徳子) 百万(畑部百合子) 雲雀山(中村幸子) 難波(辻本桂里) 弱法師(福岡昌作) 富士大鼓(守部啓子) 鶴亀(草園和子) 碓(水野雅子) 熊野(緒方正重) 天鼓(富士道周明) 安

その時点において或る観念が凝集的に内面に深められた場合、その観念に付随する諸々の感情なり、事物は凝結し、かえつて鮮明に、

謡曲ではこの基本拍子を本地(三ツ地)といっています。臨時拍子に片地(6拍12拍子)トリ地(4拍8拍子)、オクリ地(2拍4拍子)があり、それらの関係は本地1に対して片地2、トリ地2、オクリ地2の順となつていきます。これらは文字数の多い少ないや、リズムの変化を求めて起る拍子であります。この他に四ツ地、三ツオクリ等ごく稀な拍子数もあります。

筆者宇田政雄氏(うじたまさお)は、明治四十三年和歌山に生まる。一級建築士、日基和歌山教会聖歌隊、コーラ・ワカヤマ副主宰、現在喜多流教授、大阪喜多会会員。

宅(藤田秀子) 藤戸(渡辺節子) 高砂(天野登茂子) 遊行柳(緒方満洲重) 山姥(原信夫) 那耶(高松佳也) 三輪(三木美智子) 唐船(浅岡秀子) 熊坂(竹内陽子) ほか仕舞、独吟、一調、独鼓など。番外仕舞 遅々(大槻秀夫師)できわめて盛会であった。

竹韻会素謡会
竹韻会(杉村竹翠師)ではさる三月十九日、昭和区・楽風庵舞台で素謡、仕舞二十数番で中茶謡会を開催した。

写真 楽風庵の舞台での素謡会



Table listing names and roles for various performances. Columns include names like 藤定俊, 遊弱杜, 通小町, 難波, 恋重荷, 求, 藤定俊, 遊弱杜, 通小町, 難波, 恋重荷, 求, 藤定俊, 遊弱杜, 通小町, 難波, 恋重荷, 求.

Table listing names and roles for various performances. Columns include names like 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎, 田鍋惣一郎.

久田観正会
9日能楽殿で開催
久田観正会(久田秀雄師)は、四月九日熱田神宮能楽殿で故上田隆一師二十三回追善会を開催した。

田鍋惣一郎氏逝去
幸清流小鼓方職分・田鍋惣一郎氏は四月八日午後二時五十二分、食道がんのため愛知県がんセンターで逝去された。六十五歳。

田鍋惣一郎氏逝去
幸清流小鼓方職分・田鍋惣一郎氏は四月八日午後二時五十二分、食道がんのため愛知県がんセンターで逝去された。六十五歳。

第八話 屋 嶋 (その二)
義経の軍は勝浦港へ上陸した。時は、五十騎ばかりであったが、ここで松間能通の手下にて、近藤六親家と申す者が、降参に参り、その手勢三十騎ばかりを加え、都合八十騎余りとなったが敵に小勢と見られぬ様に、五、五騎、或は十騎と沢山の分隊になして方々より出て来る様に偽計して、松門の前で廻り集まった。

義経は六音声を揚げて、「二院の御使候非違使五位の財源の義経」と名乗った。続いて田代の冠者、金子十郎、伊勢の三郎と次々に名乗りを揚げた。平家方よりは船の中から射取れや射取れと、遠矢にかけ、又は差矢に射かけるもあり、源氏は渾に揚げてあつた船の陰にかくれて応戦して攻め取つた。そのうちに後藤兵衛実基は、手下の兵を引き連れて入江の海を押し渡り、松門の中へ乱入して、手分けして飯屋屋形あちこちらに火を放ち、忽ち各所に火災を生じて焼き払う、平家の陣では宗盛始め一門各々周章狼狽を極め、幼帝を幸して一同我も我もと争つて

船に乗り込み、沖をさして漕ぎ出した。宗盛は能登の守教に、陸へ揚つて一戦せよと命じた。依つて教経は小舟に乗り陸近く漕ぎ寄せ、弓に矢を蓄えながら、源氏の大将源九郎義経に矢一筋参らせんと呼ばはつた。義経の馬前には伊勢の三郎、佐藤兼信、同じく忠信、江田の源三、其外一騎当千の強兵馬の頭を並べて義経の援護の姿を取つた。

謡曲雑話 西村弘敬

頭蓋がり、義経ここにありと大音聲に呼ばはつた。その時教経は引寄せた強弓よりひよりと矢を放つた。教経は鎧の胸板を射抜かれ、しばしもたまたま馬よりどつと落ちて、義経の身代りとなつた。

私の健康法につながる

発声法 * (16)

柴田初太郎

前回は、子音の発声法についてその要領のみの説明を申し上げました。何事によらず基本が肝要であります。間口の広い達成の積古は、個性の癖がでて行くすえ成功が困難であります。

最初は速歩より始めます。速歩が第一です。丹田より下腹へ力を充ち、大きな石へ腰を掛けた心持ちで、上体を少しも上下動することなく、腰の力で足を運ぶ訓練を毎日行なうのです。足袋の底は足の土つかずの前後が磨り減つて穴があきます。足袋底に穴を明けぬようでは訓練不足であります。万事業は基礎より始めるのが原則と存じます。基礎づくりは努力多い仕事であります。しかしながらこの基礎が芸の向上の第一条件となります。腰の力によって足を運ぶ訓練が仕舞の土台となります。

感じる量の多い原因となります。これを保証します。速歩のため足袋底のすり切れる数の多いほど上手になります。また発声法は腹式深呼吸、横隔膜の上下動を自覚するまで同じことを繰り返して小調を磨いて下さい。

「能紀行」スケッチ
チ三名に贈呈
三月号でお知らせした二井栄逸師の「能紀行」スケッチは、愛読者から多数のお申し込みを頂きました。同人による抽せんの結果、左記の三名の方に贈呈申し上げます。

友 社
本町2-20
7984
36393
400円
500円
35円

日本能楽団が演能

故 小島鉄次郎 三 兩師追善
四月二十日(日)午九時
熱田 神宮 能楽殿

御料理
あつた
蓬菜軒

善親人楽能

ボウリング大会

流行のボウリングに能楽人も挑戦……三月十日午後二時から能楽人親善ボウリング大会が名古屋郊外豊明ボウリング場で行なわれた。

この親善大会の主催は熱田神宮能楽殿、協賛は「城」参加者は二十人、この日は「城」のボウラーが球の運びが上手で、優勝は星野よし子さん、二位は鬼頭喜人氏、三位は藤田昭彦氏、飛び賞は井上礼之助氏。

優勝は主催者側にうばわれたが、若手能楽人はさすがに好記録で約三時間喝采と珍プレーのうちに親善の突をあげた。成績は次のとおり(3回戦)。(優勝)星野よし子さん(城)四一〇点(準優勝)鬼頭喜人氏(太鼓方)三九九点(第三位)藤田昭彦氏(笛方)三九四点(ハイゲイ賞)星野よし子さん一五四点(飛び賞)十三位井上礼之助氏

(任意)二六二点(五位)徳田文夫氏二二六点(七位)鬼頭八郎氏(太鼓方)一七五点(写真)ストライクを目ざして挑戦するボウラー(和服姿で健闘の藤田六郎兵衛氏(三)藤田昭彦氏(笛方)と井上松次郎氏(ハイゲイ)でいかす三位藤田昭彦氏(ハイゲイ)か真直に……と見守る鬼頭八郎氏(和服姿)と藤取希世さん

(写真)表彰式風景、右から飛び賞鬼頭八郎氏、徳田文夫氏、二位鬼頭喜人氏、優勝星野よし子さん、三位藤田昭彦氏、飛び賞井上礼之助氏

本 店 熱田区神戸町三四 電話(01)868618
電話(01)5598(代表)

吉田 定男
山田 定男
河村 一郎
吉田 定男
山田 定男
河村 一郎
吉田 定男
山田 定男
河村 一郎

城

割烹・小料理

●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10)
●電話 241-0248
●喫茶部(豊勢地下ビル)
●電話 731-1128

鳥料理

和風カウターも
ご好評を頂いております。

お気軽にどうぞ……

ふくや中區栄二丁目
一・二・三番
電話三二一
一七二〇
一〇一五五

謡曲のリズム

宇治田政雄

拍子の取り方
次に拍子の取り方についてお話ししたいと思います。

オーケストラや合唱団の指揮者が、タクトを高く上にあげて、第一音の開始を待っている姿をよく見かけますが、第一拍が打ち下す強拍から始められるからで

謡曲の拍子は昔から「雨だれ拍子」といわれていますが、これはどうかと思

拍子を取る初期練習に洋楽ではM・M (メロツェルのメトロノーム) を使います。謡曲でも同じ様に、はじめは規則正しく機械的な等間隔で訓練をいたします

この様に拍子の取り方には色々ありますが、その目的は、一つの区切(小節、一くさり)の連続運動であることがよくわかりましたと思

地拍子とは謡曲の謡句(基本12文字)を八拍子(8拍16拍子)の中はめこむことをいいます。

世阿弥伝書「曲付次第」に「七五、七五と文句を運んでゆく中に拍子を打つわけだが、七五の謡が一句の中に拍子が二段あるようになっている。

その始めの段より二段めの方を、拍子をいくらか寄せ気味にして、隔も軽々さらりと謡うようにするがよい。謡の文句は、五、七五という一句の中に、文字余りと称して、五音節なるべき所を六音節になつてゐるものもあり、七音節であるべき所が八音節も九音節にも及んでゐるものもある。このような文字余りの句はその範囲内で、文字をひろい寄せて謡うようにすべきである。

演能カレンダー

[5月]

13日(土) 一福会・叶石会 (来聴歓迎) (番組①面)

21日(日) 茲水会 20周年記念大会 (番組①面・来聴歓迎)

28日(日) 鳳鳴会大会 (来聴歓迎) (番組②面)

[6月]

4日(日) 下田雄三師社中東海地区連合会25周年記念大会 (番組③面) (来聴歓迎)

5日(月) 熱田祭奉納能 (番組①面)

10日(土) 和 調 会

11日(日) 青 陽 会 (有料)

18日(日) 観世会定式能 (有料)

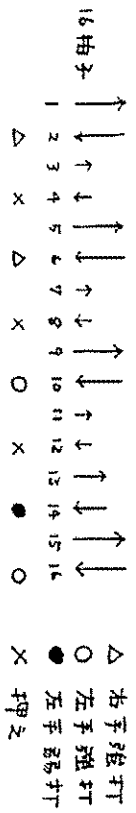
25日(日) 宝生会定式能 (有料)

[7月]

9日(日) 朝日狂言会 (有料)

16日(日) 観 瀨 会

=以上 熱田神宮 能 楽 殿



以上でもわかるように、上の句七と下の句五の十二文字を八拍子の中にどのように割付けるか、又文字の過不足の時はどうすべきかを説明しています、けれども下の句については少しテンポを早めて持ちこたない事を明確に云ってありますが、上の句については具体的にその割付(文字配置)を示されていません。

それ以後現代まで、専門家には復讐され、愛好家からは難しく実用でないものと敬遠されて今日に至っています。けれども各流のリズムは現在でも伝承によってそれぞれ生きています、地拍子研究は謡曲の音楽性からも大切な要素です。改めて現実と密着した研究をしなければならぬと思

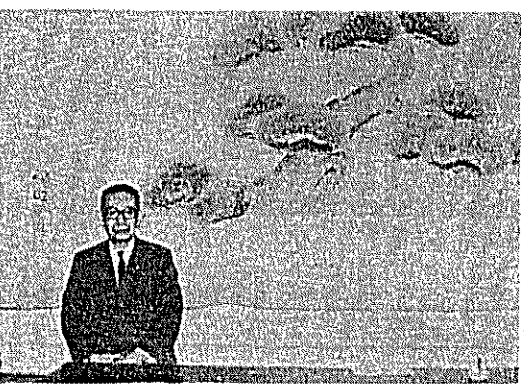
六月四日熱田能楽殿で開催する。成金を賜つております。

通小町 熱田神宮 能楽殿

二十五周年記念大会

六月四日(日) 午前九時始 熱田神宮 能楽殿

Table listing performers and roles for the 25th anniversary event, including names like 松本千冬, 山本武夫, 北村利弥, etc.



此水会春季素謡会
此水会(高野瀬透)では、五月七日東区白壁町双葉旅館で春季素謡会を開催した。

玉石会に老松の幕
名古屋栄町角、玉水ビル四階にある玉石会(世話人津田庄三郎氏)のけい古場に、和泉流狂言方佐藤卯三郎氏が描いた老松の幕が今春完成した。

Table listing names and roles for the 'Shiroishi' section, including names like 高安 澄郎, 後藤 孝一郎, etc.

友社
本町2-20
7984
36393
400円
500円
35円

充実した催能

四月十六日（日）午前十一時始
熱田神宮 能楽殿
四月三十日（日）午前九時始
熱田神宮 能楽殿

大槻清韻会全国大会
四月三十日（日）午前九時始
熱田神宮 能楽殿

第八話 屋嶋

（その三）
那須市宗高が扇の的を見事に射落し、敵も味方も一同に喝采している時に、平家方より弓持ちたる者一人、桶つぎたる者一人、長刀持ちたる者一人、滑りに上り来り源氏まで寄せよとばかり、招いたので、義経は誰か駆け寄り蹴散らせと号令した。

観能雑感

観世会定式能
N 生
この日の演能「葵上」は源氏物語「葵」の巻から取材された曲で劇的な構成ばかりでなく、出典も一般によく知られていて、出典も観客にも求められている。

謡曲雑話

西村弘敬
逃げたが、四度目には捕まれ、互に全力を以て引き合っているうちに、兜の鉢附の板の辺が切れて、三保の谷は逃げ道は景清の手に残った。景清は長刀の先に鏡をかけた大音声を揚げて「遠からん者は音にも聞け、近くは寄って目にも見よ、これこそは上総の悪七兵衛景清ぞ」と勝名乗りを揚げて、味方の陣へとかくれた。これは謡の中にも書かれているし、景清の謡では娘の人丸に語って聞かせる物語りになっている。

私の健康法につながる

柴田初太郎
この練習により腹式深呼吸で横隔膜の上下動ができるようになり、隔腹の上下動が大きな力になり、折り返しに十分な力が入ります。病院のご厄介に悩まぬ身体となつて愉快に一生を送ることができま

伊藤鉄之進氏逝去

4月12日告別式挙行
金剛流伊藤鉄之進氏（名古屋市中区栄三丁目一九の一四）は、さる九日脳出血のため逝去された。告別式は十二日午後一時から中区栄三、白林寺で奥主伊藤高義氏、伊藤委員長、宮田一雄氏により営まれた。享年七十。

能楽の友人

本紙創刊六年を迎え御慶賀者はじめ各界の温かいご支援ご指導を感謝申し上げます。
能楽の友人はつぎのとおりです。お問い合わせ、ご意見等についてご遠慮なくお申し出下さい。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

丹下三義氏逝去

能楽協会名古屋支部会員、シテ方観世流 丹下三義氏は五月二日脳溢血で急逝された。享年七十七。告別式は五日午後一時から岐阜市千手堂中町一丁目の自宅で営まれた。

購読料払込みのお願い

本紙購読につきましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にでも販売しております。一部三十五円。

能楽の友人

本紙創刊六年を迎え御慶賀者はじめ各界の温かいご支援ご指導を感謝申し上げます。
能楽の友人はつぎのとおりです。お問い合わせ、ご意見等についてご遠慮なくお申し出下さい。

ばともかくも、自分の弓では、斯様の貧弱な弓を持つ人では、小兵の者と笑われぬのが口惜しいので、命に替えても取り返したので、自分の名譽のためである」と説明したので一同感服した。此の物語も謡の中に詳しく書かれている。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

伊藤鉄之進氏逝去

4月12日告別式挙行
金剛流伊藤鉄之進氏（名古屋市中区栄三丁目一九の一四）は、さる九日脳出血のため逝去された。告別式は十二日午後一時から中区栄三、白林寺で奥主伊藤高義氏、伊藤委員長、宮田一雄氏により営まれた。享年七十。

購読料払込みのお願い

本紙購読につきましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にでも販売しております。一部三十五円。

能楽の友人

本紙創刊六年を迎え御慶賀者はじめ各界の温かいご支援ご指導を感謝申し上げます。
能楽の友人はつぎのとおりです。お問い合わせ、ご意見等についてご遠慮なくお申し出下さい。

ばともかくも、自分の弓では、斯様の貧弱な弓を持つ人では、小兵の者と笑われぬのが口惜しいので、命に替えても取り返したので、自分の名譽のためである」と説明したので一同感服した。此の物語も謡の中に詳しく書かれている。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

とみる事が出来、現代の観客がもし出来あがった曲を演者がいかに演ずるかに注目するだけだとして、それよりもはるか新鮮な興味を抱いていたと思われる。例えば、舞台の一枚の小袖、それが病床の葵上を表現するといった単純化は観客と演者の親しい合点から生れたにちがいない。

伊藤鉄之進氏逝去

4月12日告別式挙行
金剛流伊藤鉄之進氏（名古屋市中区栄三丁目一九の一四）は、さる九日脳出血のため逝去された。告別式は十二日午後一時から中区栄三、白林寺で奥主伊藤高義氏、伊藤委員長、宮田一雄氏により営まれた。享年七十。

購読料払込みのお願い

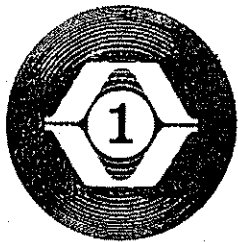
本紙購読につきましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にでも販売しております。一部三十五円。

能楽の友人

本紙創刊六年を迎え御慶賀者はじめ各界の温かいご支援ご指導を感謝申し上げます。
能楽の友人はつぎのとおりです。お問い合わせ、ご意見等についてご遠慮なくお申し出下さい。

書店

流元 剛行 金発 流本 世宗 観宗
〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入
電話 (291) 2488-9
電話 (231) 35520
電話 (231) 19913
電話 (231) 1113



現代をみつめる眼
東海テレビ

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋市中千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
— 部 35円

しかしながら、演者がそれを許すと、その場での観客と演者との交流を容易にするが、時と場合によっては、観客と演者の間に壁が生まれてしまう。

重要無形文化財指定 日本能楽会

新たに45名指定

会員二百 人越える 日本能楽会

重要無形文化財指定・日本能楽会の増員がこのほど発表され、五月十六日、東京・水道橋能楽堂裏において文化庁課長はじめ来賓列席のうえ、日本能楽会堂生九郎会長から新加入会員四十五人に重要無形文化財総合指定・日本能楽会員の認定書が授与された。

日本能楽会は昭和三十一年能楽が重要無形文化財総合指定を受けたとき設立され昭和四十年全国で百三十四名で社団法人となり、昭和四十二年全国で三十七名が指定に加えられ、その後久しく行なわれなかったが、今回四十五名が新たに加入したもので、現在の増員であり、現在の会員数が二百人を越えたことは喜ばしいことである。

〔シテ方・観世流〕浅見其高(東京) 山本勘一(大阪) 上田照也(神戸) 藤波重和(東京) 橋岡久共(東京) 木原康夫(東京) 浦田保利(京都) 関根祥六(東京) 山本真義(大阪) 片山慶次郎(京都) 藤波重満(東京) 観世元昭(東京) 〔シテ方・金春流〕金春晃実(大阪) 〔シテ方・宝生流〕田巻利夫(東京) 佐野正治(金沢) 朝倉象太郎(東京) 佐野野(東京) 近藤乾之助(東京) 〔シテ方・金剛流〕広田泰三(京都) 〔シテ方・喜多流〕内田信義(東京) 〔シテ方・高安流〕西村欽也(名古屋) 〔ワキ方・福王流〕市場豊久(神戸) 南岩夫(神戸) 中村弥三郎(大阪) 平賀英雄(東京)

名古屋薪能

8月5日 熱田神宮で

夏の恒例行事として親しまれている名古屋薪能は、この第七回を迎え、きたる八月五日(土)熱田神宮神苑で催される。

会場は、熱田神宮能楽殿前に設けられる特設舞台。開演は午後五時三十分で二番はじめ狂言、囃子、仕舞が予定されている。会員券は五百円。

主催は名古屋市、中部能楽師会、後援は熱田神宮、熱田能楽会、能楽協会名古屋支部、協賛熱田神宮。

薪能のふんい気のみならず、火入れ式は、熱田神宮長谷明神司によって厳かに行なわれる。能は、宝生流「煎刈」(シテ衣斐正宣師、ツレ竹内道子師、ワキ西村欽也師) 親世流「鉄輪」(シテ久田秀雄師、ワキ高安滋師) 喜多流「岩船」(長田観師) その他各流、狂言和泉流の総出演で名古屋市の夏の行事として大きな期待が寄せられている。(番組は次号掲載)

NHK第2毎週
日曜午前8時~9時

6月放送予定

11日(日) 金剛流・素謡「松山天狗」奥野達也ほか
大蔵流・狂言「我大名」入蔵弥太郎ほか

18日(日) 親世流・素謡「班女」梅若万三郎ほか

25日(日) 金剛流・素謡「江口」金剛殿ほか

7月2日(日) 金春流「大江山」金春敏三ほか

7月9日(日) 親世流「仲光」岡久雄ほか

(FM) 6月29日 午後10.15「隅田川」 武田加志

青陽会 能

六月十一日(日) 午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

六月十八日(第三日曜日) 午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

高橋 久田 秀雄 和泉昭太郎 飯富 雅介 高安 滋郎 柳原富司忠 河村総一郎 菅原富司忠 友彦 生駒美代子 加賀 敏彦	雲林院 生駒美代子 加賀 敏彦	田村 服部 紗枝 吉田 定男 福井啓次郎 藤田六郎兵衛 加藤 保彦 竹内 雄二 河村 誠二 佐藤 武弘	小督 吉田 定男 福井啓次郎 藤田六郎兵衛 加藤 保彦 竹内 雄二 河村 誠二 佐藤 武弘	阿漕 柴田初太郎 井上松次郎 青木 保彦 佐藤 武弘 高橋 秀雄 佐藤 武弘	魚説法 井上松次郎 高橋 秀雄 佐藤 武弘	鶯之段 前野 郁子 竹内 六郎 塚本 秀雄 加賀 敏彦	雨之段 塚本 秀雄 加賀 敏彦	河村真之介 西村 欽也 飯富 雅介 高安 滋郎 柳原富司忠 河村総一郎 菅原富司忠 友彦 生駒美代子 加賀 敏彦	賀能 柴田初太郎 地謡 長谷川 章 加藤 敏彦 加賀 敏彦	浦田保治 和泉昭太郎 飯富 雅介 高安 滋郎 柳原富司忠 河村総一郎 菅原富司忠 友彦 生駒美代子 加賀 敏彦	船辨慶 長谷川 章 柴田初太郎 地謡 高橋 秀雄 加藤 敏彦	附祝言 後見 柴田初太郎 後見 柴田初太郎	主催 青陽会 会期中は関係係師方及び青陽会事務局 (名古屋市中千種区本山町一ノ三十一) (柴田初太郎方) 電話 六六七六番
通小町 林甲子生 増田一雄 尾関健太郎 河村総一郎 菅原富司忠 友彦 生駒美代子 加賀 敏彦	夕下 有賀 滋子 福井 道子	巴 殿島 修二	放 竹内 雄二 河村 誠二 佐藤 武弘	敦 西村 欽也 河村総一郎 菅原富司忠 友彦 生駒美代子 加賀 敏彦	班女 久保田千三郎 佐藤 秀雄 吉田 定男 後藤 孝一郎 佐藤 武弘	知 奥 善助 柴田初太郎 上田 照也 地謡 長谷川 章 加藤 敏彦	天 高安 滋郎 久田 秀雄 大野 弘之 河村 誠二 佐藤 武弘	附祝言 後見 久田 秀雄 後見 奥 善助	主催 名古屋観世会 名古屋観世会 熱田神宮 能楽殿				

宝生会 定式能

六月二十五日(日)
熱田神宮 能楽殿

能巴 辰巳 孝 西村 欽也
能隅田川 宝生 英雄 高安 滋郎

本店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686
熱田区新宮坂町一 電話(682)5998(代表)

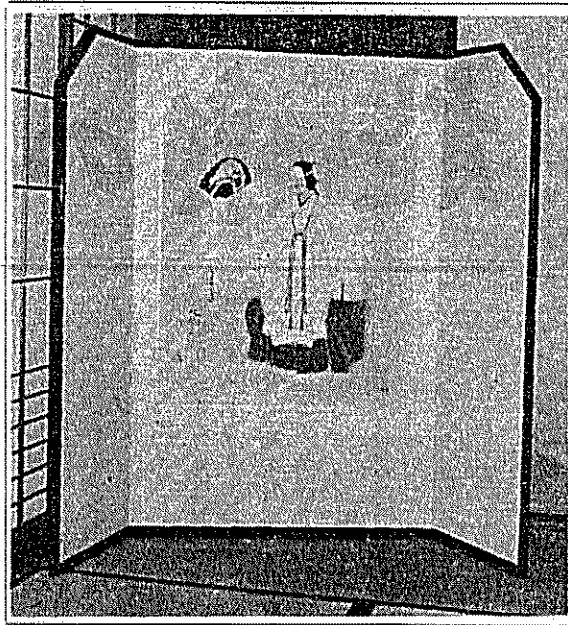
能 紀 行

夕顔屏風

文と絵 二井栄逸

さ、やかな面影の軒に、今、箱根うつぎが三色の花をばいつけられている。初夏の風はうつぎの花や、大ぶりの葉を間断なくそよがせている。その向うに隣家の松があったが枯れてしまった。

一昨年あたりまでは、はつ夏になるとばいに黄色い花をつけ、背風の花粉をまき散らしていたし、梢をわたる風の音は、仕事のつかれをいやしてくれたものであったが、今はうつぎがそのかわりをし



ていてくれる。舞台や稽古の無い時は画室にも昨日今日であるが、制作の合間に画想をねたり、つかれを休めるため、この頃は、時々山麓の瑞蔵寺に出かけることにしている。車で二十分もあればゆるゆるの割合に人も無く、ひなたびているので私の性にあっている。それに山菜料理、名代の紫蘇めしも食べさせてくれる。若葉のそよぎと、滝つぼより流れてくる水音と、小鳥の声をきけば、つかれは忘れたい。こないだ行つた時は、ていかかづらの真盛りで、そこはかとなく樹間に芳香をただよわせていた。

この三十号の夕顔絵は、昔、四谷時代の先輩であつた友枝喜久夫師が舞つたのをスケッチしてあつたので、それをもとにして、この瑞蔵寺の二階から、目の前の山の岩肌とにらめっこしながら、画布の上で夕顔を再現してみた。依頼主が、是非三枚折りの屏風にと仕立てて夕顔屏風と名づけてみた。白山吹の花や、田のあぜにびつくりする程ぎしりとつまつて空色に映くつ草を見たりすると

夕顔が描きたくなる。白山吹と夕顔の上とは別に何の関係もないが夕顔の薄幸な生涯が白山吹やつゆ草に似ているからである。

源氏物語中の数ある才人の中でよなく哀れではない生涯を終つた人は夕顔の上であつた。光源氏は、女ははかなく、たよりがないのが愛らしい。さかしげで、人に従わないのは好まない。素直で柔和で、男にだまされそうに感じながら、つましく、恋人や夫にすべてをゆだねるような女を理想としていたから、夕顔の上は源氏の思ひとおりの女性であつたに違いない。

高位の序の舞を舞い、舞留にワキの旅僧に合掌し、お僧の今の甲を受けて、と、いかにも解脱のよろこびに面が息づく。夕顔の笑の眉と唇で指し、開くる法華と、両手で開く型、こゝが私の一番好きところ。暗の中におぼろの月に浮かぶの白い夕顔の花に似て、月の光も透るばかりの清らかな美しさに満ちみちて、しめ、めの空に消えてゆくのである。

各地だより

八田氏先代 27 回忌追善能

田振・巴水苑で開催

名古屋

八田木語会 (八田常次郎氏) の恒例のセンター能は、ここのは八田氏先代の二十七回忌追善能として、足助町田振「巴水苑」舞台で行なわれる。(番組本紙参照)

当日は午前十時から稽古、仕舞、独吟、連吟など発表があり、午後一時から追善能として、能「海士」(シテ八田常次郎氏) のほか「...

九月に名古屋観世会素謡会

名古屋観世会では、今秋九月十日(日)名古屋観世会別会素謡会を開催する。

番組は、「悠久」シテ松若乃紀、十一年記念能楽会を催す。この記念能には宗家観世元正師が来演、

武田小兵衛師道六十周年記念能

観世流・武田小兵衛師道六十周年記念能

は、きたる六月十八日、京都観世会館で「師道六十周年記念能楽会」を催す。この記念能には宗家観世元正師が来演、

京都

は、きたる六月十八日、京都観世会館で「師道六十周年記念能楽会」を催す。この記念能には宗家観世元正師が来演、

狂言

千鳥 茂山千作、茂山あきら、茂山忠三郎

武田 欣司、江崎康雄、江崎金次郎、三木末信

道成寺

山本 幸、前川 善雄、大倉長十郎、森田 光春

山本博之師喜寿祝賀別会能

六月二十五日、大阪・大槻能楽堂で「山本博之師喜寿祝賀別会能」が開催される。

(番組に掲載)

山本博之師の喜慶

昭和二十二年五月十八日
「平都賢小町」大槻能楽堂
「木賊」大槻能楽堂
(左近先生十三回忌追善能)
昭和三十三年六月
渡辺団に参加、パリその他にて舟弁慶、石橋公演
昭和三十六年三月三十日
「娘捨」大槻能楽堂
祖先二百七十回忌能
昭和三十八年三月三十日
「水塚」山本能楽堂
大阪文化祭受賞
昭和三十九年四月十一日
道成寺(第十回)大槻能楽堂
古稀祝賀能
昭和四十年四月
第一次重要無形文化財保持者として認定される。
昭和四十年十月三十日
「鶯鳴小町」大阪能楽会館左近先生二十七回忌追善能
昭和四十四年五月七日
「朝長」(横法)大槻能楽堂
先代源太郎五十回忌追善能、大阪府民劇場賞を受く
昭和四十二年五月三日
大阪府知事賞受賞
昭和四十三年十一月三日
勲五等双光旭日章を授与する
昭和四十四年十一月三十日
「隆重」大阪能楽会館 観世元正

第九回センター能

昭和四十七年六月十八日(日)十時始
足助町田振・巴水苑 舞台
電話(〇五六五〇)〇五八〇番

主催 能楽センター
岡崎市康生町一丁目
電話(〇)一五八四

後援 能楽の友社

独吟	鶴屋	川洞 泰子	磯貝 勝子
仕舞	東北	古田富美明	豊田 松恵
独吟	屋島	佐藤 雅子	東北 裕子
仕舞	班女	鳥居 良子	羽衣 隆子
独吟	班女	鈴木 清秀	船井 慶子
仕舞	班女	山辺 正信	高木 春枝
独吟	班女	伊奈 融	
仕舞	班女	浅井 弘	柴山 勇
独吟	班女	伊奈 融	服部 俊介
仕舞	班女	清水 澄子	豊田 松恵
独吟	班女	古沢 よし子	金森 和子
仕舞	班女	村井 邦子	横井 紀代
独吟	班女	金井 久枝	川洞 泰子
仕舞	班女	天野 信義	
独吟	班女	山辺 正信	

先考 追善能

八田 木語会
六月十八日(日)一時始
足助町田振・巴水苑舞台

加納 保一
千歳 山田 達
近藤 幸江
水谷 文雄
池田 希世
池田 希世

独吟	善知鳥	加藤千代子	
仕舞	善知鳥	井野 倉次	
独吟	善知鳥	松井 重市	
仕舞	善知鳥	岡田富士雄	
独吟	善知鳥	地謡 鈴木 昭夫	
仕舞	善知鳥	池田 希世	
独吟	善知鳥	池田 希世	
仕舞	善知鳥	池田 希世	
独吟	善知鳥	池田 希世	
仕舞	善知鳥	池田 希世	
独吟	善知鳥	池田 希世	
仕舞	善知鳥	池田 希世	

謡曲のリスム

宇治田政雄

下句はあまり変りありませんが、上句では素謡とハヤシ謡の三地が同じ様な間隔で詠い、ハヤシ謡ツケで各流それぞれ

城

割烹・小料理

- 熱田神宮能楽殿喫茶部
- 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
- 喫茶・グリル(愛媛野地下ビル) 電話 731-1128

宝生流謡の事典

宝生宗家校閲・佐藤芳彦著

謡曲全般にわたる懇切丁寧な指導書。
五版出来 普及版価200円 (〒70円)

東京都千代田区神田神保町3-9 電話(263) 6771

わんや書店

面白かった「釣狐」

やるまい会の第十三回公演

前田 満穂

Mさん、大変面白かったです。四月二十三日の狂言やるまい会の公演(熱田神宮能楽殿)、面白かったです。入りもまっ当、しかもバラエティに富んだ見所で、学生あり、サラリーマンあり、舞踊人あり、新劇人あり、学者あり、好き者あり。誰れも熱心に舞台上に注目していました。

狂言に対する最近の関心の高きからか、又三郎の顔の広さからか、いずれにしてもうれいこと、舞台の成績の良し悪しよりも、これだけで十分、やるまい会がやった意義はあるものと感じ入りました。

Mさん、舞台の成績の良し悪しにかかわらず、などといういふと、何だか良くないのをカムフラージュしたように聞こえるかも知れません。大いに良かった。眼目の「釣狐」はもとより、「千切木」も良かった。「茶壺」も……といいたいところだが、これは前二者ほどにはいかなかったようです。初番で開幕劇のような形になったので、やりにくかったのではないしょうか。

見所が多種多様だと、演者はとまどいそうですが、万作(すっぱ)万之丞(中国の者)礼之助(仲蔵人)と達者ぞろいの舞台がなんとなく堅かったです。やるまいのソツはないのですが、いまひとつ面白味が足りなかった。殊に仲蔵人の目が茶壺をいたいたてしまし皮肉なおチが、もつともと利かなければワソでしよう。画竜点睛を欠く結果になったことがうらまれます。

Mさん、それより「釣狐」はどなたか、お褒めなさい。釣狐は、正体がチラつかせました。チラつかせると、ふんわりした格調のある、いい、お褒めなさい。

「釣狐」の演技としては前回は、多少少しハラハラの欲しいところ。なんとなかなか中途半端な感じが残ったのはどういふわけでしょう。Mさん、いつもの間にやら話がなくなりました。大変面白くない。お褒めなさい。お褒めなさい。

Mさん、いつの間にかやら話がなくなりました。大変面白くない。お褒めなさい。お褒めなさい。

これまた画竜点睛を欠いた。三郎のやり方からすれば、正に神妙でなければなりません。三郎のやり方からすれば、正に神妙でなければなりません。

演能カレンダー

(6月)

- 11日(日) 青陽会能 (有料)
- 18日(日) 観世会定式能 (有料)
- 25日(日) 宝生会定式能 (有料)

(7月)

- 9日(日) 朝日狂言会 (有料)
- 16日(日) 観瀬会

(8月)

- 5日(土) 名古屋新能 =熱田神宮能楽殿=
- 7月7日(金) 一宮七夕まつり協賛能 於 一宮勤労会館

友の楽

本町2-20 464

7984

36393

400円

500円

35円

熱田神宮大祭奉納能

能「雲林院」「三輪」

野村又三郎

井上礼之助

私の健康法

あとがき

柴田 初太郎

発声法につきましては前号迄に大抵私のお考えを述べて置きましたので、ご了解くださった事と存じます。なおそのうえ申し上げることは蛇足となり、重複する箇所も多々あると思えますが、私の本箱より、昭和八年(一九七一年)発行の謡曲英華抄と申す古本を見出し、その要点を掲げ御参考にしてほしいと思えます。

難解の箇所も多々ある事と存じますが、又熱心に御研究下さる方には参考にもなる本と存じますので、茲にこの記事を掲げさせていただきます。

謡曲英華抄抄

音声の起る始めを考うるに。人の物音わんとする時。喉の内に風あり。此風外の風を引いて丹田に下り水を撃って声を起す時。断齒唇舌咽喉の七処に於て。喉内唇内唇外各々其所依りて。種々の音声ありと云へ共。其数五十音に過ぎず。唯人間のみなならず。上は鬼神より下は鬼畜に至るまで此声を出す。又唯有情のみに非らず。風の木にふれ水の石にふるる類の非情の声迄も。是より出づる事なし。聞く人愛に心を潜めて考へ侍らば左に記せる事悉く明かなるべし。あは口を開く最初の声。忽て微閉口内に常にあつてわざとはいはざれども息の出入に随つて出づる。堅にはい。えおを生じ横にはか。さ。な。は。ま。ら。わ。の。九。字。を。生。ず。一。家。の。祖。光。の。こ。と。し。い。は。あ。の。舌。に。解。して。根。を。生。じ。たる。声。なり。草。木。の。種。を。蒔。いて。初。め。て。根。を。生。ず。る。こ。と。く。あ。の。声。初。て。根。を。生。ず。る。故。なり。

暑中広告御案内

本紙では七月号、八月号を暑中見舞い広告として掲載致します。

掲載金額は

- 一小間(タテ五・九センチ、ヨコ一・七センチ)……八百円
- 二小間(タテ五・九センチ、ヨコ三・五センチ)……千五百円
- 三小間……二千円

以上は小間単位で掲載いたします。

社中会だより

風韻会春の例会

風韻会(殿島修二郎)では去る五月二十八日(日)午前十時から新舞子・舞子館で春の素謡会を開催した。

清経(浮貝剛一、山田和子、山本福江) 杜若(長谷川鏡子、殿島満里) 海士(金丸洋子、殿島博子) 鬼頭貴代子(千手(三木美智子、守部啓子) 善知鳥(山田富美、殿島博子) 巻絹(奥田薫、山田和子) 岡田川(富士道周明、中村克巳) 福間昌作(井筒(水野雅子、吉岡常子) 幸都賢小町(佐藤アヤ子、福間昌作、富士道周明) 安達原(近藤一晴、日比大吾郎、山本福江)

おねがい

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

購読料払込みの

おねがい

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

竹韻会素謡会

竹韻会(杉村竹翠)は、六月四日、昭和区滝川町四七の加納薬園舞台で素謡会を開催した。

おねがい

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

一謡会 番組

葉石会

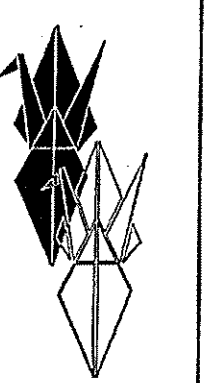
野村又三郎

井上礼之助

富士道

あなたに心をこめておくりする……

富士道の婚礼道具



家具の富士道

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

おねがい

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

本紙講読につきましましては新聞と同封にて振替用紙をお送り致しておりますのでご協力下さい。なお能楽殿にても販売しております。一部三十五円。

期待される銀行
ご奉仕する

十六銀行 創立 明治10年
本店 岐阜市

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393

購送料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

名古屋薪能

8月5日(土) 熱田神宮神苑で
能「芦刈」と「鉄輪」

名古屋薪能はことし第七回を迎え、きたる八月五日(土) 熱田神宮神楽殿前仮設舞台で催される。主催は、名古屋市、中部能楽師

「能楽資料センター」

武蔵野女子大に新設

能楽の専門資料については、すでに江嶋伊兵衛氏の鴻山文庫や野上豊一郎記念法政大学能楽研究所があり、古文書収集における比較的研究はよく知られているが、武蔵野女子大学(武蔵野道学長)では、将来に構想をもつ東洋文化研究所(仮称)の一環として、「能楽資料センター」を設立した。

同大学は浄土真宗本願寺派で本願寺は、十世門跡の証如上人の愛好、能の名手として、また、「童舞抄」ほかの伝書で有名な本願寺坊官下間少進の事蹟、国宝である現存最古の北能舞台があり、親鸞聖人生誕の降誕祭には伏見城遺構の南能舞台において毎年能楽が催され由縁ふかい。

同大学能楽資料センターは、各機関と連携をもちつつ、現代の資料を中心に、テープ、写真にも収集の力を置く方針である。また研究ばかりでなく、演者、鑑賞者にも利用しやすい機関とし、また一種の能楽情報センターとしての性格も持たせたいとしており、同大学創立五十周年を記念する昭和四十九年から学外への資料公開を行なう予定である。

運営委員は、同大学安藤常次郎教授、増田正造助教授、小林賢専任講師、顧問として同大学日本文学科主任教授土岐善房氏、法政大学能楽研究所古川久氏を迎えている。

遊行柳 嵐谷 武治 荒木 豊子 赤井 藤男
青柳之舞
唐 船 竹柳三和子 寛 鉦一 大平夫 秋義
久田舞 一郎 左 秋義

高 砂 嵐谷 恵子 久田舞 一郎 赤井 藤男
五段
以上二十三番を殆んど省略することなく、とにかく大変な行事で我儘会といふべきであろう。

名古屋薪能

昭和四十七年八月五日(土) 午後五時三十分
熱田神宮 神楽殿前仮設舞台

舞囃子 岩 船 長田 曉 吉田 定男 池田 希茂
能 宝生流「芦刈」 観世流「鉄輪」 舞囃子・喜多流「岩船」 宝生流「松風」 狂言和泉流「太刀舞」 仕舞・金春、観世、金剛の各流による演能。開演午後五時半、終了午後九時の予定、会費五百円、なお雨天の場合は熱田神宮能楽殿で催される。

第七回名古屋薪能によせて、杉戸名古屋市長は「激しく移り変わる昨今の社会情勢の中にあつて、私達は日々の生活に追われ、生活にゆとりとか潤いを欠きがちであるが、近年、能に対する市民の皆さんの認識が高まりつつあることは誠に結構なことである。幽玄と情趣を本質とするわが国独特の伝統芸能をふくめ、今後とも名古屋市の芸術文化の向上発展のため、一層のお力添えを賜りたい」とあいさつを述べている。

御挨拶 杉戸名古屋市長
火入れ式 長谷権宮司
松 風 辰巳 孝 吉田 定男 寛 三男
天 鼓 福井 道子
半 部 片野東四郎
屋 島 金春 欣三
岩 船 長田 曉 吉田 定男 池田 希茂
柳原富司忠 鹿取 希世

竹内 寛子
衣笠 正宜 飯富 雅介 後藤 孝一 藤田 昭彦
西村 欽也 後藤 孝一 藤田 昭彦
飯富 雅介 佐藤 友彦

玉井 弘子 地謡 加藤 勝利 戸田 秀雄
足立 知子 地謡 竹頭 義一 内藤 辰己 藤田 昭彦
梅田 邦久 地謡 鈴木 義久 吉田 俊彦

後見 河村 純二 地謡 長谷川 章 杉村 竹翠
柴田 初太郎 地謡 加藤 保彦 柴田 一邦久
真柄 米次 増田 一雄

河村 純二 地謡 長谷川 章 杉村 竹翠
福井 良久 鬼頭 季信

高安 滋郎 福井 良久 鬼頭 季信
大野 弘之

井上松次郎 佐藤 秀雄
井上礼之助

河村 純二 地謡 長谷川 章 杉村 竹翠
福井 良久 鬼頭 季信

附 祝 言 (会費 五〇〇円)
主催 名古屋市・中部能楽師会
後援 社団法人名古屋能楽会・能楽協会名古屋支部
協賛 熱 田 神 宮

暑中御伺い申し上げます
社団法人 名古屋能楽会
熱田神宮能楽殿
熱田神宮 宮司 篠田 康雄
権宮司 長谷 晴男

字「能日説」文「主」の「能」字、
三之「能」とあり。
右に「能」は外に調子を持つものなければ此機が調子を持つなり。其大事は初発の声にあり。

観 世 元 正
東京都渋谷区恵比寿南
一 一 二 一 一 一 四

大 槻 清 韻 会
大 槻 秀 夫
大 槻 文 藏
大阪市東区上町二番地

大 江 又 三 郎
京都市東山区本町廿丁目
電 〇七五(五六二)〇六二三番

井 上 嘉 久
京都市北区紫野下鳥田町六

片 山 博 太 郎
幽 謳 会

片 山 慶 次 郎
京都市北区小山下花ノ木町二二
電話 〇七五(492)一五三〇九番

水 会
柴田 初太郎
柴田 収 武

風 と ん
欧

大 槻 清 韻 会
大 槻 秀 夫
大 槻 文 藏
大阪市東区上町二番地

武 田 太 加 志
鳳 鳴 会
名古屋市中区葵町九
吉田 義 正 方

梅 若 六 郎
景 英

研 能 会
梅 若 万 三 郎
梅 若 万 紀 夫
梅 若 万 佐 晴

藤 井 久 雄
藤 井 徳 三
藤 井 人

観 衡 会 山 本 博 之
大阪市東区徳井町一三〇
電話 〇六(九四二)五八六六

藤 井 久 雄
藤 井 徳 三
藤 井 人



能 紀 行 (21)

日光きすげ

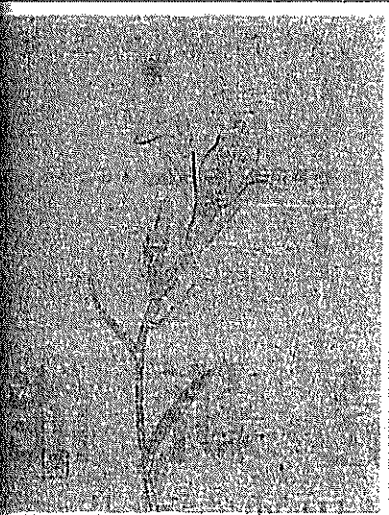
文と絵 二井 栄 逸

去年、四日市のMさんという門下からもらった萱草(かんぞう)が豊かな芽を出し、スラリと両側に行儀よく葉を分けて生長した。萱草にしては葉が美しく過ぎると思っていたら、こないだ花が咲いたのを見て驚いた。すばらしく美しいのである。それは小雨そぼふる朝であって、花びらに露の玉をたたくの音を聞きながら咲いてい

る姿は、やぶかんぞうや、野かんぞう等と違って、貴婦人のような上品さを備えているのである。早速スケッチに収録して今月の水墨画の手本にすることにしよう。私は小雨の朝その花を見た時、どこかの高原でなく、かまどや、青すゝきのそよぐなかに、貴婦人のようにスラリ立っていったことが、頭のすみっこを通り過ぎていったような気がしたが、そのまゝ、四、五日過ぎて、名古屋のお稽古日の時であった。みんなに水墨画のお手本としてその貴婦人を描いていたら、先生、それ日光きすげですね。とお稽古に来ていたMさんがいった。あつ、私はその時、もうそう日光きすげ、日光きすげ、と心の中で叫んだ。その時思い出したのである。四、五年前、新堀のお稽古に行っていた時、新堀の合間に民権合戦の戦跡地を見て廻った事があったが、その時風来山の近くでこの貴婦人を見たのであった。それが日光きすげだったのである。この日光きすげの不思議な魅力は、私をすぐ能の世界に連れてゆこうとする。スラリと立った姿から、橙黄色のふくらみ、したたかな花の形、露をばいばいふくんだように水っぽい花弁までが、唐織りに身を包んだ貴婦人のように見える。

ある。能のおみな達の内でも、気品の高い女性には、小原御幸、定家、楊貴妃である。中でも楊貴妃は艶麗無双といわれ、いわゆる傾国の美人といふのはこの楊貴妃のような女性をいうのであろう。能といふものは便利なもので、主要人物の一番良いところを抽出し、後は省略してしまふ場合がある。わずらわしいものはいらないという理。そこで楊貴妃も、能の女性としては、もっとも優雅で、清潔の密度が濃やかな女性ということ登場してゆく。

玄宗皇帝の勅使として、方士が楊貴妃を尋ねるとき、貴妃は、華模様のある幾重かの帳をかかげて、立出てくるのであるが、その姿はほんとうに美しく演出されるのである。艶麗の涙をにじませて立出でる楊貴妃の姿を、能の作者は、長恨歌そのまゝ、梨花一枝雨を帯びたる雫にたとえるのであった。



日光きすげによく似た花で、夕菅(ゆうすげ)というのがある。これは北海道にはないそうであるが、日本各地の山地に自生する野草で一名、きすげと呼ぶ。花の色は日光きすげと違って淡い黄色であるし、夕方に開花し、翌日の午前中にしぼんでしまう。日光きすげは、昼間だけ咲いて夕刻しぼんでしまう。両方とも命はかなく、淡いものであるだけに何となく尊いものに思えてくる。

自然は、いたるところに人間以上に夢を創ることが上手だし、私達にいつも新鮮な命の鼓動をかき立ててくれる。

ゆれ動く世界、毎日五千機の飛行機が飛び交う地球の空、日毎に立体化してゆく都市、そのような機械文明の中にも、自然は絶えず人間達に新鮮な命の鼓動をかき立てようとしていることを忘れてはならない。

謡曲のリスム

名古屋邦楽協会 理事長 高木栄一郎

芥川 秀子 師範二十周年記念会
七月十六日(日)午前九時三十分始
熱田神宮 能楽殿

素謡 草子洗小町	須崎 武文 石原 健修	坂野 晴和
素謡 求 塚	丹羽とぎ子 矢野しげる	坂井 音重
素謡 卒都婆小町	加藤 孝三	武田太加志 武田 志房
素謡 弱法師	鈴木 守一 加藤 天子	坂井音次郎 矢野 幼
素謡 山 姥	津田尚左子 内藤 英子 高島 玉子	武田 志房
素謡 文 象	加藤 政良 新庄 直常	
素謡 仕舞 遊行柳	越後きみ子 越後きみ子	
素謡 俊 寛	美濃崎敏治 河村総一郎	河村高司 寛 三男
素謡 屋 島	武田太加志 坂井 音重	寛 三男
素謡 山 姥	坂井音次郎 後藤孝一郎	寛 三男
素謡 高 砂	鶴世 元正 後藤孝一郎	鬼頭八郎 藤田六郎兵衛

名古屋橋岡会 事務所 加藤良久方
竹翠会 若松宏守 〒662 西宮市平松町四一九 電話(〇七九八)三二七六三九
潤水会 林 甲子生 名古屋市中区今池町二ノ四九 電話(〇五二)七三二一四一八三
観瀨会 芥川秀子
猶恵会 熊沢恵美子 名古屋市中区猪高町高針大廻間 西一社団地一四一五〇三
財団法人鎌倉能舞台 〒248 鎌倉市長谷桑谷六二九一七 電話(〇四六七)五五五七番 常務理事 中森品三
雄浜会 下田雄三 大阪市東区高麗橋詰町五三
邦謡会 梅田邦久

河村総一郎 名古屋市中区前山町一三三 電話(七六一)四八八二番
風韻会 殿島修二
毎日婦人文化センター 謡曲教室
竹韻会 杉村竹翠
水雲会
宝生九郎 東京都文京区本郷一五五 電話(〇三)八一〇六一二番
名古屋緑雲会 東京都港区西麻布四一八二八 電話(〇三)四〇九〇六一〇番 野口 緑久
緑宝会 名古屋緑区鳴海町池上十六一 電話(六二二)三四二八番 加藤 勝利
佐野正治 金沢市泉野町四丁目二十四
倉本 雅

名古屋邦楽協会
理事長 高木栄一郎
東京中野区上高田二の二五ノ二
電話(三八六)二六四一
大阪府泉南郡南海町南海団地
西三丁目九
電話(〇七二四)七一四二七

謡曲のリズム

宇治田政雄

持ち(モチ)と引節
持ちとは音を保つ事で引節と混同されやすいのですが、発声の上で大きく違っています。

ゴマ譜の基本符号に、引節という名称があり、直節より長く引く(延長)節で例え「か」に引節が付くと「かー」となります。

又その符号に臨時記号の当り「・」の指示があるとその長さが定められて、中央に一つの当りの場合は、弱、強、弱拍と三拍子の引きとなり、前、中、後の場合は、強、弱、強、弱、強拍と五拍子間を持続することになります。

臨時記号の持ち「く」はその前音を一拍だけ延長しますが、例えば「か」の持ちは、一拍目は「か」で二拍目をウミ字の「ア」となり「かア」と発声します。ただしこの符号は喜多流本では総ての持ち個所に付けられたものでなく、特に持たなければならぬところと位置の変わったところだけ記入されているのでハヤシ譜の時だけ注意すればよい事になります。

現行文字配置
三ツ地
ヤア-ハ ア ア ア ア ア ア

喜多流文字配置
三ツ地
ヤアハ ア ア ア ア ア ア

本 地
トリ地 片地
オクリ

前述の様に謡曲には本地、片地、トリ地、オクリ地という違った拍子があってそれらが又、中ノリ、大ノリ、小ノリという違ったリズムを形成しています。これらは一小節内の構成でしたが、リズムの音楽といわれる謡曲には、この他に文字の過不足や節抜いによる前後小節への割込があります。これを間といいますが、

能 隔田川 西村 欽也
後藤孝一郎 寛 三男
狂言 棒 野村又三郎
井上礼之助
井上松次郎

強拍の位置をかえて、リズムに変化を持たす手法であります。謡曲の場合は主に文字数の過不足を補うだけで強拍、弱拍の位置は変わりません。
間の種類には完全に一小節内に納まる形を本間(ホンマ)といひ、前小節に一拍割込みを半声の間(ハンセイノマ)、一拍後退を当ヤの間(アタルヤノマ)、以下一拍後退毎にヤの間、ヤアの間、ヤアの間、当ヤアハの間、ヤアハの間といひます。

高安流白水会
和泉 太郎
森田 光春
寺井 政数

一宮七夕まつり協賛能
7月17日 一宮市体育館で
きたる七月十七日(月)午後六時半から一宮七夕まつり協賛能「納涼能楽の夕べ」が一宮七夕まつり協賛会主催、一宮市教育委員会後援で一宮市体育館で開催される。

西村 欽也
西村 弘敬
高安 滋郎

菊扇会
廣田 泰三
幸圓次郎
幸義太郎

狂言やるまい会
野村又三郎
茂山 忠三郎
茂山 千五郎
茂山 正義

大蔵狂言会
大蔵 彌太郎
大蔵 基基
大蔵 義嗣

冊中見舞広告について
冊中見舞ご芳名広告のお申し込みを頂いておりましたが、紙面の都合にて七月号、八月号にわけて掲載させて頂いておりますのでご理解賜りますようお願い致します。(編集部)

名古屋邦楽協会
理事長 高木栄一郎
事務局長 高木栄一郎
名古屋市中区三の丸三丁目
名古屋市役所社会教育課
電話(九六二)一一一一

金 春 欣三
奈良市法蓮南町一四
電話(七四二)七九二九番

金 春 流
八 声 会
伊勢市宮町二丁目一四一七
電話(二四五六)番

三宅 藤九郎
三宅 右近
和泉 保之

杖之形 立廻入
高砂 親世 元正
後藤孝一郎 鬼頭八郎
藤田六郎兵衛

梅田 邦久 会
東京中野区上高田三の二五〇二
電話(三八六)二六四一

山 本 孝
大阪府豊能郡東能勢村大字吉川
電話(七二七)三八一三九四

桂 会
岐阜市松原町 後藤方

金沢市泉野町四丁目二十四
雅

第十話 小督

小督の曲は、人皇第八十代高倉天皇の寵愛を得ていた小督の局が中宮御子(平の清盛の第四女で後の建礼門院)や、清盛の圧迫に身の危険を感じ、密かに宮中より脱出し、嵯峨の生母の方へ隠れていた。

高倉帝は小督の失踪を太く悲しまれ、日夜御歌を深く御悩み遊ばされて居たところ、小督のありかが大凡知れたため、弾正の大弐仲國を召して御使いを命ぜられ、仲國は帝の御書を捧持して、御寮の御馬と拝借船へ乗り、ここかしこと尋ね回り、漸く琴の音を便りに探し出し、御使いの趣きを述べ御書を差上げ近く御迎えに来る由を述べて、急ぎ参内して帝に復命したる次第を、美しく語ってある。

謡曲雑話 西村弘敬

さて、ここで小督の局の身分であるが、櫻町中納言と呼ばれた藤原重教の御娘で、宮中第一の美女で殊に琴の名手であった。宮中へ上る以前に冷泉近衛少将藤原隆房と申す好事家が、小督を見初めて、何とかして手に入れんものと、歌を詠み文を書き送るなど、

房の召使つて居た葵といふ少女に目をかけられ、これを寵愛せられたが、宮内の女達の口の端に上り、うるさくなつたのと、日増しに高まる清盛の寵勢に押しされ、その少女を遠ざけられ、少女は程なく宮中より下り遂に病を得て空しくなつた。

観能雑感

観世会定式能

(六月十八日)

西谷 隆

この日の能楽堂は冷房がきき過ぎて肌寒いほどであったが、演能「敦盛」もなんと冷やかな舞台であったことだろう。演能の場へ日常の意識を持ちこんでくる観客はたとえ舞台が現世の無常を感じて出家したワキ(運生となつた熊谷直実)の想念の世界であらうと、そこに登場してくるシテ(敦盛の亡霊)なりに人間味をそして演者自身の個人的表現や体温を求めるものである。

それは社会の複雑な内外関係のなかで、観客の日常の意識が複雑になり、亡霊といえども日常にとりこまれてしまい、日常を越える想像力を生み出し得なくなっているためかもしれない。

しかしながら、演者がそれを許すとき、その場での観客と演者とを交流を促すには、詩と舞

帝はひたすら悲しみ歌の毎日を送つて居られた所へ、小督の局を差し上げたので、帝は殊の外お喜びで深く御想せられるようになった。

一方清盛方では御娘の徳子中宮が、未だ皇子誕生のきざしもなく、あせり気味で居るのに、帝は小督の方へ心を移されるを安からず思ひ、小督を失わんと旨い出した由を聞き、密かに宮中より脱出して身を隠した。

それ以前のように仲國に見出され、次で車にて再び密かに宮中へ迎えられ、宮中のどこか判り難い所へ忍ばせ置き、夜毎に御召しになり御寵愛を受けた。そのうちに小督は帝の御寵を宿し、やがて宿に下り皇女を生んだ。これは坊門の院院子内親王で後には加茂の斎宮に成られた。其の後清盛は小督を探し出して尼となして追放した。その時小督は年二十三才であった。

ことがあり、また観客が数日後その舞台を思い起すとき、そうした舞台の交流だけでは、一回的な舞台そのものは、日常にまぎれて忘れられてしまふものである。それに反してこの日のシテ(観世寿夫師)には、日常的な意識を拒む冷削さがあった。ひとり花籠を背負い、他二人は負柴に、鎌を持つたツレ三人をしたがえた前シテの草刈男には、なんら演者の個人的な表現の影、また二十八才で傷ましう戦死をとげた敦盛の心理も思い切りよく隠されていた。

これは師が地謡に座したときとの変化で驚いたことであるが、シテは直面でありながら固定した死者の面に近づいており、生者の意識的な動きは少しもなかつた。舞いもまた前シテ後シテとも、一つとしておろそかにされず、開かれた何もない空間にひとり孤を運ぶ、まさしく人形のようにあつた。

更におくられたと思うほど間をとり発せられる謡いは、感情の起伏が感じられないほど、したがってシテとツレとの関係はアンバランスで緊張感はなくツレは高層のため

演能カレンダー [7月] 16日(日) 齊川秀子師 師範二十周年記念会 (熱田神宮 能楽殿) [8月] 5日(土) 名古屋新能 7月17日(月) 一宮七夕まつり 協賛能 (一宮) (前号7月7日とあるは17日の誤り)

明和本 「謡曲英華抄」 故二松庵著述より 丁度二百年前の明和八年(一七七一年)に刊行された二松庵著「謡曲英華抄」(全三巻)という書物がある。

秋の大和路を訪ねる 謡曲名所めぐり 会員募集 [コース] 三輪神社-当麻寺-龍田大社など 10月10日(祝) 4,000円 (バス代、屋敷代・拝観料を含む) 主催 能楽の友社

流元 剛行 金流 本家 観世 流元 檜書店 101 東京都千代田区神田小川町2-1 604 京都市中京区二条通数屋町東入

重要無形文化財保持者 新たに45名指定

梅若猶義氏 観世流・梅若猶義氏は、七月五日午前一時四十分がん性腹膜炎のため真面目の自宅で逝去。享年六十一歳。告別式は七日午後三時から自宅で、行なわれ大阪観世会会長大西信久氏が葬儀委員長となり、京都地区はじめ各地の能楽関係者の会葬の列ひきまぎらず、当地からも名古屋観世会を代表して柴田初太郎、佐藤太俊、熊沢恵美子氏ら、能楽の友社として殿島修二氏らが参列、悲しみのうちにまわめて感傷で

料理 あつた 蓬軒 本店 熱田区神戸町三四 電話(07)868618 本宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(07)5598(代表)

民芸食事処 まんだら 名古屋市西区浅間町3番地 TEL 524-0168 西みやか 名古屋市西区浅間町3番地 TEL 531-5507・6666

能楽の友社 上本町2-20 464) 7984 36393 年 400円 500円 35円

演能案内 六月十一日(日)午前十一時始 六月十八日(第三日曜日)午前十一時始 熱田神宮 能楽殿

宝生流 全曲 旅の友

合本(全一冊) 14,500円(〒170円)
天地人(三冊)揃 16,000円(〒170円)
分売各 6,600円(〒140円)

わんや書店

〒101 東京都千代田区神田保町3-9
TEL(263)6771代 振替東京 4163

能 楽 の 友

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一部 35円

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

3日 大衆能
能三番 愛知文化講堂で

秋の演能シーズンにさきがける
「大衆能」は九月三日(日)愛知
文化講堂で催される。
主催は中部能楽師会、後援愛知
県名古屋市、社団法人名古屋能楽
協会、社団法人能楽協会名古屋支
部、親世、金春、宝生、金剛、
喜多各流、および狂言和泉流によ
り能三番、狂言一番、舞獅子三番
ほか仕舞で、大衆能にふさわしい
内容で充実した演能が期待されて
いる。
番組は別項のとおりで、能は宝
生流能「清経」(シテ内藤泰二)
親世流能「松風」(シテ梅田邦久)

秋の大和路を訪ねて

謡曲名所めぐり

10月10日実施 会員募集中

本紙では、毎年「謡曲名所めぐり」のバス旅行を企画し、多数のご参加を得て好評を得ておりますが、このたびは第四回「謡曲名所めぐり」として、秋の大和路を訪ねる会々を今秋十月十日(祝)に催します。

古代文化の花咲いた大和の歴史は、何か私たちがひきつけるものがあります。謡曲にうたわれる由緒も非常に多く、その範囲も奈良県一円にわたっています。今回はとくに山の辺の道、三輪山、大神神社(三輪)、中将姫受茶籠の当麻寺(当麻)さらに、いかるが

の里・龍田大社(龍田)在原業平の不退寺(在原寺(井筒))の名所めぐりを企画しております。
日時 十月十日(祝)
集合 テレビ塔北側 8:20
出発 8:30 帰着 20:30
(雨天でも実施します)
コース テレビ塔一各四国道一各阪国道一三輪神社(三輪)一当麻寺(当麻・雲雀山)一龍田大社(龍田)一不退寺(井筒)一各阪国道一各古屋

の里・龍田大社(龍田) 在原業平の不退寺(在原寺(井筒))の名所めぐりを企画しております。
日時 十月十日(祝)
集合 テレビ塔北側 8:20
出発 8:30 帰着 20:30
(雨天でも実施します)
コース テレビ塔一各四国道一各阪国道一三輪神社(三輪)一当麻寺(当麻・雲雀山)一龍田大社(龍田)一不退寺(井筒)一各阪国道一各古屋

大衆能
九月三日(日)午後二時始

愛知文化講堂
(宝) 清経 高安 滋郎 吉田 定男 鬼頭 季信
(喜) 高砂 和島富太郎 河村総一郎 野崎 昭彦
(親) 船弁慶 護辺 三郎 後藤孝一郎 藤田六郎兵衛
(親) 野守 柴田 収武
(親) 三人片輪 野村又三郎 井上松次郎 佐藤 友彦
(親) 融 片山慶次郎 吉田 定男 鬼頭 八郎
(喜) 塚 西村 敏也 寛 助川 竜夫
(喜) 後見 和島富太郎 地廻 山口 小泉 勝亮才 梅津 忠彦
(喜) 後見 富田 陽二 山本 小泉 勝亮才 梅津 忠彦

株式会社 上田観正会
観正会上田照也
〒653 神戸市長田区大塚町二丁目一六
TEL 六九一一五四四九番

名古屋 観世九皇会
観世喜之
観世武雄
増田 一雄
塚本 秀雄
有賀 滋子
長谷川 保彦
加藤 武弘
青木 美智子
高木 美智子
吉田 妙

中日文化センター特別教室
観世元昭
武田 詔 樂 会
武田 小 兵 衛
武田 欣 司
武田 邦 弘

徳島市吉野本町四三谷内
電話 徳島(五三)四七四四番

徳島市吉野本町四三谷内
電話 徳島(五三)四七四四番

徳島市吉野本町四三谷内
電話 徳島(五三)四七四四番

本 店 熱田区神戸町三四 電話(671)8686、8
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(682)5598(代表)

能 紀 行 (22)

二人静

文と絵 二井栄逸



京の都には、ねこ餅が銀色に輝いて、吉野はなかく、氷がはりついでいて冷えびえとしていた。

丘の上の葉桜が、一せいに風になびいている。葉の間にほつんぼつんと黒ずんだ実さえ見える。

源氏ぼたるなら四、五位位入れると満員になりそうなるほど、淡紅紫色で、箱等にカルカヤと生けるとまことに風情があつてよい。

一人静は林の中で一人さびしく咲いている姿を、吉野の山に捨てられ、(別れたのである)道にふみ迷い林の中をさまよひ歩く源氏の妻静御前に見たての命名だったのである。

勝手明神を祀る社で、一棟二社の宮造りが珍らしいとされている。境内の隅に、鏡鏡公御跡舞塚と彫った自然石があり、ここが静が静やしづしづのをだ巻くり返し、昔を今になすよしもがな、とうたいながら法楽の舞をまつたという。この吉野山、今は吉野熊野国立公園の一部で、南朝の史跡と桜の名所で有名である。

第16回 大阪新能

8月11・12日生国魂神社で

大阪新能は、ことし第十六回を迎え、八月十一日と十二日の二日にわたり生国魂神社境内で行なわれる。

第一日(八月十一日)は、金春流能「放下僧」(シテ金春見実) 観世流能「熊野」(シテ大柳秀夫) 観世流「安達原」(シテ生一泰知) はか狂言「清水」舞臺子「春日龍」(シテ辰巳三) 世襲狂言、大島清大

第二日(八月十二日)は、観世流能「俊寛」(シテ大西信久) 観世流能「吉野天女」(シテ梅若盛) 観世流能「夜討留我」(山本勝一、山本真義) 狂言「滝男」(多流舞臺子「小督」(新能弘憲) 仕舞五番、沢田寅太郎新能委員長 あいさつ。

開演は午後五時二十分(二時間前開場) 雨天順延。入場料当日券六百円、前売り五百円(各一日) 入場券は大阪市内各アミヤガイ

大和知事会 服部 抄 辰彦

本田秀男師追善 名古屋金春会 名古屋金春会では、九月二十四日(日) 熱田神宮能楽殿で、本田秀男師七回忌追善能を催す。曲目は「田村」前シテ林鉄郎、後シテ松本武、ワキ西村欽也はか書調、仕舞など、来聴歓迎。

梅若盛 義 梅若猶彦 梅若修 一 名古屋修 諷 会 梅若修 一

大垣浦声会 近藤 乾 三 和 辰 巳 孝 会 事務所・愛知県愛知郡和合ヶ丘 戸田 秀雄 方

梅若盛 義 梅若猶彦 梅若修 一 名古屋修 諷 会 梅若修 一

大 鯛 末 吉 蛸 会 後 藤 契 雲 名古屋市中区中村区柳瀬町二二四〇

金剛流 春 鶯 会 山田 仁 三 郎 中部 金 剛 会 山田 仁 三 郎

盛久 九月十日(第二日曜日)午後一時始 熱田神宮 能 楽 殿 梅若方紀夫 武田 志房 曾日 一佳

山本 真義 武田 志房 水藤 元三 佐藤 元三 尾関健 太郎 高野 瀬 透 山本 真義 山本 真義

豊 嶋 弥 左 衛 門 豊 嶋 三 千 春 京都市東山区知恩院山内林下町 金剛流 春 鶯 会 山田 仁 三 郎 中部 金 剛 会 山田 仁 三 郎 清 風 社 金剛流 大塚 一 二 今 井 幾 三 郎 林 鉄 郎 大 阪 喜 多 会 和 島 富 太 郎 会 宝塚市宝梅一丁目十二一 電〇七九七七一七八六三〇番 福 岡 周 斎 市川市真間二二二七 喜 多 流 山 本 才 助 川 竜 夫

本地 海人(喜多流)

本曲

本地 芦対

ヤノ曲

トリ地 東北

ヤアノ曲

オクリ地 龍田

本曲

本地

上7字 下5字

本間

前小節 上8字 下4字 後小節

半声の間 ヤアの向

前小節 上6字 下5字 後小節

ヤの間 ヤアの向

前小節 上3字 下5字 後小節

ヤアハの間 半声の間

次に開は突抜でどの様に連用されているか
その一部を实例で示してみることにいたしま
しょう。

小ノリ基本字数12字(上句7字、下句5
字)の場合は本間となります。(16図)

上句が一字多く八字となった時、前小節に
割込み半声の間となり、後小節の場合は上句
5字でヤアの間となつていきます。(17図)

上句が一字不足でヤアの間となり、後小節で
節は前述の半声の間となります。(18図)

上句が一字不足でヤアの間となり、後小
節は前述の半声の間となります。(19図)

宇治田政雄

謡(曲)のリズム

盛久 梅若乃紀夫 舞

野三 片山慶次郎 舞

野宮 杉浦元三郎 舞

白楽天 柴田初太郎 舞

松風 山本真義 舞

女花 梅若乃紀夫 舞

盛久 梅若乃紀夫 舞

野三 片山慶次郎 舞

野宮 杉浦元三郎 舞

白楽天 柴田初太郎 舞

松風 山本真義 舞

女花 梅若乃紀夫 舞

盛久 梅若乃紀夫 舞

野三 片山慶次郎 舞

野宮 杉浦元三郎 舞

白楽天 柴田初太郎 舞

松風 山本真義 舞

女花 梅若乃紀夫 舞

安達原 片山慶次郎 舞

付祝言 主催名古屋観世会

入場料 指定席一、五〇〇円 自由席一、二〇〇円

甲込み取扱 名古屋観世会楽師・熱田神宮能楽殿

入場券は大阪市内各アライガイ

毎世流能一舞野(シテ大柳秀次)

観世流「安達原」(シテ生一泰知)

はか狂言「清水」舞臺子「春日龍

神(辰巳孝)仕舞六番、大島晴大

前開場(雨天順延)

入場料当日券六百円、前売り

五百円(各一日)

京都高安会 岡 治郎右衛門	豊 嶋 十 郎	福 王 信 光	福 王 輝 幸	福 王 茂 十 郎	福 王 王 会	衣 斐 正 宜	長 田 正 宜	麦 の 会	呉 竹 会	吉 田 俊 彦
京都高安会 久 保 田 千 三 郎	西宮市松原町一三三三 TEL(〇七九八)〇三三三七番	西宮市名次町六ノ二	大坂市東区平野町一ノ二五	大坂市東区平野町一ノ二五	西宮市名次町六ノ二	飯 島 六 之 佐	幸 正 祥 光	幸 正 祥 光	飯 島 六 之 佐	飯 島 六 之 佐
京都高安会 藤 田 六 郎 兵 衛	京都府乙訓郡長岡町 開田野野一ノ一七 電話(〇七五)九三二二五二三番	西宮市名次町六ノ二	大坂市東区平野町一ノ二五	大坂市東区平野町一ノ二五	西宮市名次町六ノ二	飯 島 六 之 佐	幸 正 祥 光	幸 正 祥 光	飯 島 六 之 佐	飯 島 六 之 佐
京都高安会 藤 田 六 郎 兵 衛	京都府乙訓郡長岡町 開田野野一ノ一七 電話(〇七五)九三二二五二三番	西宮市名次町六ノ二	大坂市東区平野町一ノ二五	大坂市東区平野町一ノ二五	西宮市名次町六ノ二	飯 島 六 之 佐	幸 正 祥 光	幸 正 祥 光	飯 島 六 之 佐	飯 島 六 之 佐
京都高安会 藤 田 六 郎 兵 衛	京都府乙訓郡長岡町 開田野野一ノ一七 電話(〇七五)九三二二五二三番	西宮市名次町六ノ二	大坂市東区平野町一ノ二五	大坂市東区平野町一ノ二五	西宮市名次町六ノ二	飯 島 六 之 佐	幸 正 祥 光	幸 正 祥 光	飯 島 六 之 佐	飯 島 六 之 佐

放送予定 NHKラジオ 第2放送 8時

13日(宝生)素謡
「鶴 鶴」今井 泰男
「水 壺」松本 恵雄

20日(観世)素謡
「松 風」観世 元正

27日(観世)素謡
「蟬 丸」片山博太郎

9月3日(観世)素謡
「小 雀」清水要之助
「通小町」清水要之助

9月10日(宝生)「砧」宝生九郎

9月17日(観世)「三井寺」坂井音次郎

演能カレンダー

[9月]

10日(日)名古屋観世会別会 素謡会
(有料) (番組③面)

17日(日)加藤そで追替 加藤良久社中
藤門会 (来聴歓迎)

24日(日)本田秀男師七回忌
名古屋金春会追替能 (来聴歓迎)

[10月]

1日(日)名古屋九皋会 (来聴歓迎)

8日(日)名古屋淡文会 (来聴歓迎)

10日(祝)舞 雲 会 (来聴歓迎)

15日(日)邦 謡 会
一以上 熱田神宮能楽殿

9月3日(日)大 衆 能 (有料)
番組①面 愛知文化講堂

10月1日(日)名古屋市民会館開館

狂言 共同社

名古屋和泉流

野 村 万 蔵

善 竹 忠 一 郎

小 寺 金 七

山 口 義 郎

助 川 竜 夫

森 茂 好 才

山 木 才

第十一話 清 経

清経の曲は、平家物語や、源平盛衰記にある記述がもとになって書かれていたように思われるが、その両方にも清経に関する事蹟は余り詳しくは出て居らぬのに、これ等の僅かの資料で本曲を上手に作り上げられた佐阿弥先生の手腕は全く敬服の外はない。

二番目の曲即ち修羅能の通例として、旅の僧が通りかかったのを、その辺で戦死した武将の亡魂が現われ、色々物語る末に回向を頼み、修羅の標を現し終には成仏するというのが普通であるのに、本曲では之と趣と異にしており、清経は戦死でなく、入水自殺したので、家来の後津の三郎が、形見の黒髪と肌を守りとを持ち、都へ

清経の未亡人に届けた。未亡人は太く悲しみ、武将として花々しく戦死を遂げずして、我と我身を捨て、入水自殺するとは誠に情け無い次第と歎き見る度に心づくしの髪なればうさにぞ返すものやしろへ一首を詠み、せめて夢になりと

謡曲雑話 西村弘敬

軍に左兵衛の督平の知照、左中将清経其の他総勢三万余騎にて発向し、墨殿川(今の本曾川)を隔てて戦い、大勝利を得て帰った事があり、此時に清経も従軍した事が平家物語に出て居る。寿永二年七月に、本曾義仲が都へ攻めよると聞かされたので、平家

方一同恐れをなし、西園方へ落ちんとてそれぞれに支度して、二十五日の早朝に出発した。その時に清経は妻を同道せんとしたが、親に止められてやむなく妻を残して行った。平家一同は九州大宰府へ一旦落付きたる後、宇佐の宮へ行幸なし七日の間参籠して祈願の時、宗盛はこれの事を聞いて打罵き胸ふさがり涙間しさに

然るにこの宇佐参籠の事は謡曲には柳が浦へ着いてから宇佐行幸があつた事になつて居て、此点が時期相違があるが、ともかくも前記の様な御夢想にて、到底神の御加護を得る事叶わず、行末も覺束なく将来を悲観した結果、遂に投身自殺をなしたものとと思われる。これより後一同八島へ移つてか

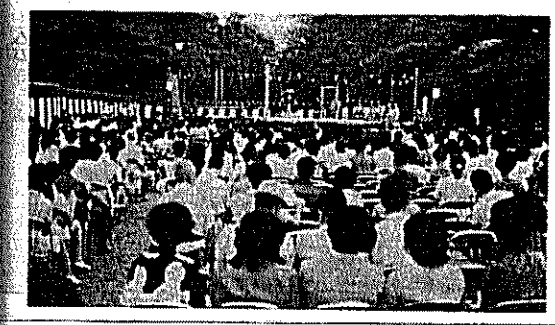
「釣狐」の由緒 近江の勝楽寺

狂言「釣狐」の伝説のある勝楽寺は、滋賀県大山郡甲良町にあり佐々木道善公の開基で、また、唐館跡である。道善公は足利尊氏の命に依り、南北朝時代の近江守護職を司つていたが、さる仔細あつて、公は尊氏の激怒に触れ、上総國に客死された。子高秀は亡父の冥福を祈らんがために應永四年正月、この地に一院を建立し、京都東福寺受雲和尚の法嗣靈海和尚に願請し、六百年を閉して居る。

勝楽寺福荷に祭られる「釣狐」の伝説は、環蔵主(はくそうす)という僧が此の寺に居住したところ、その肉弟狐野のある金石衛門のために、白狐と誤られ、非業の最後を遂げたという狂言発生を語るもので、このことは近江に記載されている。また此の勝楽寺は、井伊家の元領地であり、井伊大老の作曲として、狸の「腹鼓」「鬼ヶ宿」等ありて狂言大藏家に伝つて居る。なお勝楽寺は東海道總河原町下車、金屋までバス乗車、又は、彦根より近江鉄道にて尼子下車金屋までバス。(佐藤明三郎)

名古屋新能

中京の夏の納涼能といふべき名古屋新能はことし第七回をむかへ熱田神宮境内、神楽殿前仮設舞台で五日午後五時半開演された。



当日は好天に恵まれ、神宮参道には新能の提灯がめぐるされてムードを盛りあげ、喜多流舞囃子「岩船」に始まり、仕舞「屋島」「半菀」「天鼓」宝生流・舞囃子「松風」につづき、熱田神宮長谷晴男権宮司による厳かな火入れ式、杉戸名古屋市長代理として戴克巳教育長から「能に対する市民の関心が高まってきたとき、名古屋新能が

第七回を迎えられ盛大に開催されることを祝う。協賛された熱田神宮、出演の中部能楽師会のご熱意に感謝するとともに、芸能文化の普及発展のため一層のお力添えを賜りたいとあいさつ、かがり火の映えるなかで能「岩川」仕舞「鶴」狂言「太刀舞」最後に能「鉄輪」で千五百人の観客を魅了して午後九時終演した。

大槻能楽堂での夏季錬成囃子会

毎年盛夏に錬成囃子会が、大槻能楽堂で行なわれているが、名古屋からも、笛の眞三郎、大鼓の寛一、小鼓の福井啓次郎の三師と小生が参加しているが、暑さを克服しての皆様の熱演には真に頭の下がる思いがする。お囃子の前記三氏も、よい勉強になるからと張りきって毎年一緒に出かけられている。本年度の番組を左に記してみると、中には遠いものが出ていて大いに楽しく拝見することができ盛夏錬成の意義があると毎年参加している。

夏季錬成会番組

Table listing the summer training program with columns for actor names and roles. Includes names like 放生川, 天鼓, 野宮, 実盛, 三輪, 遊行柳, 唐船.

Table listing the names of the performers for the summer training program, including 須磨源氏, 百萬, 松風, 芦刈, 藤戸, 融, 竹生島, 浮舟, 松山鏡, 菊菴童, 放下僧, 合浦, 通盛, 藍染川, 高砂.

明和本

「謡曲英華抄」② 故二松庵著述より

功を積み修業をなすして一トふし二節覚えたりとも、みづから上手の奥義を窮る事かえつておろか成事なるべし。人の謡をきくも我分量より上の事は聞えかたきものなり。しかればみだりに他人の謡をそしるべからず。其人の弟子といひたる斗にて習ひもなして師のほをいふ。たとひ人より許す程の上手なりとも他人の謡を評しあしく議るべからず。下手は上手の筋といふ事あれば、己が謡をいよいよ慎むべし。又自身は下手なりと謙退さきて謡ふべき場所にて謡わさるも不興なり。上手下手は是非なし。時に望み、時に随ひて興する此道の花実なるべし。 〇一調二機三声といふ事は謡曲の至極大事也。まづ調子といふは

の友社 本町2-20 64) 7984 36393 400円 500円 35円

能苑で輪

能楽協会名古屋支部、協賛熱田神宮、恒例の行事として、火入れ式は熱田神宮長谷晴男権宮司によって厳かに行なわれ、杉戸名古屋市長代理が祝辞を述べた。

名古屋新能

昭和四十七年八月五日(土) 午後五時三十分 熱田神宮 神楽殿前仮設舞台

大槻清韻会

大槻清韻会

Advertisement for '欧風料理 とんかつ' (Western-style food and tonkatsu) with a large stylized character 'とんかつ' and address: 名古屋千種区大久手町4-11 TEL 731-3680

Advertisement for '鳥料理 本場名代' (Bird dishes, original name) with a large stylized character '鳥' and address: 名古屋市中区栄三丁目 電話三三二一七二〇 一〇一五五



世界と結ぶ マツザカヤ! 世界の優秀品を豊富にとりそろえました……

松坂屋

能楽の友

題字は熱田神宮 篠田宮司筆

発行 能楽の友社
 名古屋千種区吹上本町2-20
 (郵便番号 464)
 電話 (731) 7984
 振替口座 名古屋 36393
 購読料 1年 400円
 郵送の場合 1年 500円
 一 部 35円

名古屋市民会館落成 おとしら祝賀能「翁」

10月1日 観世宗家ら来演

名古屋市民会館は、中区古沢町の旧体育館の地に建設中であつたが、このほど竣工、きたる十月一日落成記念式典が行なわれる。会館の棟落しには、能楽、舞踊など各界の出演が予定されていゝるが、能楽関係では、観世宗家の「翁」が上演される。出演は別項のとおり。

翁

観世 元正 三番叟 和泉保之 千歳 片山博太郎
 幸 義太郎 藤田六郎兵衛
 田次郎 幸 幸雄
 安福 幸雄
 幸 幸雄
 幸 幸雄

和泉会が市民会館で公演

名古屋和泉会では、第十二回和泉会公演を、昭和四十七年度名古屋市民芸術祭参加、名古屋市民会館開館記念として、十月十日、新築になった同館中ホールで、上演する。

昭和四十七年度 名古屋市民芸術祭 名古屋市民会館記念 第十二回 和泉会
 十月十日 午後一時三十分始 名古屋市民会館・中ホール
 番 組
 一「高砂」(内藤泰二 藤田)

秋の大和路を訪ねて

謡曲名所めぐり

10月10日実施 会員募集中

◇日時 十月十日(祝)
 集合 テレビ塔北側 8・20 出発 8・30 帰着 20・30
 ◇コース テレビ塔―名古屋道―名阪国道―榎本(井筒)―三輪神社(三輪)―観世宗家地「結崎」―「面家」(富城)「花籠」(当麻)―(雲雀山)―龍田大社(龍田)―名阪国道―名古屋
 (時間の関係にてコースの一部に変更あることをご了承下さい)
 ◇ガイド 謡曲名所の説明に加え謡曲を講じて頂きます。
 ◇定員 五十人、満員になり次第締め切ります。
 ◇会費 一名 四千元 (バス代、拝観料、昼食代を含む)

二十周年記念 雲大会

九月十五日(祝) 午前十時始 熱田神宮 能楽殿

内侍 稲川 嘉子
 法皇 吉田 俊彦
 風洞 高安 勝久
 飯富 雅介
 佐藤卯三郎
 河村総一郎
 福井啓次郎
 藤田六郎兵衛

大原御幸 西村 欽也
 飯富 雅介
 佐藤卯三郎

望月 西村 弘敬
 後見 衣巳 正宜
 地謡 関口 精吉
 加藤 勝利
 竹腰 富太郎
 大竹 京一
 戸田 秀雄
 大坪 十雄
 馬場 英雄
 馬場 勝一

加藤そで氏追善 藤門会謡組
 九月十七日(日) 午前九時半始 熱田神宮 能楽殿

遊行 柳 田村 末次郎
 田島 文代
 隅田川 日下部 浦次郎
 原田 良子
 日比野 幸次郎

熊坂 長尾 正一
 吉田 定男
 後藤 孝一郎
 藤田 昭彦

松 加藤 保彦
 井 筒 橋本 淑子
 野 奥村 たね
 田島 文代
 原田 良子
 和田 清一
 日下部 浦次郎

大原御幸 高橋 二郎
 青木 武弘
 加藤 美登利
 雲雀山 吟 大竹 茂
 神戶分左衛門

名古屋観世九草会

十月一日(日曜日) 九時三十分開演 熱田神宮 能楽殿

雲林院 長谷川 章
 竜 田 手島 なみ江
 堀 高木 美智子
 ハンシキ 加藤 良久 社中

養老 小高 芳雄
 塚本 秀雄

紅葉狩 山村 昌子
 急之舞 堀

源氏供養 後藤 鈴子
 藤 戸 大鷹 明子
 野宮 田中 さん
 融 鈴木 胡蝶

通小町 村上 義美
 山田 延恒

木 後藤 新誠
 碓 後 芝村 栄枝
 野守 塚田 常子
 卒都婆小町 伊藤 勝子

狐 佐藤 卯三郎
 大野 弘之
 龍 観世 善之
 柳原 定男
 鬼頭 喜太郎
 以上(終了午後五時頃)

◎来場歓迎 先着三百名様に粗葉呈上
 主催 名古屋観世九草会
 観 世 武 喜 雄

最後の能「箱崎」
 37年1月 京都観世会(14日) で「田村」演能中に死去、七十三歳
 観世流流弊、勲四等
 野神社の能舞台建設に力を尽され

弱体の人々である事です。八名共 余り立派な体質の人ではありませ ん。在学中、水泳、体操、柔道、 テニス等運動競技で選手と申す人 は現在一名も残っておりません。 然る動物の心を見做す可きです。 金部自分の心で始末する決心掛け

名譽心の為は無理をして短命に 終る人の多き世の中です。悠々自 適して暮らす人が、長命でありま す。謡に依る長命法を研究して、 諸同好の士は是非実行して頂きた いのです。(高橋) 見

能紀行

傘の出

文と絵 二 井栄逸

(23)

二千年前地下の華麗な密室で、
ねむり続けてきた女性の遺体が、
こないだ、ほとんど完全に近い状
態でしかも弾力さえとめ、発見
された。

そこは中国湖南省の長沙(チ
ヤンシャ)であった。防湿、防
腐の技術や、絹織物、漆器、陶器
の素晴らしい出来ばえ等、古代の
中国文化の水準の高さに人々は目
をみはる。

また、一九五二年の秋には、密
林に眠る古代マヤの王墓の石棺が
開けられ、ヒスイの仮面と、色々
な装身具で飾られた男子の遺体が
発見された。マヤ文明は、中央ア
メリカのメキシコ南部から、グア
テマラ、ホンジュラスに至る地域
に栄えた文明であった。マヤ文明
が、あの条件の悪い熱帯林にどう
して発生したのか、また、あのよ
うに隆盛を誇った文化がなぜ一朝
にして滅びたのか、なぜ? 考
古学者は大きな謎としてその解明
に取り組んでいるが、まだ、未
解明の点が多く残されている。九
月下旬にはオリエンタル中村でマ
ヤ文明展が開かれるそうであるか
ら楽しみにする。

私、は、私の手首に砂をさきむ時
計の針をみながら、誰人もとめよ
うとしてとまらない、また、早め
ることも出来ないこの時間を恐ろ
しく正確な歩みにたとえ、時
間というものは多くの歴史をつく
り、すべてのくまきりをつけてゆく
姿など絶対支配者であることをつ
く、思うと共に、また人間には
夢というものがあつて、主観的に
は、時の流れの上をかけること
や、カプセルに入つて或る時限を
省略してしまふ可能性もあり得る
のだと思つて見たりする。

昔、中国の誕生(うせい)は粟
飯の出来上るまでの一睡の内に五
十年の栄華の境涯を送つた。
四番目能に那那がある。蜀の国

の誕生というものが、楚の国の羊
飛山(ようひさん)に高徳の僧が
いるときいて、その教えを受けよ
うと尋ねてゆく途中、那那の里に
つき、宿の主のすゝめにより那那
の枕に一睡の夢を結ぶ。夢中、王
位につき、五十年の栄華を極める
が、たちまち夢はさめて、人間
一生の盛衰に開悟の眼をひらくの
である。

作は世阿弥(そうごめ)られるで
あろう。世阿弥はこの誕生をし
て、一介の書生、楚國の帝王、得
悟の道士と三段に分け演じた。
すなわち迷(まよひ)、夢、悟の
三段である。

那那(中国語ではハンタン)と
いうところは、戦国時代、趙(ち
よう)の都として栄えた古い歴史
をもつ国で、河北省南部にある。
現在は新興工業都市で、付近は綿
花の大産地であり、市内には、綿
紡織、染色コンビナートを中心
に製油、農具等の工場が建設され
ている。それで、那那の枕の素朴な
イメージに結びつかない。

那那の能は昭和四十年のたしか
十周年を記念する中日五流能の時
後藤先生によって、傘の出が公演
されたことを覚えてる。

當の那那でなく、傘の出の演出
になると、シテは長柄の傘をさし
て登場する。小雨をよぶ那那の
里に宿を乞ふ誕生の姿には、すで
に詩情があふれている。

長柄の傘をさして幕を出る沈み
勝ちなシテの出と、同じ傘をさし
真の安心を得、身内に大光明を秘
めて橋がかりを帰るラストシー
ンの対照の面白さは、まことに好ま
しい。楽はパンシキ調で雨中を表
現し、最後の望み叶えて帰りにけり
の謡も、師の指示によって当日は
呂におさえて謡つたことを覚えて
いる。

雨の中に消える能、それは、秋
の夜長、長い文章でも読んでいる
ような、静けさと悲味が身内に伝
わっている感じがする。

私、は、私の手首に砂をさきむ時
計の針をみながら、誰人もとめよ
うとしてとまらない、また、早め
ることも出来ないこの時間を恐ろ
しく正確な歩みにたとえ、時
間というものは多くの歴史をつく
り、すべてのくまきりをつけてゆく
姿など絶対支配者であることをつ
く、思うと共に、また人間には
夢というものがあつて、主観的に
は、時の流れの上をかけること
や、カプセルに入つて或る時限を
省略してしまふ可能性もあり得る
のだと思つて見たりする。

昔、中国の誕生(うせい)は粟
飯の出来上るまでの一睡の内に五
十年の栄華の境涯を送つた。
四番目能に那那がある。蜀の国



謡曲のリズム

宇治田政雄

橘風会秋季大会

十月十四日(土) 午前十時半始
熱田神宮 能楽殿

玉	清	井	野	松	安	屋	杜	雲	那	野	寺	村	後	弱	富	天	融	春
經	筒	宮	風	原	仕	林	院	野	野	梅	梅	梅	梅	目	太	鼓	五	日
長谷川操	井戸和男	加藤マネ子	奥村昌子	梅若善高	井戸良造	伊藤いさを	奥村昌子	立木昌子	高安滋郎	西村敏也	河村総一郎	福井啓次郎	藤田昭彦	藤田昭彦	神田佳代子	小倉陽子	松久知代	梅若盛義
前川芳周	前田行夫	梅若修一	梅若善高	井戸良造	井上種子	菊池敏子	伊藤いさを	立木昌子	高安滋郎	西村敏也	河村総一郎	福井啓次郎	藤田昭彦	藤田昭彦	後藤孝一郎	後藤孝一郎	後藤孝一郎	後藤孝一郎
三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男	三男

風韻会秋季能

十一月五日(日) 午前九時半始
熱田神宮 能楽殿

翁	養	菊	鉢	源	安	定	安	清	竜	融	忠	野	砧	能	半	祝
千歳	水波	石黒	木吉川	源氏供養	卷	那	那	雁	清	竜	忠	野	砧	能	半	祝
近藤一清	三木美智子	石黒童子	山本福江	源氏供養	那	那	那	雁	清	竜	忠	野	砧	能	半	祝
川島兵助	吉田文字	吉田文字	岡田川鹿田	源氏供養	那	那	那	雁	清	竜	忠	野	砧	能	半	祝
正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利	正利

演能カレンダー

(熱田神宮能楽殿)

9月 (有料)

(日) 名古屋観世会別会 楽謡会
(祝) 観世会 20周年記念大会
(日) 加藤良久社中 藤門会
(日) 本田秀男師七回忌名古屋
金春会追善能

10月 (有料)

(日) 名古屋九卓会
(日) 名古屋淡交会
(土) 橘風会秋季大会
(日) 邦謡会
(土) 河村一謡会
(日) 青陽会

11月 (有料)

(日) 風韻会秋季大会
(日) 観世会定式能
(日) 観世会大会
(日) 竹韻会大会

観世会定式能
四十七年度第四回
十一月十九日(第三日曜日) 午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

観世会定式能
十一月廿三日(祭) 午前十時始
熱田神宮 能楽殿

城

割烹・小料理

- 熱田神宮能楽殿喫茶部
- 住吉小路(中区栄3-10) 電話 241-0248
- 喫茶・グリル(愛知県地下ビル) 電話 731-1128

檜書店

流元 剛行 金発 流本 世家 観宗

〒101 東京都千代田区神田小川町2-1
〒604 京都市中京区二条通鉄屋町東入

電話 (291) 2488-9
東京 3552
(231) 1990
京都 113

謡曲のリズム

宇治田政雄

以上で謡曲のリズムに關係のある事項をすべて説明いたしましたので、終まるとして今までに使用した用語の意義を、もう一度改めて説明いたします。

音楽的に一定時間の区切りを小節といふ。又いくつかの音符を一定の數に刻む事を小節といふ。又いくつかの音符のつながりを連続で分割するといふ。拍子の拍という文字は打つことでも手を打つことを拍手といふことでもわかります。

拍子

一小節(一くさり)をいくつかに刻む事を拍子といふ。又いくつかの音符のつながりを連続で分割するといふ。拍子の拍という文字は打つことでも手を打つことを拍手といふことでもわかります。

二拍子

一小節を二つに刻むことで、又一小節

観能雑感

大衆能

西谷隆

(愛知文化講座)

第十三回を迎えた「大衆能」は恐らく直接に能との關係もなく初めて能を観る観客をも想定し、能の普及のために催されたものであろう。そうであれば、選曲に、演技に能の特色を明確に現わすことが求められよう。「清経」「松風」「黒塚」とも、これから来る秋の沈み行く情緒が、表面にあらわれ、しかも亡霊、幽霊、鬼女と人の想念世界に立ち現われる不思議な存在を扱った選曲でよい能組であった。

ところで「松風」で描き出してくれた風景、月明りに波がチラチラ光る孤独で幻想的なワキの目に写る風景は、われわれの日常にはなく、都会に生活する者の内面にいつく写され記憶として残っている風景でもないであらう。それは、舞台という現在において想像された風景であった。したがって舞台での一つの乱れや不調和は、自然のようにそれを補うものはない、その部分は、画紙の破かれた部分のように残るであらう。

演能 9月 10日(日) 名古屋 加藤本 15日(祝) 名古屋 加藤本 17日(日) 名古屋 加藤本 24日(日) 名古屋 加藤本

演能 10月 1日(日) 名古屋 加藤本 8日(日) 名古屋 加藤本 15日(日) 名古屋 加藤本 22日(日) 名古屋 加藤本

演能 11月 1日(日) 名古屋 加藤本 8日(日) 名古屋 加藤本 15日(日) 名古屋 加藤本 22日(日) 名古屋 加藤本

演能 12月 1日(日) 名古屋 加藤本 8日(日) 名古屋 加藤本 15日(日) 名古屋 加藤本 22日(日) 名古屋 加藤本

各地だより

京都 金剛流・廣田陸一、廣田三三郎師の廣田後援会では、きたる十月八日、京都・金剛能楽堂で後援会二十周年記念能を開演する。

山本観衛会大会

山本観衛会は、九月十六日、大阪府東区・山本能楽堂で舞台建設四十五年、山本博之師齋寿祝賀大会を開演する。

神戸

故上田隆一師追善能 追善能が、九月二十四日(日)神戸市長田区・上田能楽堂で行なわれる。

御来場歓迎

名古屋観衛会 (終了予定 六時半頃)

そのひとつとして、能舞台の造りのため、足拍子を踏む度に、その音は耳障りに響いて不調和な流れを中絶させる場面を生み出すことになったのは残念であった。更に舞台についていえば、「清経」の妻の批評に、「松風」の旅籠の夢にシテがおぼろげにそよぐしだいにあきらかな姿をみせて登場する橋懸り。しかしこの日の橋懸りの短かさは、どうしても舞台そのものを平板にしてしまつておそれ、能舞台に工夫できないものかと思はれる。

Table listing names and roles for the '名古屋観衛会' (Nagoya Kan'eikai) performance, including names like 梅若、高安、井上礼之助, etc.

第十二話 敦 盛

この曲も二番目、即ち修羅能であるが、脇は行きつりの旅僧でなく、シテ敦盛の命を取ったかたき、熊谷次郎直実の出家した連生法師を用いてあるのが、ほかの曲とは少々趣を異にしている。

直実は一の谷の合戦で敦盛を討ち取ったものの、余りの痛はしきに遂に発心出家して、後日この一の谷に來り、往時の有様を遺想して居ると、大勢の草刈童子が來りその中に、敦盛の亡霊が交って居て、名は名乗らずとも明け暮れ回向をして戴いて居る者だと云い捨て、姿を消した。

直実は色々法事を為し申して居ると、敦盛の亡霊が昔の姿を表明して來り、平家一門は栄花の極に有ったが、世の中は恰も石の火の光りの如く、はかない結末となる事を予期しなかつたと、悔んで語った。

謡曲雑話 西村弘敬

敦盛が戦死した時の様子は、謡の中には余り詳しく出て居ないが、能の時に小書の出で脇の語りがある。

その大意は「茲に主は誰とも白波の、もよぎ切いの鋸を著、ねりぬきに、鶴雛ふたる直垂（したたれ）にて、鶴形打つたる兜の緒をしめ、連銭芦毛（れんせんあしげ）助け奉らんとうしろを見れば、味方の兵並いたり。たとえ助け奉ることも人手にかゝるならん、所詮某が手にかけ申し、後々の事ひを懸に致すに如かじと、観念して油を押し御首を賜りたり。御首はさ骨髄に徹り、発心を起して黒谷法師上人の御弟子となり、連生法師と名乗り、明け暮れ御跡を帯い

申す」云々と語つて居る。

さて、この敦盛といふのは、平の清盛の次弟なる参議修理大夫平の経盛の三男で、従五位下に叙せられて居たが、定まりたる職業がなく、依て無官の大夫と呼ばれて居た。兄の平の経政は琵琶の名手であつたが、この敦盛は、笛に堪能であつたらしく、祖父の平忠盛が鳥羽院より拝領したる名笛小枝

旅の 吉野天河社に 古能面をたづねて

かねてよりの念願であつた奈良吉野郡天河社に元雅寄進の能面を訪ねての小旅行をした。

澄み渡つた青空、緑の山々、吉野川の清流が眼前に開け、パノラマの様な美しい眺めに、感嘆の声が出る程であつた。釣糸を垂れた人たちが、伐採した吉野杉の貯木場、流域に沿つた古い街並は下市口駅だ。目的の坪ノ内へ行くバスは一日に二本しかなく、洞川行で川合というところまで乗るようアドバースを受ける。

シーズンの為か、大峠登山のグループが結構あつて乗合バスでも補助席が付き、兎廻すと女人禁制のはずなのに、登山家の女性も、ちらほらとして、臨時増発のバスは満席になつて居る。峠を越えての一時半の道程も、こんな奥深い山中を巡つた経験のない私には苦にもならず、又、七七八百メートルの高さなので涼しくて、暫しの足休めになつた。

（さえた）を、父より譲られて肌身離さず所持し、戦死した際に、この名笛を脇の袋に入れて腰に差して居たとの事であつた。

敦盛が戦死したのは、寿永三年二月七日で享年十七才との事であつた。この敦盛に因連したる曲に「生田敦盛」といふ曲がある。此の当時は一般に早婚の習慣であつて、敦盛は既に妻があつた、それは大納言資賢の御娘で玉織姫と云い、十四才の時に敦盛に嫁ぎ、十五才で一子を儲けた。後に加茂の明神へ参詣に行き、御夢の告にて父に逢ひたくば一の谷へ行けと教えられ、此の一の谷へ来て父敦盛の霊と対面した事が作られて居る。

敦盛は年漸く十七にて、世間の諸情も充分分まらぬに、あたら青春を散らした誠に通人であつた。神戸の西郊須磨公園附近に、首洗池や墓もあつて、後人の涙をさそつて居る。

の事と思いましたが、あまり厚かまし、時間も許さないで次の機会に。勉強不足の積が、実はこれ程に多くの品々が藏されて居るとは思いも寄らなかつたので、手持の本を一夜詰め込みでもよいから目を通して來ればよかつたと思つて後悔しました。

面は能楽大成の頃の形式に拘束されない作品が多く、特に若い女性の面が幾つもあつたが、特定の表情を持った生身の女性の顔に近い陰気な強い感じがしました。それと糸系統の面が、いかにも古風な、今日では観る事の出来ない親世父子の頃に、片ほとりの庭先等で演じられたであろう「翁」の有様を連想させる様な気がして印象に残りました。

元雅寄進の厨面は、特に黒漆塗りの深い面箱に納められていて眼差しが優し、や、開かれた口元は穏やかですが、どうにもならぬ諦めの力無表情であると同時に、皮面、じつと睨めて居ると激しく心をゆきさつて身振して來ました。

助け奉らんとうしろを見れば、味方の兵並いたり。たとえ助け奉ることも人手にかゝるならん、所詮某が手にかけ申し、後々の事ひを懸に致すに如かじと、観念して油を押し御首を賜りたり。御首はさ骨髄に徹り、発心を起して黒谷法師上人の御弟子となり、連生法師と名乗り、明け暮れ御跡を帯い

申す」云々と語つて居る。

さて、この敦盛といふのは、平の清盛の次弟なる参議修理大夫平の経盛の三男で、従五位下に叙せられて居たが、定まりたる職業がなく、依て無官の大夫と呼ばれて居た。兄の平の経政は琵琶の名手であつたが、この敦盛は、笛に堪能であつたらしく、祖父の平忠盛が鳥羽院より拝領したる名笛小枝

の事と思いましたが、あまり厚かまし、時間も許さないで次の機会に。勉強不足の積が、実はこれ程に多くの品々が藏されて居るとは思いも寄らなかつたので、手持の本を一夜詰め込みでもよいから目を通して來ればよかつたと思つて後悔しました。

面は能楽大成の頃の形式に拘束されない作品が多く、特に若い女性の面が幾つもあつたが、特定の表情を持った生身の女性の顔に近い陰気な強い感じがしました。それと糸系統の面が、いかにも古風な、今日では観る事の出来ない親世父子の頃に、片ほとりの庭先等で演じられたであろう「翁」の有様を連想させる様な気がして印象に残りました。

元雅寄進の厨面は、特に黒漆塗りの深い面箱に納められていて眼差しが優し、や、開かれた口元は穏やかですが、どうにもならぬ諦めの力無表情であると同時に、皮面、じつと睨めて居ると激しく心をゆきさつて身振して來ました。

随想 柴田初太郎

長眼界の名人、吉住慈誓師の御逝去は本年春の出来事、皆々も新聞紙上で御承知のことと存じますが、同師は私の青年時代時々名古屋へお越しになり、本重町の新守座で公演なさつて居り、その都度私は拝聴に参り師の発声法と節廻しに感服して居りました。名古屋にも、立派な門弟もございました。

また、同師の発声法が東京板橋区の業洲大沢康男氏により、推奨せられつゝある調息法であり、大抵血液は体重の十分の一位あり、その二分の一が腹部に滞つて居り、この血液が心臓へ還る血を妨げて居ると発表しておられます。

この滞っている血液を心臓に還してやるには、横隔膜の上下動による長い呼吸をするとの、腹圧をかけた時、静脈血は足へは行かず、心臓に還るのであると発表されて居ります。足の冷える人、腰の冷える人は腹に力が入らない人に多いと申しておられます。

私も同氏と同様の意見であり、現在私はこれを実行して居ります。息と云ふ字は自らの心と書き、調息が健康の第一条件である事は疑う余地がありません。又長息は長生に通じます。私の健康法はこの呼吸より始まります。横隔膜の上下動に依つて、太陽神経の働きを整へることが健康法の基礎となる理由をご了解くださいませ。また、この方法は、聖王二木謙三博士の仄に推奨されて居る呼吸法と一致して居ります。又大沢氏は「芸術院会員吉住慈誓さんは毎朝腹に力を入れ、この深呼吸を老年になられても続けておられる

明和本 「謡曲英華抄」 ③ 故二松庵著述より

初発の声を損すれば一番の調子を損するなり。心を鎮めよく息を引込みて後機をはずさず声を出さし。一調三機三声とせいでゆるは、この三つを兼ねて大事とする事也。調子を機にて持ち、声をば調子にて出し、文字を喉舌唇の三内にて分つべし。

○音曲なれば声は随分美しきに稀なるもの也。天声の美声はせんも或は舌を巻或は舌を弄へかき、又はふとくはそく浮沈などして面白がるる事謂の外道なり。

声はただ己が持たへを繕はずして声にむらなきより然るべし。総して声に心をかくるは誤のしたるき本也。声を忘れて曲を知れ、曲を忘れて調子を知れ、調子を忘れて拍子を知れといふは、その一ツに著させませし制（いましめ）なり。

○大き声は必ず調子乙（ゆる）ものなり。声を細めて高く振ふべし。然れども高き事過れば、こえ裏へまはるなり。声の調子、こえ

ふときをば
声を細めて息をはり
調子を高くうたいてそよま
○細き声は必ず調子甲（か）るものなり。声を幅よりとり低く振ふべし。しかれ共腹をはりてこえをいさみ出し、或は舌を喉にてひしきつけ等するはあしし。

ほそきをば
声をふとめて息をはり
調子をひくくうたふへきなり
斯くいばとて、うまれつきふとき声の細くなり、細き声のふとくなるにもあらざれば、兼て此の工夫をなして調ひ馴れれば、自然と声にくつろぎいてきて大音も小音も声の縦横自由になるに到れ

山誠に頭の下る思いがする」と二三年前の主治医誌に発表しておられます。私も現在八十三才でこの方法を実行して居ります。

さて、本題の吉住師の死亡の有様就いてですが師の格別の癖柄であり、師若六郎師にご臨終の有様を承りましたので、私も吉住師のような稀に見る大往生を望んで居りますので、聞き及びました事を、ここでお願い申し上げます。吉住師は臨終直前まで御曾孫様と愉快に談笑しておられ、突然大きな欠伸をなされたと同時に首を垂れられましたので、お家の人がすぐさま立寄り眼を見られましたら既に瞳孔はあがり、事切大往生であつたと話でありました。このような大往生は、毎日横隔膜上下動呼吸により自律神経を強化されておりました為の結果かと推察します。私も毎日調息の発声練習を横隔膜上下動呼吸で致して居りますので、吉住師の様な往生を望みます。吉住師の様な往生を望みます。吉住師の様な往生を望みます。吉住師の様な往生を望みます。

小料理と樽酒 ●ご会席にもご利用下さい●

安田屋

名古屋・東新町東北側 電話 (931) 0916 番

NHKラジオ 第2放送 8時

9月17日(日)	観世流「三井寺」	坂井新太郎
9月24日(日)	観世流「野宮」	山本博太郎
10月1日(日)	喜多流「紅葉狩」	栗谷新太郎
10月8日(日)	和泉流「井筒」	三宅九郎
10月15日(日)	観世流「半部」	観世清太郎
10月22日(日)	宝生流「殺生石」	山本三三

御料理 あつた菜 軒

本店 熱田区神戸町三四 電話(052)868618
 熱田区新宮坂町一 電話(052)5598(代表)

の友社

本町2-20
34
7 9 8 4
3 6 3 9 3
400 円 円
500 円 円
35 円

3日9月 大衆能 愛知文化講堂で

大衆能 案内

九月三日(日)午後二時始

武田詠楽会 武田小兵衛

NHKラジオ 10・11月放送予定
10月15日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰
22日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰
29日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰
11月5日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰
12日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰
19日(日) 親世流「半」相模「石政」上盛「家」城「内」沙汰

能楽の友

発行 能楽の友社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電話 (731) 7984
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

社中会公の演能

10、11月の熱田能楽殿

爽秋から銀秋にかけての中部能楽界は各流、各社中の演能が相ついで催される。
既報のように、文化の殿堂、名古屋市民会館が十月一日開館、一階と二階で千五百八席をもつ中ホールでのこけら落としには、親世宗家が来演して「翁」を上演、さらに記念行事として十日和泉狂言会が催された。
熱田神宮能楽殿では、名古屋親世九草会(一日)淡交会(八日)につづいて、十四日橋誦会(梅若盛義師)が能「熊野」(シテ奥田敏子)、十五日邦誦会(梅田邦久師)は素謡、舞囃子、仕舞三十数番、二十八日は叶石会(河村徳一郎師)が西尾孫太郎師追善能会で、能「菊慈童」(シテ跡田喜代子)「田村」(シテ山本一)二十九日は青陽会が能「俊寛」「平部」「融」の三番を上演する。
十一月は三日幸友会(福井啓次郎師)の秋季大会で一調、独調など三十数番、五日風韻会(殿島修三師)能「巴」「井筒」半能「天鼓」番囃子、翁「安宅」ほか舞囃子

演能カレンダー

Table with columns for month (10月, 11月, 12月) and performance details including event names and dates.

演能案内

名古屋橋誦会秋季大会

十月十四日(土)午前十時半始
熱田神宮 能楽殿

熊野

寺岡 佑子
奥田 敏子
高安 滋郎
西村 欽也
河村 徳一郎
藤田 六郎兵衛

春日龍神

梅若 盛義
後藤 孝一郎
見川 竜夫
三男

熱田神宮 能楽殿

素謡 菊 三高
舞囃子 三輪 今沢美和子
番外仕舞 玉駒之段 須田 正清沢一政
葉 郷 片山博太郎
中村 玲子
水野 美代子
梅田 邦久
富士太鼓 浅井 栄子
丸 今村 玲子
松 虫羽田 雅子
山 姥丸井 寿子
船 弁慶吉川 和子
劉 牧野あい子

葉石会 能楽殿

十月二十八日(土)午前九時始
熱田神宮 能楽殿
菊慈童 西村 欽也
山崎 晴代
高芝とさふ
後藤 孝一郎
鬼頭 八郎
藤田 六郎兵衛

幸友会 秋季大会

十一月三日(祝)午前九時半始
熱田神宮 能楽殿
高安 滋郎
佐藤 秀雄
吉田 定男
柳原 富司忠
加賀 敏彦
青木 武敏彦
長谷川 保彦
佐藤 塚本内
太 秀雄

菊慈童 西村 欽也
山崎 晴代
高芝とさふ
後藤 孝一郎
鬼頭 八郎
藤田 六郎兵衛

青陽会 能楽殿

十月二十九日(日)午前十時半始
熱田神宮 能楽殿
梅田 邦久
富士太鼓 浅井 栄子
丸 今村 玲子
松 虫羽田 雅子
山 姥丸井 寿子
船 弁慶吉川 和子
劉 牧野あい子

菊慈童

西村 欽也
佐藤 秀雄
吉田 定男
柳原 富司忠
加賀 敏彦
青木 武敏彦
長谷川 保彦
佐藤 塚本内
太 秀雄

幸友会 秋季大会

十一月三日(祝)午前九時半始
熱田神宮 能楽殿
高安 滋郎
佐藤 秀雄
吉田 定男
柳原 富司忠
加賀 敏彦
青木 武敏彦
長谷川 保彦
佐藤 塚本内
太 秀雄

菊慈童 西村 欽也
山崎 晴代
高芝とさふ
後藤 孝一郎
鬼頭 八郎
藤田 六郎兵衛

声を上げたらと考へ山添えまし
は、伴馬先生を知る人にとって尤
も事であったと感じます。名人
桜間伴馬師の逸話の一帯をご参考
に申上げた次第です。(つづく)



「楽坊」を語り上野インク1にて
少憩、軽食をとり、予定より遅れ
て午後九時すぎつがなく帰名し
た。なお同人として、殿島修三、
杉村竹翠両師が同行されぬ。

第十三話 解 (其の一)

われわれが日常何気なく語っている語の中に、難解な語句や、古語、故実、或いは宗教的な語句など、随分多く出て来るが、一々それらの語句の語源を説明し、到底出来る事でもなく、又これ等の事は学校で教えられる事も少ない様に思われ、誰でも何の事やら半ばわからず、語って居る様に思われるので、以下それ等のうち、少々ばかり採り上げて解説して、ご参考にする事と致します。もっとも数が多くて全部に渉る事は出来ませんので、ほんの少々ばかりです。これ以外に御不審のある方はお尋ね下されば出来る限り御答へ致します。

「い」の部

(1) 一院(いちいん) 例 屋嶋
「一院の御使ひ、源氏の大將」
解 現在の天皇の外に先帝の御

謡曲雑話

西村弘敬

る場合、即ち上皇、法皇の内法皇を二院、上皇を新院と呼ぶので、屋嶋の場合には後白河天皇をさす。
(2) 一日様(いちにちさま) 例 二人静 「一日様書いて御用ひ」
解 人の御用ひに一日中写経して法事をする事
(3) 一乗妙典(いちじょうみょうでん) 例 半節 「一乗妙典の題目たり」
解 法華経をさして謂う
(4) 一夜の宿(いちやのやど) 例 沢山の謡にある
解 昔は旅籠が少く、行く先の民家で宿を借りて泊るので、通常一泊だけで滞在などはせぬので一夜の宿と云う。

故大槻十三氏年譜

明治22年5月 富太郎(文吉)の長男として五月二十四日大阪に出生
同 33年5月 「船弁慶」の子方(京都)「このとき左近(二十四世宗家)花館の子方初舞台」
同 38年 東上、親世清(二十三世宗家)に入門
同 40年1月 親世會で「岩船」独立
同 41年 東京牛込二十騎町に新築、転居
同 42年 大正天皇御大典の際宮中「翁」(シテ親世宗家元滋、後の左近)の地頭
同 11年10月 親世會別會で「道成寺」
同 昭和2年11月 大阪放送局から謡曲初学講座四日間放送
同 4年3月 名古屋清韻會で独演能「一羽法師」松風「(翌月)」
同 5年9月 父大槻富太郎死去(七十八歳)
同 6年2月 大阪能楽殿で独演「三郎」(天鼓)「能

同 8年5月 故清原二十三回忌追善能「恋重荷」
同 10年9月 大槻能楽堂落成舞台披露に「翁」「高砂」
同 16年3月 故左近三周忌追善能に「卒都婆小町」(能)
同 17年2月 大槻定期會で「忠臣蔵」(能)
同 18年5月 華族會館舞台で「皇軍艦」の艦長(シテ・親之丞一華雪)
同 21年 社団法人能楽協會大阪支部発足とともに支部長(死去まで)に「旗指」
同 22年8月 故清原三十七回忌に「旗指」
同 25年 還暦祝賀能を大阪東京、名古屋、福岡に催し「猿」
同 26年10月 大槻能楽堂で独演五番能「(菊慈童)」「俊寛」「松風」「見留」「安宅」「流流」「石橋」「半能」「大獅子」
同 27年10月 故文吉二十三回忌追善能で「道成寺」「赤頭五段ノ舞」
同 28年5月 朝日會館能「安宅」

同 29年1月 大槻能楽堂二十周年記念別會で「楯垣」
同 30年5月 故左近十七回忌追善能で「三輪」「高砂」
同 31年11月 大槻能楽堂が大阪府芸術賞受賞(文化貢献で)
同 32年11月 能楽の重要無形文化財指定にもない日本能楽會(重要無形文化財保持者)會員となる。
同 34年3月 緑座で「旗指」
同 35年 古稀祝賀能を大阪(安宅)東京(鶴亀)名古屋(木曾)福岡に催す
同 36年5月 左近二十三回忌追善能に「関守小町」
同 36年11月 大槻定期會の「遊行柳」は大阪市民文化祭に参加、団体として受賞(シテ大槻秀夫 地頭大槻十三)
同 36年12月 大槻定期會における最後の能「楯垣」
同 37年1月 京都親世會(14日)で「田村」演能中に死去、七十三歳

随想談

柴田初太郎

私宅で催しましたクラス会の事
この夏、五月二十日久しぶりにクラス会を私宅で催しました。死に瀕りの老人の集り僅々八名で、市立名古屋商業学校(宿池町)第二十回の卒業生の集いです。卒業生は全部で百三十五名でした。現存者は病人共で僅々十三名であります。久しぶりの集いで、談話つきず宴会に移り、記念撮影も致し、楽しく昔話に若返りまして花を咲かしました。
この集いの世話をしてくれました中条福彦君は卒業後米国に在住し数十年前帰郷し余生を送っておられる人でもあります。この人は現在八十六才で同窓生中の高齢者であります。
そして同氏の奥見は私共諸の友で名古屋本町二丁目田家に生まれました素封家でもあります。同氏の父は那古野神社の代々の総代で、私の父と共に一代神主総代を勤められた人でもあります。又那古野神社の能楽行台に初太郎

読者の声

能楽への関心の高まりとともに熱田神宮能楽殿での演能もさかんに行なわれることは喜ばしいことである。能楽殿へ通うのを楽しみにしている者ですが、最近能楽へテープレコーダーを持ちこんで勝手放題に録音するものが、とみに多くなつたような気がします。これは側にいる人にも不快の念を抱かせることで、道義的にもどうかと思つて、舞台と見所が一体になったムードのなかで録音の音がするのはなんともやりきれません。
テープレコーダーを持ちこむことが良いのか悪いのかということに判りませんが、迷惑になることはたしかです。能楽殿の方ではどのように考えていられるのか。と

今迄生存出来る人と思われぬ人の集りであつた事です。
この事実より推し計りますと、現在世界中オリンピック選手の第一人者が果して長命出来るかと疑いたくなります。各政府も競技に重点を置き、第一位争いの金メダルを獲得した人の寿命の統計が見たいものと考えさせられます。私も同窓会より推し計りますと体育競技の選手の長命は如何かと考えます。
世の中は実に面白く出来ております。医師が短命で僧侶が長命で来ると存じます。その「氣」の字を研究して頂きたいのです。その氣が一番大切です。空気が、電気、磁気……先づ氣の付く熟字を集めてみて下さい。病氣も氣が付いておられます。犠牲を見れば氣持よくあります。病でありませぬ氣のせいでは、医師や薬に頼り過ぎる傾向が目立ちます。全部自分の修養による事が第一条件です。自然動物の心を見よう可いです。動物の心は是非実行して頂きたい

名古屋能楽史の一ページを飾る名古屋能楽會発祥の舞台であります。内田源之丞と申しました。又その御長男は内田源兵衛師で、宝生流謡曲の先生を一代なさいました。近藤三郎に師事され藤門会を起し、相当の勢力を持つて宝生流を広められた有為の士であります。
その妹さんは美声家内田女史で喜多流の謡い手になられた人であります。早逝せられたので、又今回同窓会を催された中条氏は、宝生流内田源兵衛師の弟さんであります。この様な事は私以て外御存じないと思ひ、ここに一寸社団法人名古屋能楽會発祥の歴史を一寸サリ付け加えました。
さて私の健康について、茲で申し上げたいのは、今回私宅集いの同窓生は在学中は最も弱虫で、虚弱体の人々である事です。八名共余り立派な体格の人ではありません。在学中、水泳、体操、柔道、テニス等運動競技選手と申し、自然動物の心を見よう可いです。動物の心は是非実行して頂きたい

宝生流雛子仕舞全集 全八巻 価各 2,500円
宝生流の雛子、仕舞の稽古、独習に欠かせないテキストです。
認山文(スミ色)に型どころ(朱色)を記入してあります。
第1巻(あ〜う) 第2巻(え〜か) 第3巻(き〜さ) 第4巻(し〜ち)
第5巻(つ〜は) 第6巻(ひ〜ま) 第7巻(み〜ろ) 第8巻(舞物)
わんや書店

柔道着製造販売 株式会社 白虎堂
名古屋市西区笠取町 電話(522) 6161番

友社 本町2-20 (4) 7984 36393 400円 500円 35円

名古屋市民会館落成 祝賀能「翁」

二十周年記念 雲林院 長谷川 竜田 手島なみ江

エンゲージリング
ウェディングリング
イニシャル無料彫刻



名古屋で1番
地下鉄で便利な店
山田宝石
本山駅 ☎762-2434
Jewelry Adviser 山田豊二

ジュニアコーナー
駐車場完備
駐車場はビル裏西側
に用意してございます

能 樂 の 友

発行 能 樂 の 友 社
名古屋千種区吹上本町2-20
(郵便番号 464)
電 話 (731) 7 9 8 4
振替口座 名古屋 36393
購読料 1年 400円
郵送の場合 1年 500円
一 部 35円

演能カレンダー (熱田神宮 能楽殿)

- 〔11月〕
11日(土) 名古屋修演会大会
15日(水) 菱の会 (有料)
19日(日) 観世会定式能 (有料) (番組①面)
23日(祭) 名古屋観舞会大会 (番組①面)
26日(日) 故 田鍋一郎師追善
竹韻会大会 (番組②面)
- 〔12月〕
3日(日) 歳末助け合い義演金募集能 (有料) (番組①面)
10日(日) 宝生会定式能 (有料)
15日(金) 金春流名古屋学生連盟能楽鑑賞会
- 〔48年1月〕
3日(水) 能楽協会名古屋支部新年開初式
5日(金) 笛方藤田流吹初会
6日(土) 学生能楽連盟能
15日(祝) 大槻清韻会能 (有料)
21日(日) 宝生会定式能 (有料)
28日(日) 和島富太郎(喜多流) 泉嘉夫(観世流)
野村又三郎(和泉流) 合同能 (有料)

11月26日(日) 伊勢市吸園にて
喜多流謡曲舞囃子会 (番組②面)

NHKラジオ
第2放送 8時
11月12日(日) 観世流「揚 貴 妃」 武田太加志
19日(日) 観世流「葛 城」 梅若 泰之
和泉流狂言「内沙汰」 野村万之丞
26日(日) 金剛流「船 井 慶」 豊嶋弥左衛門
12月 3日(日) 観世流「定 家」 武田太加志
10日(日) 喜多流「鬼界ヶ島」 後藤 得三
17日(日) 宝生流「鉢 木」 宝生 英雄

<テレビ> 11月23日(祝) 午後1時 教育テレビ
金春流能「恋重荷」 桜間道雄、森 茂好

能楽協会名古屋支部では、昭和四十四年から歳末助け合い運動に協賛して義演金募集能を公演、能楽愛好者の温かい理解と協力によって盛大に催され、愛知県、名古屋市にそれぞれ義演金を寄託してきたが、こゝし第四回の義演金募集能がきたる十二月三日(日)熱田神宮能楽殿で催される。

第4回 歳末助け合い 義捐能

能楽協会名古屋支部主催
12月3日 熱田能楽殿で

義捐金募集能(第四回)
十二月三日(日) 午前十一時始
於 熱田神宮 能楽殿

能(観) 鈴 木 高安 滋郎 吉田 定男 寛 三男
能(舞) 藤原 美子 殿島 修二 後藤 孝一郎 佐藤 秀雄
能(謡) 富 士 太 鼓 有賀 滋子 鬼頭 喜太郎
能(舞) 舞 臺 子 藤 井 啓 次 郎 藤 田 六 郎 兵 衛
能(謡) 後 藤 孝 一 郎 佐 藤 秀 雄
能(舞) 舞 臺 子 藤 井 啓 次 郎 藤 田 六 郎 兵 衛
能(謡) 後 藤 孝 一 郎 佐 藤 秀 雄
能(舞) 舞 臺 子 藤 井 啓 次 郎 藤 田 六 郎 兵 衛
能(謡) 後 藤 孝 一 郎 佐 藤 秀 雄

主催 能楽協会名古屋支部
後援 名古屋市瑞穂区玉水町二六四 高安方
取扱所 各出演者自宅 プレイガイド

。息を呑むという事心を練るの法に在よし。声遣本人も此法を拵して然るべし。給して声は前にいごとく並生の音遣をいふも、思つきはひしやくに水を汲むこと。あまらは残せなくはくみたせ

。はかせは節、拍子、陰陽、序の假名の中にて切る事有まじきなり。字を転くわたりすべし。

。きこえに心をかけまじきなり。何事もあらはなるはかぶくとて。事の病なるよし。

音遣はたゞ水鳥のごとくにて

付 祝 言
会員申込受付
名古屋観世会員楽師
熱田神宮能楽殿

主催 名古屋観世会

山本博之師喜寿祝賀
名古屋観舞会大会
十一月廿三日(祭) 午前十時始
熱田神宮 能楽殿

番外連吟 養 老 波多野 敬
松浦信一郎
加藤総兵衛

観世会定式能
十一月十九日(第三日曜日) 午前十一時始
熱田神宮 能楽殿

能(謡) 梅若 六郎 高安 滋郎 河村総一郎 寛 三男
能(舞) 女 郎 花 大 岡 末 吉 塚 本 秀 雄
能(謡) 梅若 六郎 高安 滋郎 河村総一郎 寛 三男
能(舞) 女 郎 花 大 岡 末 吉 塚 本 秀 雄

能(謡) 梅若 六郎 高安 滋郎 河村総一郎 寛 三男
能(舞) 女 郎 花 大 岡 末 吉 塚 本 秀 雄

本 店 熱田区神戸町三四
電話(671) 8 6 8 6 1 8
神宮東門店 熱田区新宮坂町一
電話(682) 5 5 9 8 (代表)

御来場歓迎
先着三百名様に
粗茶進呈

主催 名古屋観舞会
山本博之
山本博之
山本博之

後援 朝 日 新聞 社
事務所 名古屋南区観音町八ノ六六
電話六九一三〇八番

能(謡) 山本 博之 山本 博之
能(舞) 山本 博之 山本 博之
能(謡) 山本 博之 山本 博之
能(舞) 山本 博之 山本 博之

能(謡) 山本 博之 山本 博之
能(舞) 山本 博之 山本 博之
能(謡) 山本 博之 山本 博之
能(舞) 山本 博之 山本 博之



能 紀 行 (25)

ほととぎす

文と絵 二井栄逸

能の葉に無色唐紙のきれはしをふりかけたようなほととぎすの花が今さらである。

小さい花弁にコーヒー色の斑点が可愛くて、晩秋になると、私はいつもしがらみのつぼにほととぎすを育てては面窓の欄に置き、ゆくと秋を惜しむのである。

ほととぎすには、やまほととぎすや、黄色い花の玉川ほととぎす等があるが、やはり山路や海浜に自生しているほととぎすの方が好きである。

夏鳥のホトトギスの胸毛によく似ているのでこの名前がついたのだらう。

私はほととぎすとの出会いはずいぶん古い。三十五年も前であつたらうか、ところは浅草の駒形という踏屋であつた。

せであるが、その踏(どじょう)屋は、どじょうなべ専門の店ではない、かなかよくはやっていて、時代のついでにれんを広い開口

につかひなびた店、藤だたみの上にみんながすわって鍋をつつくのである。そして、紳士も馬方も一緒にある。女中さんたちは揃いの紺がすりで、湯氣と人並の

中をすいすいと身軽に鍋を運んでいたことを覚えていた。

晩秋の或る日、タクシーに鈴なりに四谷の舞台から駒形の踏屋にくり込んだ時、夕風にゆれるのれんの内側に、大きな素焼の植木鉢があり、それにほととぎすが一ぱいまことに格好よく植えられてあつたのが私とほととぎすの出合いであつた。

その時のほととぎすの印象が深い理は、実はその日の失敗が裏づけされていながらである。

ものになりきるといふことは、芝の道歩む者にとっては最も大切なことだ。その時に心にしみ込んだ。それは次のような出来事であつた。

宗家には稽古能と称する研究会が毎月行われていて、役を先生から仰せつかると毎日稽古習が続けられる。その月の目標は氷室(ひむろ)でシテはT氏が舞うことになつていて、毎朝は勿論、舞台があいていれば、時を構はず稽古がつけられた。

或る夕、それは私とほととぎすが出合った夕であつたが、先生と出合った夕でもT氏も出稽古で(喜多実先生)もT氏も出稽古で今日稽古は無いだろうと

相談一決、五人連れで、駒形にゆき、鯛をトラ腹食べたものであつた。ところが帰って見ると留守の管の先生とT氏が私達の帰りを待っていられた。

ではないか。とにかく、稽古は勿論、立

高集

て、自分に安んずる人々を多くに集めてみるべきであらう。よきところを、自分のものにしてしまつて、自分のものにしようとするのは結構なことですが、それはその人の程度によることと、まだ力量がそこまでいていない、感得がよまらぬ、



多くあるように思います。当流の謡は、多くは裏の音に属する「中謡」です。メ

一例をあげると、

花 籠 福吉 愛 吉田 定男 福吉 忠子

鳥料理 本場名代



橋 謡 会 で 能 「熊 野」

な先生であるだけに(無断で外出は出来なかつた)横つとびにすつとんで袴をつけ舞台上に坐つたもののさつきの態がまだおなかの中で泳いでいるようで落付けない。此の曲は前半が氷室守で後半が氷室の神体でとにかくしつかりした曲である。まだ前半はさまで苦しくなかつたが後半になると、胸がつかえてしまう。

かくT氏の気のぬけぬめよ必死になつて踊りつづける。しかし体が動いてはいけない。不動の姿勢でなければならぬ。先生のするどい目が薄暗い見所から舞台に向けていられている。氣力を出しつくして舞台を下り、折角食べた鯛をみんな吐いてしまった。

Table listing names and roles for a performance. Includes names like 故田鍋惣一郎, 竹韻会, 大会, 十一月二十六日, 午前九時始, 熱田神宮 能楽殿.

Table listing names and roles for another performance. Includes names like 鐘之段, 番外狂舞, 追加 融, 大槻 秀夫, 大槻 文蔵.

Table listing names and roles for a third performance. Includes names like 京都 邦謡会, 主 藤, 秋の邦謡会, 主 藤, 十一月十二日, 京都 邦謡会.

第十四話 解(其の二)

「は」の部
(1) 配所(はいしよ)
例 俊寛 「配所は扱もいつま

(2) 鳩の杖(はとのつゝ) 例 盛久
「鳩の杖にすがりつゝ」
解 昔中国にて後漢の時代に、

(3) 八丈竜王(はちだいらおう)
「等活」「黒龍」「衆合」「叫喚」

随想談

柴田初太郎

濁音の発声に就て
現在、社会生活は科学一辺倒の
有様で、国語や漢語の研究は専門

濁音の数は二十字であります。
濁音の数は二十字であります。
濁音の数は二十字であります。

「大叫喚」「黒熱」「大焦熱」
「八幡(はちまん) 例 色々の

「別教」「四教」をいう。
例 博雅の三位(はくがのさんみ)

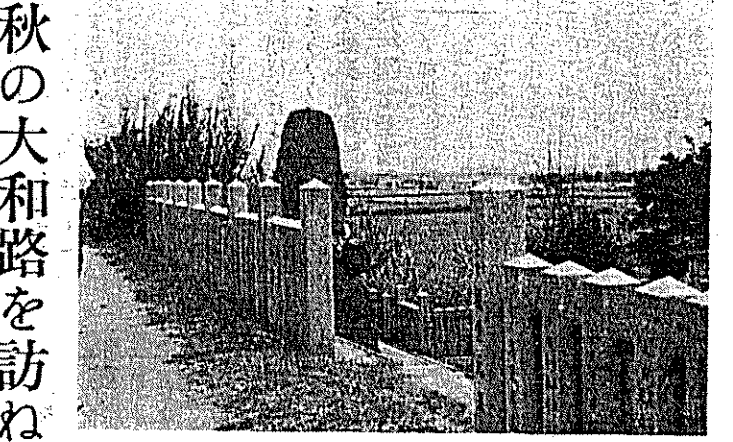
謡曲雑話

西村弘敬

「眠りをさます鼓鼓」
解 仏教の宗旨により用いる鼓

「花は根に鳥は古巣に帰るなり」
春の行術を知る人ぞ知る

「別教」「四教」をいう。
例 博雅の三位(はくがのさんみ)

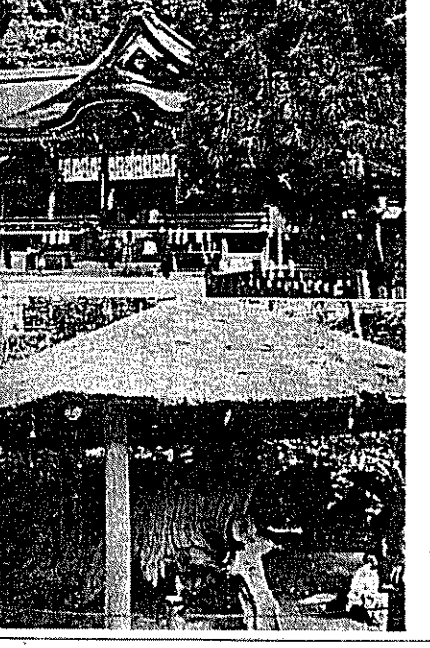


〔写真〕 ① 結崎にある面塚 ② 観世発祥の地・面塚にてのスナップ ③④ 三輪神社 ⑤⑥ 僧都玄實の「衣掛の杉」=長谷川実氏撮影

秋の大和路を訪ねる

本紙主催 謡曲名所めぐり

能楽の友社主催第四回謡曲名所
めぐり「秋の大和路を訪ねる」パ



「去後山」を同吟しつつ郡山イン
ターを経て観世発祥の地川西村結

友の楽能
吹上本町2-20
464
) 7 9 8 4
f 屋 3 6 3 9 3
1年 400円
1年 500円
35円

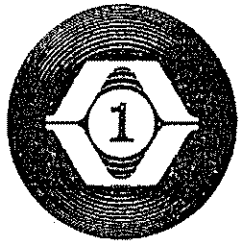
社中会の演能盛

10、11月の熱田能楽殿
素謡神 歌舞子
三輪 輪
今沢美和子
須部 市
程 正清沢 一政

鬼瓦 狂言
野村又三郎
井上礼之助

民芸食事処 まんだら
名古屋市西区浅間町3番地
TEL 524-0168
西みやか
TEL 531-5507・6666

名物きよめ餅



現代をみつめる眼
東海テレビ

能 楽 の 友

〒460 名古屋市熱田区神宮 種田宮司筆

発行 能 楽 の 友 社

名古屋市中千種区吹上本町2-20

(郵便番号 464)

電話 (731) 7 9 8 4

振替口座 名古屋 3 6 3 9 3

購読料 1年 400円

郵送の場合 1年 500円

一 部 35円

演能カレンダー

(熱田神宮 能楽殿)

[12月]

10日(日) 宝生会定式能 (有料)

15日(金) 金春流名古屋学生連盟能楽鑑賞会

[48年1月]

3日(水) 能楽協会名古屋支部新年鑑初式

5日(金) 笛方藤田流笛吹初会

6日(土) 学生能楽連盟能

15日(祝) 名古屋清韻会能 番組④面

21日(日) 宝生会定式能 (有料)

28日(日) 和島富太郎(寛多流) 泉嘉夫(観世流)

野村又三郎(和泉流) 三流合同能 (有料)

[2月]

11日(日) 観世会定式能 (有料)

18日(日) 梅猶会能

25日(日) 育陽会定式能 (有料)

[3月]

4日(日) 九阜会春の大会

11日(日) 洗心会春季大会



義捐金募集能盛會

12月3日 能楽殿で開催

能楽協会名古屋支部では、さる十二月三日、熱田神宮能楽殿で第四回歳末義捐金募集能を開催した。午前十一時初番の観世流能「鉢木」(シテ殿島修二、ツレ熊沢恵美子、ワキ高安滋郎、間佐藤卯三郎、佐藤秀雄)につづき、宝生流能「玉露」(前シテ鈴木義久、後シテ戸田秀雄、ワキ西村欽也、間井上松次郎)、「狸々」(シテ河村純二、ワキ高安滋郎)、その他狂言「蝸牛」(野村又三郎、井上礼之助、大野弘之)その他各流の舞囃子、仕舞が演ぜられ盛會であった。
なお東京では観世能楽堂で朝日歳末たすけあい運動参加・能楽協会東京支部能として十二、十三日の二日間、大阪では、十六日一部、二部として大阪能楽会館で開催される。
【写真は能「鉢木」】

12月・1月放送予定

NHKラジオ

第2放送 8時

17日(日) 宝生流「鉢木」 宝生英雄 野口緑久ほか

24日(日) 観世流「景清」 藤井久雄ほか

31日(日) 観世流「巻絹」 「三笑」

山階信弘 関根祥六

新春放送番組④面掲載

<教育テレビ> 12月31日(午前8時~9時)

金春流能「恋重荷」 桜間道雄、森 茂好

47年めだつた記念大会 15日 名古屋清韻会能

ことし秋の演能は各社中会の大盛會をさわめた。熱田能楽殿の演能は、義捐金募集能につづく宝生会定式能、学生連盟鑑賞能で新しい昭和四十八年を迎えることになる。
本年の能楽界は海外公演として地元からは観世流・泉嘉夫氏がクローデル研究者集會に参加、パリ一ほかで公演、中日訪欧能楽団も文化交流に大きな役割をになつた。

能楽殿での演能は、各流定期能をはじめ春秋の社中大会は恒例のごとくに行なわれ、とくに、三月には名古屋清韻会発会記念能、四月の大観清韻会全国大会、記念大会として、名古屋清韻会五十周年記念能(一月)名古屋観舞会三十周年記念能(一月)観世流女流師範・有賀透子師の茲水会三十周年記念大会、井川秀子師(観舞)能で期待されよう。

名古屋清韻会能は、昭和四十八年一月十五日(祝)於熱田神宮能楽殿(入場随意)第一節 午前九時半始

名古屋清韻会能

昭和四十八年一月十五日(祝) 於熱田神宮能楽殿

第一節 午前九時半始 (入場随意)

神歌 赤間 鎮雄

連吟 小 督

野 宮

松 風

難 波

藤 戸

卒都婆小町

笠之段

笹之段

玉之段

高 砂

菊慈童

連吟 俊 寛

通小町

砧 前

砧 盛

熊 坂

能 村

中村 克己

遊 行

舞 柳

舞 島

丸 子

頼 政

葵 上

善知鳥 山中 義雄

山 姥

長 光

弱法師

附祝言

主催 名古屋清韻会

後援 中日新聞

観世会定式能

二月十一日(日)午後一時始

熱田神宮能楽殿

能 組

田 村

塚本 収秀雄

久田 秀雄

観世 喜之

繪 馬

賞 舞

狂 言

笠之段

東 北

歌 占

花 籠

野村山 清司

片山 四郎

野村 元正

付祝言

主催 名古屋観世会



「三輪のスケッチ」

能 紀 行

文と絵 二 井 栄 逸 (26)

裳裾にこれを綴ぎつけて

いふし銀のようににぶく光る穂を秋風になびかせていた尾がすっかりはうけてしまった。尾花にはおまかに分けて三種類ある。一つは真麻穂といつて穂の丈が一尺ばかりある色の白いもの。又、真麻穂といつて色の赤いもの。もう一つは政穂といつて穂の丈が一尺五、六寸のこぶりのもの。私どもは、名月の夜、この三種の尾花を括めて月の座をつくり先哲をしのんだりする。

これらの尾花も今頃になると、みな白一色の枯尾花になり、いたるところに銀髪を乱して冬の歌をうたう。薄茶色のカサノコした細葉のしげみからすすいすいのびた茎の頂きの銀色の穂は、朝陽や、夕日の逆光をあびると、美しい銀髪の人か立っているかのように見えるりする。

よく髪をそめる人があがるが、年老いて黒々としていたより銀髪や半白の方が美しく年老いたといつた感じがいいものである。あくがぬけてしまった後の、すがすがしい感じがよい。

観世会定式能 (十一月十九日演能) 西谷 隆

この日、まず印象に残った場面は、演能の前夜におかれた仕舞であった。「仕舞」は、曲の一部をとり出したものであり、それだけ独立したものとなすことができない。つまり観客は、曲全体におけるその舞の役割、それにつけられた意味を全く考えず、しかも能面や衣裳にまどわされず、といつても、逆に、舞い手の生来の顔つきや身体つきにまどわされることがあるが、舞いという人間の身体運動そのものが与える何ものかに注意をはらうこともできる。

と褒りはないのではないだろうか。もちろん体操競技の場合は、人間の身体の限界に挑んで難しい技術を競うものである。しかしそのうした競い合いを離れて、限界に挑む身体運動の運動、そしてそれが生み出す線や力強さ等に注目することもできるはずである。

この日仕舞を舞った三者には、調子の弱さが気にかかったり、仕舞という短かさのため動きばかりが気に入ってきたけれども、この日演能した「父」と共に、同じ合っても緊張感のある舞台を期待できるように思えた。

さて演能にうつらう。「頼政」では、「頼政」の面に頭巾をかぶったシテ(梅若六郎師)は、見事な前かがみの姿勢で、イメーシの転換をすばやく、細かい表現をみせてくれた。しかし、その柔軟さは、七十五歳の老将、その無念の思いを忘れかねる執念を強調するのではなく、宇治の里がよび起す情緒と微妙にからみ合う「歌人」頼政の姿をうかがひあがらせていたようだ。

観世喜之師が勲章 等瑞宝章を受章

観世喜之師は、本名武雄、明治三十五年生れ、七歳で初舞台、能三千余番を演じた。昭和三十三年重要無形文化財(能楽)保持者に認定され、昭和三十八年から四十六年まで社団法人能楽協会理事、同東京支部長を歴任、国際演劇祭など海外公演に活躍した。

宝生弥一師、紫 綬褒章を受章

宝生弥一氏は、明治四十一年生れ。大正八年ワキ方で宝生宗家宝生新に師事、昭和三十三年重要無形文化財(能楽)保持者に認定、昭和二十年能楽協会理事に就任、昭和二十九年初の渡欧能楽団に参加致した海外公演に活躍、昭和四十五年芸術祭勲章を受賞。

48年度名古屋宝生会 会定式能予定番組

出版紹介 能芸文化史 富岡伸吉著

AS判 二〇〇頁 価 七 百 円 送料 百二十円

風韻会(殿島修二師)の秋期能

三番で催され、盛会のうちに終日は、さる十一月五日熱田神宮能楽

高集

また、敵の三ツ地とどこぞツツと、うとも関係があります。それらの詳しいことは、その道々にはいって学ばれるがよい。

下げや落としでも、突詰ると、いま

田舎節(いなかぶし)といひます。

おさめる心で謡うのですが、これも程度

熱心な観能者がつづけられた。

宗家 宝生九郎著 全八巻 価 各 2,500円

宝生流雛子仕舞全集

宝生流の雛子、仕舞の稽古、独習に欠かせないテキストです。

1938・6081 茶屋

115

115

115

115

115

115

115

115

故大槻十三遺稿集

「この道六十年」

(その3)

落子の場合も同じで、

の「て」は前例と同じでうみ字を出すのです。もっともここはスクイ落トシでなければ、要領は変わりません。前二例は、いづれも上句七字、下句五字の組成ですが、この字数の場合には下句のなかの下ゲや落トシはうみ字を出さないと思っていたらまず大差ありません。これより字数が多い場合、また少ない場合ももちろんありますが、その場合には

各地だより
初代今井勘三郎
百年記念能
京都
金剛流シテ方・今井幾三郎師は、同家の装統初代の今井勘三郎が明治七年四月十九日に没して明年は百年に当るので、来年四月十五日、京都室町四條の金剛能楽堂で、初代今井勘三郎百年記念能を開催する。

「無布施経」仕舞「忠度」で、出演のとおりに。
能「景清」小書松門之会釈、抜之型、シテ今井幾三郎、ツレ田田泰三、ワキ久保田千三郎、トモ西木平三郎、笛杉市太郎、小鼓曾和博、大鼓谷口寛代三

仕舞「忠度」金剛殿
狂言「無布施経」茂山千作、茂山千之丞
なお、金剛流の弟子家で百年祭を迎えるのはこれが最初である。
入場券はA(指定席)二、五〇〇円、B(自由席)二、〇〇〇円
取扱いは華月会事務所(京都市下京区万寿寺通東洞院西入)
電話〇七五(36)1753番
又は金剛能楽堂電話〇七五(92)3049番

中日五流能
三月二十五日(日)
中日劇場
〈第一部〉十時
金春流能 頼政 前シテ 金春栄治郎 後シテ 金春信高
観世流能 松風 観世元正
巽之舞

喜多流能 殺生石 友枝壽久夫
白頭
金剛流能 羅生門 金剛殿
替之型
観世流能 采女 観世喜之
美奈保之伝
宝生流能 葵上 野口 景久
梓之出

半白の方が美しく年老いたといった感じ、いいものである。あくがぬけてしまった後の、すがすがしい美しさが老人の美しさである。

にも神山らしい。奈良盆地特有の落着きのある風情は今もって史都からにしみ出てくる或種のたまたまのたまたまの七十二年の歩みは、いかに静かである。私達の祖先はなにかと、この道を歩んで来た。七十二年の歩みは、いかに静かである。

第三回 十二月 九日(日)
名古屋宝生会
名古屋市東区東門前町三ノ二
高橋勘三郎方
第二、平安遷都散策春日専属
第三、鎌倉時代田楽能狂言発生
第四、室町期能の大成と建武中興時代
第五、太閤と能楽盛時代
大宮市吉敷町三の五八
芸能研究会
振替口座東京一三六二二五
能楽の友社でもお取次ぎ致し

イロは謡本に「イ」と書いてあるもので、一曲の中にはさらにありますが、ここに述べようとするのは下節の前のイロで、これもよく質問を受けます。明和年間謡の本文を改正したとき、確か節も改正し、イロの如きもそれを謡う場所を定めたように思っています。
イロについては、下ゲから一字または二字前にイロを謡う。もし三字前に頭字があるときは一字前にイロを謡う、という原則があります。

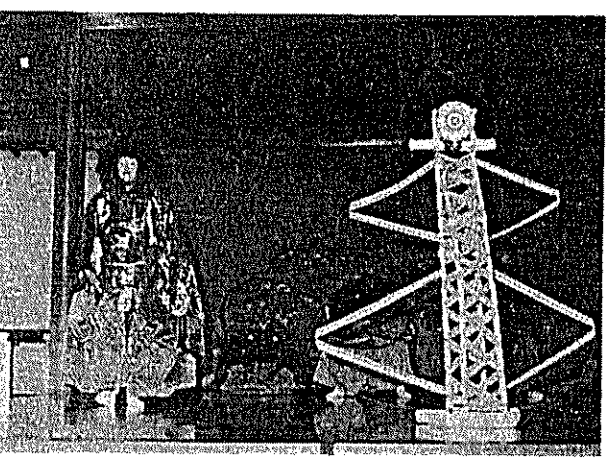
詞(ことば)では開きどころを誤りやすい。今日の謡本には、一々開きどころが明示してあるのですが、それでも変なところで開くようなことがしばしばあります。また、開き前の下がる人があります。たとえば、「これは諸国一見の僧にて候」とある。そうすると、「一見の」あたりになると、出の「これは」よりも音調がだんだん下がって来る。この下がるのはいけません。出の音調でゆかなければならないのです。

積古の順序としては、まず声を馴らすのが一番先。大きい声を出すためには、橋弁慶、鶴亀といったところからはいるものです。単に朗読しているようなやり方でも、これで声を呼び出せるわけです。声が出来てからでないと節を覚えるという事は無理な話です。
節も師匠の口真似で覚えていくので、緩急もそうです。位というものはちよっと説明に苦しみませう。つまり謡曲の番位、高下、習の区別にしたがって、それぞれ備わっている品位ですから、位がわかって貰えるのは、一通りに積古してからのことです。

これは一字前にイロを謡う例です。
これは二字前にイロを謡う例です。
三字前に頭字のある場合は、

たえば、「これは諸国一見の僧にて候」とある。そうすると、「一見の」あたりになると、出の「これは」よりも音調がだんだん下がって来る。この下がるのはいけません。出の音調でゆかなければならないのです。

積古の順序としては、まず声を馴らすのが一番先。大きい声を出すためには、橋弁慶、鶴亀といったところからはいるものです。単に朗読しているようなやり方でも、これで声を呼び出せるわけです。声が出来てからでないと節を覚えるという事は無理な話です。
節も師匠の口真似で覚えていくので、緩急もそうです。位というものはちよっと説明に苦しみませう。つまり謡曲の番位、高下、習の区別にしたがって、それぞれ備わっている品位ですから、位がわかって貰えるのは、一通りに積古してからのことです。



天鼓 弄鼓之舞
富士道周明氏



井筒物 著
水野雍子さん



巴
守部啓子さん

風韻会で能三番
風韻会(殿島修三師)の秋期能は、さる十一月五日熱田神宮能楽殿で能「巴」「井筒」「天鼓」の

ギフト商品のすべて...
ご相談に応じます
スポーツ・年末贈答・創立記念
スワン興産
TEL 935-1220・1228

中華料理
桃源亭
御宴会・御集會・御商談等には是非御座敷を御利用下さい
中区栄三丁目29(松坂屋南) 電話 241-2938・6081
支店 名鉄百貨店9階 のれん茶屋

宗家 宝
宝生流の囃
謡曲文(ス
第1巻(あつ
第5巻(つ
東京千代田
電話 55 6

第十五話 語解(其の三)

「二」の部

(1) 海(にほのうみ) 例巴
「にほの海とは是かと」
解 琵琶湖の異名にて、海という鳥が多く居たのでこの名を生じた。
女御更衣(にようごうい) 例邯鄲

例 「女御更衣の」ときは「
解 宮中にて天皇の御座所に侍する女官にて中宮の下、御即位後は皇后となる。更衣は女御の下にて、天皇の御衣を更える役である。
(3) 日想(じつそう) 例弱法師
「日想。なればはるも涙の」
解 春秋の彼岸中日は、昼夜の時間同じなる故、時正の日といふ其日の入日を念仏して拝するをいふ。
(4) 純色(じゆんいろ) 例小原御幸
「其時二位殿にぶらぶらの二つ衣に」
解 青花に墨を入れ染むる色にて

多く尼の所衣に用い、また宮中にては諷聞の時に用いる。
(5) 二仏の中間(にぶつちゅうげん) 例百鬼夜行
「二仏の中間我等如きの迷」
解 「釈迦如来滅し、弥勒未生せず」此二仏の中間の事をいふ。
(6) 二十八宿(にじゅうはつしゆく) 例鉄輪
「二十八宿を驚かし奉り」
解 春秋伝に曰く、二十八宿四方にあり、七宿共一象に成ると

謡曲雑話 西村弘敬

「一」の部

東宮 蒼龍 七宿
南宮 朱雀 七宿
西宮 白虎 七宿
北宮 玄武 七宿
合せて二十八宿とす。
「本地(ほんち) 例型衣」
「本地大勢至」
解 仏教が我が国に伝来した当座、我國では従来の神道信仰が盛んで、

はなしたうたひの音曲はうし
。人と出合い賑ふ時は、一座の宗匠或は老巧の人の調子、位等を聞き合して賑ふべきなり、自身よく賑ひ候とてさし出ふしあちらかなる事だあしし。耳にて賑ふとは此事なり。
また同音かせんとする時はつよく賑ふべし。たがいかく助け合わば同音始めより終りまでとはそなく、聞えよく声も助け合いていと多く出るなり
同音に声を太めて耳をあげよわきを強く賑ふべきなり

明和本

謡曲英華抄

故二松庵著述より

。声遣ふことは「夏(げ)百日、寒三十日」是をいふ、とりわけ冬の申木也、横の声をばたすけて遣ひ、堅の声をば押えて遣ふべし。宵に曲舞五つばかり調子高々とうたひ、曉また地こゑに曲舞三つ四つ賑ひ、おさめに調子を上げて小謡三つほど賑ひ、扨何にても食をそつと用ゆべし。さなくは遣ひたる声もとるなりと。これ古人の言伝へなり。
接するに声は井の水の如く汲みなせば清くなり。汲まざれば濁るが如く夏中兼中晝夜によらず、ただしげしげふにしく事有るまじし。
声つかふ習ひありとは申せども宵あかつきにつかひてそよぎ。息を呑むという事心を極めるの法に在よし。声遣ふ人も此法を悟して然るべし。總じて声は前にいふて

の友社
上本町2-20
64) 9 8 4
7 9 8 4
3 5 3 9 3
400円
500円
35円

月刊能楽 催殿で

観世流「王萬」(前シテ鈴木義久後シテ戸田秀雄、ワキ西村欽也) 観世流「狸々」(シテ河村鉅二、ワキ高安澄郎)の三番、狂言「蜘蛛」ほか舞獅子、仕舞など六番。 会費は千円、番組は左の通りである。

随想談 片(その四)

柴田初太郎

金春流には発声その他型など古流儀だけにいろいろの約束事がありまして、私は大変参考になる話を承っております。それを申し上げると長くなりますので、ここに簡単に調音に關しては止めておきます。
息を吐き出す音は速く響かないのです。咽喉の奥まで、膈まで音を呑み込むのが力強く美しく、マイクを用いず遠くまで音が届きます。そのうえ音は明瞭であります。ただし発声の修業を要します。
大島先生は中部日本の解剖学の大家で、私の最も信頼しております医学博士です。
同氏の研究で、老人が骨を休め使用せぬと脆くなることと説明を聞き、足を毎日使うよう早朝一時間、散歩を始めました。(但し晴天の日だけです。)
また西丸医博の頭を使い気を使わぬのお話を承り、この私の健康法を奥深く研究し皆様に役立つよう努力する考えを強めました。
頭を使って気を使うの一音です。また私は膈の体操即膈膜の上下動を膈の同好の士に勧め、腹中の血液を心臓へ送ることを御勧めして皆様と共に健康の一生をおくることを願っております。
以上三ヶ条は必ず効果ありと信じます。ただ実行あるのみです。

昭和48年年賀広告

恒例の年賀広告を新年号にて掲載させていただきます。お申し込み下さい。
〔ラジオ、テレビの新番組組〕
◎ラジオ(午前七時)
▽一月一日(午前七時) 翁(観世流) 三笑(金春流)
▽一月二日 一調・独吟
▽一月三日 東西狂言「宝の徳」
〔附子〕
◎教育テレビ(午前八時)
▽一月一日 観世流能「草子洗小町」梅若六郎
▽一月二日 新春狂言「二人袴」
〔素袍落〕
▽一月三日 観世流能「一角千入」観世元昭 (再)

御料理 あつた 菜軒
本 店 熱田区神戸町三四 電話(67) 868618
神宮東門店 熱田区新宮坂町一 電話(67) 5598(代表)

演 能 楽 観世会定式能 四十七年度第四回
能 世 阿 望 憶 間 茂山千五郎 竹寛 英雄 茂山あきら 竹寛 三男

欧風料理 とんかつ 高亭
名古屋市千種区大久手町4-11 TEL 731-3680

城 割烹・小料理
●熱田神宮能楽殿喫茶部
●住吉小路(中区栄3-10) 241-0248
●電話茶・グリル(愛労評地下ビル) 731-1128